

Oracle® Identity Management

委任管理ガイド

10g (10.1.4.0.1)

部品番号 : B31463-01

2006 年 10 月

Oracle Identity Management 委任管理ガイド, 10g (10.1.4.0.1)

部品番号 : B31463-01

原本名 : Oracle Identity Management Guide to Delegated Administration, 10g (10.1.4.0.1)

原本部品番号 : B15996-01

原本著者 : Don Gosselin

Copyright © 1996, 2006 Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありえます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。



RSA and RC4 are trademarks of RSA Data Security. Portions of Oracle Internet Directory have been licensed by Oracle Corporation from RSA Data Security.

Oracle Directory Manager requires the Java™ Runtime Environment. The Java™ Runtime Environment, Version JRE 1.1.6 ("The Software") is developed by Sun Microsystems, Inc.

2550 Garcia Avenue, Mountain View, California 94043. Copyright (c) 1997 Sun Microsystems, Inc.

This product contains SSLPlus Integration Suite™ version 1.2, from Consensus Development Corporation.

Sun Java System Directory Server and iPlanet are registered trademarks of Sun Microsystems, Inc.

目次

はじめに	xi
------------	----

第 I 部 Oracle Delegated Administration Services

1 Oracle Delegated Administration Services のスタート・ガイド

委任管理の概要	1-2
Oracle Delegated Administration Services の概要	1-2
ディレクトリ・データ管理の委任	1-3
Oracle Delegated Administration Services の動作	1-3
Oracle Delegated Administration Services によるディレクトリへの安全なアクセス方法	1-4
Oracle Delegated Administration Services のインストールと構成	1-5
タスク 1: Oracle Delegated Administration Services のインストール	1-6
タスク 2: Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかの確認	1-6
タスク 3: デフォルト ID 管理レلمの構成	1-7
タスク 4: ユーザー・エントリの構成	1-7
Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント用ログ・ファイルの位置	1-8
Oracle Delegated Administration Services の起動および停止	1-8
コマンドラインを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動および停止	1-8
Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動、停止および再起動	1-9
Identity Management Grid Control プラグインを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動、停止および再起動	1-9

2 Oracle Delegated Administration Services の管理

Oracle Delegated Administration Services を使用したアプリケーションの作成	2-2
ユーザー・エントリを対象とした Oracle Delegated Administration Services	2-2
グループ・エントリを対象とした Oracle Delegated Administration Services	2-3
既存の Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の構成	2-3
新しい Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の構成	2-4
スタンドアロンの Oracle Delegated Administration Services のインストールの実行	2-4
新しい Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の手動配置	2-5
別の DNS ドメインのロード・バランサを使用した Oracle Delegated Administration Services の 構成	2-6
Oracle Delegated Administration Services の複数インスタンスのロード・バランサの構成	2-6
レプリケート環境での Oracle Delegated Administration Services の構成	2-6

第 II 部 Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソール

3 Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの使用方法

セルフ・サービス・コンソールのスタート・ガイド	3-2
Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの起動と停止	3-2
Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールへのログイン	3-2
セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索	3-2
セルフ・サービス・コンソールを使用したユーザー・エントリの検索	3-3
セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索	3-3
拡張検索の実行	3-3

4 Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールでのプロフィールの管理

プロフィールの表示	4-2
プロフィールの編集	4-2
パスワードおよびパスワード・ヒントの変更	4-2
パスワードを忘れた場合の再設定	4-3
組織図の表示	4-4
タイムゾーン設定の変更	4-4
各自のリソース情報の管理	4-4
リソース・アクセス情報の作成	4-5
リソース・アクセス情報の変更	4-5
リソース・アクセス情報の削除	4-5

5 Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールでのユーザーおよびグループの管理

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの概要	5-2
ID 管理レームの管理	5-3
ID 管理レームの構成	5-3
レームでのエントリ用の親 DN の構成	5-4
ID 管理レームの追加作成	5-5
追加された ID 管理レームの構成設定の表示	5-5
ユーザー・エントリの管理	5-5
ユーザー・エントリの構成	5-6
ユーザー・エントリの表示	5-8
ユーザー・エントリの作成	5-8
ユーザー・エントリの変更	5-9
ユーザー・エントリの削除	5-10
ユーザーのバルク管理	5-10
ユーザーへの権限の割当て	5-10
ユーザー・パスワードの変更	5-11
追加のパスワード・リセット検証質問の指定	5-11
グループ・エントリの管理	5-12
グループ・エントリの表示	5-12
グループ・エントリの作成	5-12
グループ・エントリの変更	5-12
グループ・エントリの削除	5-13
グループへの権限の割当て	5-13

サービスの管理	5-13
サービスおよび委任管理の概要	5-14
サービス・プロパティの変更	5-14
サービス受信者に関するサブスクリプション情報の変更	5-15
アカウントの管理	5-16
ユーザー・アカウントのロック解除	5-16
ユーザー・アカウントの有効化	5-16
ユーザー・アカウントの無効化	5-17
リソース情報の管理	5-17
新しいリソース・タイプの指定	5-17
リソース・タイプの変更	5-18
リソース・タイプの削除	5-18
デフォルトのリソース・アクセス情報の構成	5-18

第 III 部 付録

A Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールのユーザー・インタフェースの要素

セルフ・サービス・コンソールのウィンドウおよびフィールド	A-2
属性の追加 / 編集	A-4
拡張検索	A-6
すべてのオブジェクト・クラス	A-6
アプリケーション属性	A-6
アプリケーション・プロビジョニング	A-10
アプリケーション・レベルの診断設定	A-10
グループへの権限の割当て	A-11
ユーザーへの権限の割当て	A-12
バルク・ユーザー管理	A-12
アプリケーション・パスワードの変更	A-13
属性カテゴリの構成	A-13
ロールの構成	A-13
検索表列の構成	A-13
ユーザー属性の構成	A-13
ユーザー・オブジェクト・クラスの構成	A-13
追加の個人情報の確認	A-14
削除の確認	A-14
カテゴリの作成	A-14
グループの作成	A-14
ID 管理レールの作成	A-16
リソースの作成	A-16
リソース・タイプの作成	A-17
ユーザーの作成	A-18
カテゴリの削除	A-18
リソースの削除	A-18
ユーザーの削除	A-18
ユーザーの無効化	A-18

カテゴリの編集	A-18
グループの編集	A-19
プロフィールの編集	A-19
リソースの編集	A-19
サービスの編集	A-19
サービス受信者の編集	A-19
サブスクリプションの編集	A-19
ユーザーの編集	A-19
属性の編集	A-20
ユーザーの有効化	A-20
一般プロビジョニング	A-20
ID 管理レルム構成	A-21
ID 管理レルム	A-23
デフォルトの管理: 属性	A-23
デフォルトの管理: アプリケーションの選択	A-23
グループの管理	A-23
パスワードの管理	A-23
Oracle Application Server Single Sign-On	A-23
順序カテゴリ	A-24
組織図	A-24
プリファレンス	A-24
プロビジョニング確認	A-24
プロビジョニング検索	A-24
Single Sign-On パスワードのリセット	A-25
SSO パスワードのリセット	A-25
リソースのアクセス情報	A-25
検索と選択	A-25
グループの検索	A-25
ユーザーの検索	A-25
サービス	A-26
セッション・レベルの診断設定	A-26
タイムゾーンの設定	A-26
ユーザーのロック解除	A-26
グループの表示	A-26
ID 管理レルムの表示	A-26
プロフィールの表示	A-26
ユーザーの表示	A-26

B Oracle Delegated Administration Services に関するトラブルシューティング

ログ・ファイルの分析	B-2
Oracle Delegated Administration Services のログ	B-2
Oracle Containers for J2EE のログ	B-2
Oracle HTTP Server のログ	B-2
OPMN のログ	B-3
デバッグの有効化	B-3
セルフ・サービス・コンソールに関する問題の診断	B-4
アプリケーションの診断設定およびロギング設定の表示と構成	B-4

セッション・レベルの診断設定の表示と構成	B-5
ユニット・レベルの診断設定の構成	B-5
ログインに関する問題の診断	B-6
ユーザーがパスワードを変更するよう複数回要求される問題	B-7
ユーザー・エントリの欠落	B-7
エラー・メッセージの解釈	B-7
サービス・ユニットに関する問題の診断	B-8
ポップアップ・ウィンドウのブロックへの対応	B-8
ドメイン間起動の問題の解決策	B-8
SSO ログイン問題に関するトラブルシューティング	B-8
その他の問題	B-9

用語集

索引

図一覧

1-1	ホスティングされた環境での管理レベル	1-3
1-2	Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント間の情報のフロー	1-4
1-3	Oracle Delegated Administration Services でのプロキシ・ユーザー機能の一元化	1-5
5-1	Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールと Oracle Delegated Administration Services との相互作用	5-2

表一覧

1-1	Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント用ログ・ファイル	1-8
A-1	属性の追加 / 編集ウィンドウ	A-4
A-2	「拡張検索」ウィンドウ	A-6
A-3	Oracle Calendar のユーザー属性	A-6
A-4	Oracle Mail のユーザー属性	A-8
A-5	Oracle Voicemail & Fax のユーザー属性	A-9
A-6	「グループへの権限の割当て」ウィンドウ	A-11
A-7	「ユーザーへの権限の割当て」ウィンドウ	A-12
A-8	「グループの作成」ウィンドウ	A-14
A-9	「ID 管理レルムの作成」ウィンドウ	A-16
A-10	「リソース・タイプの作成」ウィンドウ	A-17
A-11	「一般プロビジョニング」ウィンドウ	A-20
A-12	「ID 管理レルム」ウィンドウ	A-21
A-13	「プロビジョニング検索」ウィンドウ	A-24
B-1	das.properties ファイル内のデバッグ・フラグ	B-3

はじめに

『Oracle Identity Management 委任管理ガイド』では、Oracle Internet Directory の委任管理を実行する方法について説明します。

対象読者

『Oracle Identity Management 委任管理ガイド』は、次のようなタスクを含む、Oracle Internet Directory の委任管理を実行するすべての管理者を対象としています。

- Oracle Delegated Administration Services のインストールと構成
- Oracle Delegated Administration Services の起動および停止
- Oracle Delegated Administration Services を使用したアプリケーションの作成
- Oracle Delegated Administration Services の構成
- Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの使用

このマニュアルを使用するには、UNIX オペレーティング・システムおよび [Lightweight Directory Access Protocol \(LDAP\)](#) について理解している必要があります。また、Oracle Internet Directory の管理方法についても理解している必要があります。Oracle Internet Directory 管理の詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

関連ドキュメント

詳細は、次の Oracle Application Server のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Identity Management インフラストラクチャ管理者ガイド』
- 『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』
- 『Oracle Identity Management 統合ガイド』
- 『Oracle Identity Management アプリケーション開発者ガイド』
- 『Oracle Identity Management ユーザー・リファレンス』

表記規則

このマニュアルでは次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック	イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

第 I 部

Oracle Delegated Administration Services

第 I 部では、Oracle Delegated Administration Services の概念、アーキテクチャおよびコンポーネントについて紹介し、Oracle Delegated Administration Services をインストール、構成および管理する方法について説明します。

第 I 部の章は次のとおりです。

- [第 1 章「Oracle Delegated Administration Services のスタート・ガイド」](#)
- [第 2 章「Oracle Delegated Administration Services の管理」](#)

Oracle Delegated Administration Services の スタート・ガイド

この章では、Oracle Delegated Administration Services について説明します。Oracle Delegated Administration Services は、管理コンソールおよびセルフ・サービス・コンソールを構築するための事前定義済 Web ベース・ユニットで構成されるフレームワークです。委任管理者およびユーザーは、これらのコンソールを使用して、指定したディレクトリ操作を実行できます。

次の項目について説明します。

- [委任管理の概要](#)
- [Oracle Delegated Administration Services の概要](#)
- [Oracle Delegated Administration Services のインストールと構成](#)
- [Oracle Delegated Administration Services の起動および停止](#)

注意： Oracle Delegated Administration Services は、Oracle Internet Directory に格納されている情報の管理のみに使用します。サード・パーティまたは異機種ディレクトリ環境に格納されている情報の管理には、あらゆる ID 管理およびセキュリティ機能を備えた Oracle Access Manager の使用を検討してください。Oracle Access Manager の機能には、Web シングル・サインオン、ユーザーのセルフサービスおよび自己登録、高度なワークフロー機能、レポート作成および監査、ポリシー管理、動的グループ管理、および委任管理があります。

委任管理の概要

委任管理は、Oracle Identity Management インフラストラクチャの重要な機能です。委任管理によって、ユーザー、グループおよびサービスに関するすべてのデータを中央ディレクトリに保存し、そのデータの管理を複数の管理者とエンド・ユーザーに分散できます。この操作は、ユーザー環境における各種のセキュリティ要件に準拠した方法で実行します。

たとえば、企業においてユーザー、グループおよびサービスのすべてのデータを中央ディレクトリに保存しており、ユーザー・データ用に1人の管理者、電子メール・サービス用にもう1人の管理者が必要であるとします。あるいは、Oracle Financials の管理者がユーザー権限を完全に制御する必要があり、Oracle AS Portal の管理者が特定のユーザーまたはグループに関する Web ページを完全に制御する必要があるとします。様々なセキュリティ要件を持つこのような管理者はすべて、Oracle Identity Management インフラストラクチャが提供する委任管理によって、安全でスケーラブルな方法で集中データを管理できます。Oracle Delegated Administration Services を使用すると、次のような権限を委任できます。

- ユーザーおよびグループの作成、編集および削除
- ユーザーおよびグループへの権限の割当て
- サービスおよびアカウントの管理
- Oracle Delegated Administration Services の構成
- Oracle Reports および Oracle Application Server Forms Services のリソース管理

関連資料：委任管理の詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』の Oracle テクノロジ配置のための権限の委任に関する章を参照してください。

Oracle Delegated Administration Services の概要

Oracle Delegated Administration Services は、ユーザーのかわりにディレクトリ操作を実行するために事前定義された Web ベースのユニットのセットです。これにより、ディレクトリ管理者は他の管理者やエンド・ユーザーに対して特定の機能を委任でき、ディレクトリ管理の日常的な作業から解放されます。このサービスによって、ディレクトリ対応アプリケーションに必要な大部分の機能が提供されます。たとえば、ユーザー・エントリの作成、グループ・エントリの作成、エントリの検索、ユーザー・パスワードの変更などがあります。

Oracle Delegated Administration Services を使用して、ディレクトリ内のアプリケーション・データを管理するための独自のツールを開発できます。このツールではなく、Delegated Administration Services をベースとするツールである Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールを使用することもできます。このツールは、Oracle Internet Directory ですぐに使用できる状態で提供されています。

関連項目：第3章「Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの使用方法」

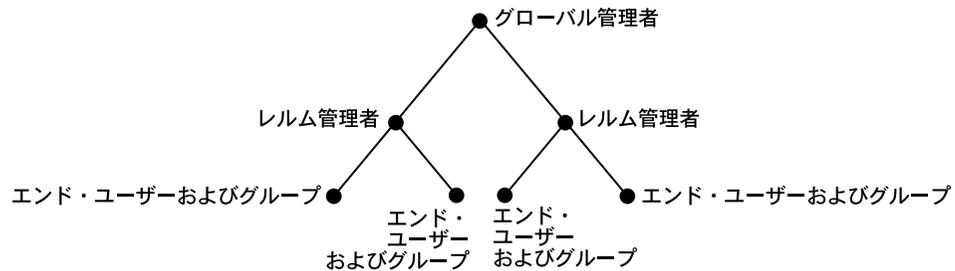
この項では、次の項目について説明します。

- ディレクトリ・データ管理の委任
- Oracle Delegated Administration Services の動作
- Oracle Delegated Administration Services によるディレクトリへの安全なアクセス方法

ディレクトリ・データ管理の委任

Oracle Delegated Administration Services を使用してアプリケーションを構築することにより、それぞれのタイプのユーザーに、特定のレベルのディレクトリ・アクセス権を付与することができます。図 1-1 に、ホスティングされた環境での様々な管理レベルの例を示します。

図 1-1 ホスティングされた環境での管理レベル



ディレクトリ全体の完全な権限を持つグローバル管理者は、ホスティングされた企業を対象としたレلمを作成し管理する権限をレلم管理者に委任できます。これらの管理者は、アプリケーション用パスワード、個人データおよび作業環境を変更する権限をエンド・ユーザーおよびグループに委任できます。このようにして、各タイプのユーザーに、適切なレベルの権限を与えることができます。

Oracle Delegated Administration Services の動作

Oracle Delegated Administration Services は、Oracle Containers for J2EE (OC4J) インスタンスに配置される J2EE アプリケーションです。Oracle Delegated Administration Services により、次の基本タスクが実行されます。

1. クライアントからのリクエストを受け取ります。
2. Oracle Internet Directory のデータを取り出すかまたは更新して、これらのリクエストを処理し、LDAP 結果を HTML ページにコンパイルします。
3. HTML ページをクライアントの Web ブラウザに戻します。

図 1-2 に、Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント間の情報のフローを示します。

図 1-2 Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント間の情報のフロー

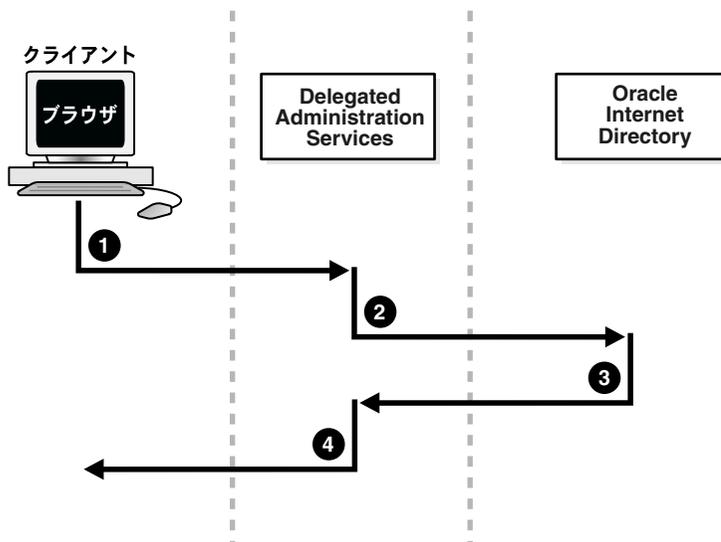


図 1-2 に示す内容は、次のとおりです。

1. ユーザーがブラウザから HTTP を使用して、ディレクトリ問合せが入っているリクエストを Oracle Delegated Administration Services に送信します。
2. Oracle Delegated Administration Services は、リクエストを受け取り、適切なサーブレットを起動します。このサーブレットは、リクエストを解釈し、LDAP を使用してこのリクエストを Oracle Internet Directory に送信します。
3. Oracle Internet Directory は、LDAP 結果を Oracle Delegated Administration Services サーブレットに送信します。
4. Oracle Delegated Administration Services サーブレットは、LDAP 結果を HTML ページにコンパイルし、それをクライアントの Web ブラウザに送信します。

Oracle Delegated Administration Services によるディレクトリへの安全なアクセス方法

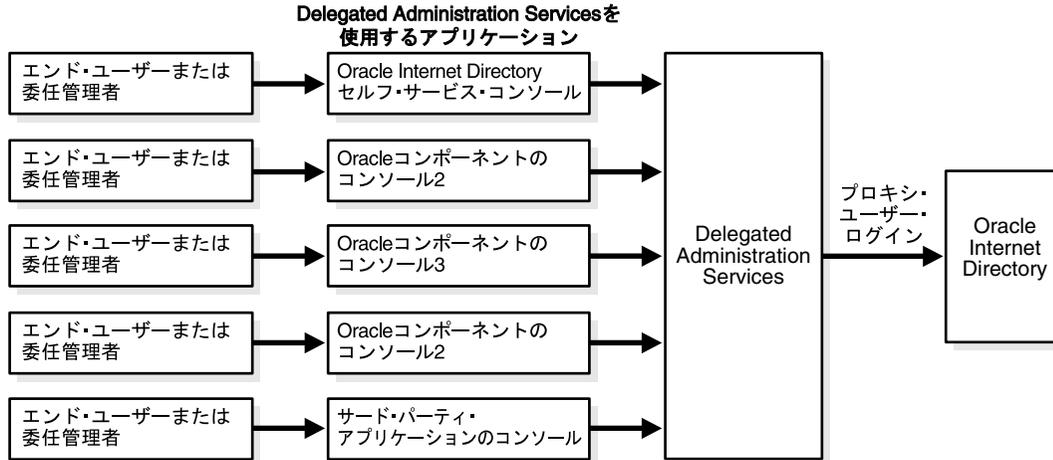
ユーザーが Oracle コンポーネントにログインするとき、このコンポーネントは、ユーザーの代理としてディレクトリから情報（パスワード・ベリファイアなど）を取得する必要がある場合があります。これを行う場合、通常、コンポーネントはプロキシ・ユーザーとしてディレクトリにログインします。プロキシ・ユーザーとは、識別情報をエンド・ユーザーの識別情報に切り替えられるようにする機能です。

ただし、プロキシ・ユーザーとしてディレクトリにログインするコンポーネントの数が増えると、ユーザーがプロキシ・ユーザーとしてディレクトリへ不正にアクセスするリスクも増えるという問題があります。セキュリティ面のこの問題を回避するために、Oracle Delegated Administration Services ではプロキシ・ユーザーによるアクセスを一元化します。

Oracle Delegated Administration Services 環境では、各コンポーネントは、プロキシ・ユーザーとしてディレクトリにログインせず、中央の Oracle Delegated Administration Services にログインします。その後、Oracle Delegated Administration Services がプロキシ・ユーザーとしてディレクトリにログインし、自身の識別情報をエンド・ユーザーの識別情報に切り替え、ユーザーにかわって操作を実行します。プロキシ・ユーザーに、ディレクトリへアクセスするすべてのコンポーネントへのアクセス権を付与するという安全性の低い手法にかわり、この方法によるプロキシ・ユーザーのディレクトリ・アクセスの一元化が提供されます。

図 1-3 に、Oracle Delegated Administration Services 環境でのプロキシ・ユーザー機能を示します。エンド・ユーザーまたは委任管理者は、中央の Oracle Delegated Administration Services にログインします。このログインには、Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソール、OracleAS Portal などの他の Oracle コンポーネントのコンソール、またはサード・パーティのアプリケーションのコンソールを使用します。この後、Oracle Delegated Administration Services は、プロキシ・ユーザーとして Oracle Internet Directory にログインします。

図 1-3 Oracle Delegated Administration Services でのプロキシ・ユーザー機能の一元化



Oracle Delegated Administration Services のインストールと構成

この項では、Oracle Delegated Administration Services のインストールおよび構成方法について説明します。次の項目について説明します。

- [タスク 1: Oracle Delegated Administration Services のインストール](#)
- [タスク 2: Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかの確認](#)
- [タスク 3: デフォルト ID 管理レールの構成](#)
- [タスク 4: ユーザー・エントリの構成](#)
- [Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント用ログ・ファイルの位置](#)

関連項目： Oracle Delegated Administration Services に関するトラブルシューティングを行う方法は、付録 B「[Oracle Delegated Administration Services に関するトラブルシューティング](#)」を参照してください。

タスク 1: Oracle Delegated Administration Services のインストール

デフォルトでは、Oracle Delegated Administration Services は、Oracle Internet Directory 10g (10.1.4.0.1) の一部としてインストールされます。ただし、インストール・プロセス中に、Oracle Delegated Administration Services を単独でインストールするように選択することもできます。この方法では、Oracle Delegated Administration Services の複数のインスタンスを、Oracle Application Server の単一インスタンスと通信する別々のサーバーにインストールできます。

注意： インストール時、Oracle Delegated Administration Services は、OC4J_SECURITY インスタンスに配置されます。Oracle Delegated Administration Services のほとんどの設定は、このインスタンスに依存するため、このインスタンスの名前を変更しないように注意してください。

関連資料：

- ご使用のオペレーティング・システム用の Oracle Application Server のインストール・ドキュメント。
- SSL 構成ツールの使用方法は、『Oracle Application Server 管理者ガイド』を参照してください。このツールを使用すると、一般的な Oracle Application Server トポロジにおいて、インストール後の SSL 構成を簡略化および自動化できます。

タスク 2: Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかの確認

Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールを使用して、Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかを確認する手順は、次のとおりです。

1. 管理する Oracle Enterprise Manager のインフラストラクチャ・インスタンス用のスタンドアロン・コンソールに移動するため、Oracle Application Server インスタンスをホスティングするコンピュータのホスト名と Oracle Enterprise Manager のポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は、1810 ですが、この番号から 1 ずつ増やして最大 1816 までをポート番号として構成できます。
2. Oracle Application Server 管理者の資格証明を使用してログインします。
3. 「ファーム」ページの「**スタンドアロン・インスタンス**」セクションで、適切な Oracle Application Server インスタンスを選択します。
4. 「システム・コンポーネント」表で **OC4J_SECURITY** を見つけます。「ステータス」列に、次のいずれかが表示されます。
 - 上矢印：コンポーネントが稼働していることを示します。
 - 下矢印：コンポーネントが停止していることを示します。
 - ストップウォッチ形状のアイコン：Application Server Control コンソールでコンポーネントのステータスを判断できないことを示します。

Oracle Delegated Administration Services が稼働していない場合は、1-8 ページの「[Oracle Delegated Administration Services の起動および停止](#)」の説明に従って、このサービスを起動します。

関連資料： Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールの使用方法は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

または、『Oracle Identity Management インフラストラクチャ管理者ガイド』で説明されているとおりに Identity Management Grid Control プラグインを使用するか、あるいは次のコマンドライン手順を使用して、Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかを確認することもできます。

手順 1: Oracle HTTP Server が稼働しているかどうかの確認

この確認を行うには、次のコマンドを使用します。

```
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl status
```

関連項目： Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント用ログ・ファイルの位置については、1-8 ページの表 1-1 を参照してください。

手順 2: Oracle Application Server Single Sign-On Server が稼働しているかどうかの確認

任意のブラウザを使用して、次のように入力します。

```
http://host_name:port_number/orasso/
```

host_name は、Oracle HTTP Server が稼働しているコンピュータの名前で、*port_number* は、対応するポート番号です。Oracle HTTP Server のデフォルトのポート番号は、7777 です。Oracle Application Server Single Sign-On のログイン・ウィンドウを使用して、ログインします。

手順 3: Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかの確認

任意のブラウザを使用して、次のように入力します。

```
http://host_name:port_number/oiddas/
```

host_name は、Oracle HTTP Server が稼働しているコンピュータの名前で、*port_number* は、対応するポート番号です。Oracle HTTP Server のデフォルトのポート番号は、7777 です。Oracle Delegated Administration Services のホームページが表示されます。

Oracle Delegated Administration Services が稼働していない場合は、1-8 ページの「[Oracle Delegated Administration Services の起動および停止](#)」の説明に従って、このサービスを起動します。

タスク 3: デフォルト ID 管理レルの構成

このタスクを実行するには、5-3 ページの「[ID 管理レルの構成](#)」の指示に従ってください。

タスク 4: ユーザー・エントリの構成

このタスクを実行するには、5-6 ページの「[ユーザー・エントリの構成](#)」の指示に従ってください。

Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント用ログ・ファイルの位置

表 1-1 に、Oracle Delegated Administration Services 環境に格納されているコンポーネント用のログ・ファイルの位置を示します。

表 1-1 Oracle Delegated Administration Services 環境でのコンポーネント用ログ・ファイル

アプリケーション	ログ・ファイルの位置
Oracle HTTP Server	<code>\$ORACLE_HOME/Apache/Apache/logs</code>
Oracle Containers for J2EE (OC4J)	<code>\$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_SECURITY/log</code>
Oracle Delegated Administration Services	<code>\$ORACLE_HOME/opmn/logs/OC4J~OC4J_SECURITY~default_island~1</code>
Oracle Process Manager and Notification Server	<code>\$ORACLE_HOME/opmn/logs</code>

Oracle Delegated Administration Services の起動および停止

Oracle Delegated Administration Services を起動および停止するには、コマンドライン、Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールまたは Identity Management Grid Control プラグインを使用できます。この項では、次の項目について説明します。

- コマンドラインを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動および停止
- Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動、停止および再起動
- Identity Management Grid Control プラグインを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動、停止および再起動

コマンドラインを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動および停止

コマンドラインを使用して Oracle Delegated Administration Services を起動するには、次のように入力します。

```
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl startproc process-type=OC4J_SECURITY
```

コマンドラインを使用して Oracle Delegated Administration Services を停止するには、次のように入力します。

```
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopproc process-type=OC4J_SECURITY
```

コマンドラインを使用して Oracle Delegated Administration Services を再起動するには、次のように入力します。

```
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl restartproc process-type=OC4J_SECURITY
```

Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動、停止および再起動

Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールから Oracle Delegated Administration Services を起動、停止または再起動する手順は、次のとおりです。

1. 管理する Oracle Enterprise Manager のインフラストラクチャ・インスタンス用のスタンドアロン・コンソールに移動します。これには、Oracle Application Server インスタンスをホスティングするコンピュータのホスト名と Oracle Enterprise Manager のポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は、1810 ですが、この番号から 1 ずつ増やして最大 1816 までをポート番号として構成できます。
2. 「ファーム」ページの「スタンドアロン・インスタンス」セクションで、適切な Oracle Application Server インスタンスを選択します。
3. 「システム・コンポーネント」表の OC4J_SECURITY の横にあるチェック・ボックスを選択し、リスト上部の「起動」、「停止」または「再起動」ボタンをクリックします。

関連資料：

- 1-6 ページの「[タスク 2: Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかの確認](#)」。
- Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールの使用方法は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

Identity Management Grid Control プラグインを使用した Oracle Delegated Administration Services の起動、停止および再起動

Identity Management Grid Control プラグインを使用して Oracle Delegated Administration Services を起動、停止および再起動することもできます。Identity Management Grid Control プラグインの使用の詳細は、『Oracle Identity Management インフラストラクチャ管理者ガイド』を参照してください。

Oracle Delegated Administration Services の 管理

この章では、Oracle Delegated Administration Services の管理方法について説明します。次の項目について説明します。

- Oracle Delegated Administration Services を使用したアプリケーションの作成
- 既存の Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の構成
- 新しい Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の構成
- 別の DNS ドメインのロード・バランサを使用した Oracle Delegated Administration Services の構成
- Oracle Delegated Administration Services の複数インスタンスのロード・バランサの構成
- レプリケート環境での Oracle Delegated Administration Services の構成

Oracle Delegated Administration Services を使用したアプリケーションの作成

Oracle Internet Directory を使用する Oracle アプリケーションとサード・パーティのセルフ・サービス・アプリケーションのいずれも、Oracle Delegated Administration Services に組み込むことができます。たとえば、Web ポータルを構築している場合、エンド・ユーザーがディレクトリに格納されているアプリケーションのパスワードを変更できるようにするために、Oracle Delegated Administration Services を追加できます。

各ユニットには、ディレクトリ内に格納された対応する URL があります。Oracle Delegated Administration Services のユニットを起動する場合、アプリケーションは、実行時にディレクトリに対応する URL を問い合わせます。

この項では、次の項目について説明します。

- [ユーザー・エントリを対象とした Oracle Delegated Administration Services](#)
- [グループ・エントリを対象とした Oracle Delegated Administration Services](#)

関連資料：『Oracle Internet Directory アプリケーション開発者ガイド』の Oracle Delegated Administration Services の URL API に関する章

ユーザー・エントリを対象とした Oracle Delegated Administration Services

Oracle Delegated Administration Services では、ユーザー・エントリに関する次の操作を実行できます。

- ユーザー・エントリを検索する。
- ユーザー・エントリを作成する。
- パスワードを自動編集する。
- ユーザー・エントリを選択し、編集する。
- ユーザー・エントリを選択し、削除する。
- ユーザー・エントリを選択し、そのユーザーへ権限を割り当てる。
- ログインしたユーザーのプロファイルを表示する。
- 値リスト (LOV) (ユーザーを検索し、選択できるようにするポップアップ・ウィンドウ) を使用する。
- orclguid 属性を URL へ渡して、ユーザーを編集する。この後、エントリが表示されるため、ユーザーは検索を実行する必要がない。
- orclguid 属性を URL へ渡して、ユーザーを削除する。この後、エントリが表示されるため、ユーザーは検索を実行する必要がない。
- orclguid 属性を URL へ渡して、ユーザーに権限を割り当てる。この後、エントリが表示されるため、ユーザーは検索を実行する必要がない。

グループ・エントリを対象とした Oracle Delegated Administration Services

Oracle Delegated Administration Services では、グループ・エントリに関する次の操作を実行できます。

- グループ・エントリを検索する。
- グループ・エントリを作成する。
- グループ・エントリを選択し、編集する。
- グループ・エントリを選択し、削除する。
- グループ・エントリを選択し、そのグループへ権限を割り当てる。
- 値リスト (LOV) (グループを検索し、選択できるようにするポップアップ・ウィンドウ) をグループ化する。
- orclguid 属性を URL へ渡して、グループを編集する。この後、エントリが表示されるため、ユーザーは検索を実行する必要がない。
- orclguid 属性を URL へ渡して、グループを削除する。この後、エントリが表示されるため、ユーザーは検索を実行する必要がない。
- orclguid 属性を URL へ渡して、グループに権限を割り当てる。この後、エントリが表示されるため、ユーザーは検索を実行する必要がない。

既存の Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の構成

Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールを使用して Oracle Identity Management の Oracle ホームで Oracle Delegated Administration Services を構成できます。このためには、Enterprise Manager で次の手順を実行します。

- Oracle Delegated Administration Services の URL の設定
- 適切な権限の設定
- OC4J_SECURITY インスタンスでの Oracle Delegated Administration Services の配置

注意： Oracle Delegated Administration Services を構成する前に、Oracle Application Server Single Sign-On が構成されていることを確認してください。Oracle Application Server Single Sign-On を構成すると、Oracle Delegated Administration Services で必要な mod_osso も構成されます。mod_osso は、OracleAS Single Sign-On Server と通信する Oracle HTTP Server モジュールです。

Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソールを使用して Oracle Delegated Administration Services を構成する手順は、次のとおりです。

1. Application Server Control コンソールのメイン・ページの「**スタンドアロン・インスタンス**」セクションで、管理する Oracle Application Server インスタンスの名前を選択します。選択したインスタンスの Oracle Application Server ホームページが表示されます。
2. 「システム・コンポーネント」表の真上にある「**コンポーネントの構成**」ボタンを選択します。「コンポーネントの選択」ページが表示されます。

注意： 「コンポーネントの構成」ボタンは、Oracle Application Server コンポーネントをインストールしたが構成していない場合のみ使用可能です。

3. **Oracle Delegated Administration Services** を選択し、「**続行**」を選択します。「ログイン」ページが表示されます。

4. ディレクトリのスーパー・ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。デフォルトのユーザー名は `cn=orcladmin` です。
5. 「終了」をクリックして、構成を完了します。
6. 次のようにして Oracle Delegated Administration Services を起動します。
 - a. 「システム・コンポーネント」表の「名前」列で、**OC4J_SECURITY** を選択します。OC4J_SECURITY ページが表示されます。
 - b. 「一般」セクションで「**起動**」ボタンを選択します。

新しい Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の構成

Oracle Delegated Administration Services は、デフォルトの「Identity Management and Metadata Repository」インストール（Oracle Internet Directory、Oracle Delegated Administration Services および OracleAS Single Sign-On が選択されている）の一環として自動的に構成されます。状況によっては、インフラストラクチャが構成されているコンピュータ以外のコンピュータにこのサービスを構成する必要があります。この構成は、Oracle Installer を使用してスタンドアロンの Oracle Delegated Administration Services のインストールを実行するか、または手動で行うことができます。

この項では、次の項目について説明します。

- [スタンドアロンの Oracle Delegated Administration Services のインストールの実行](#)
- [新しい Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の手動配置](#)

スタンドアロンの Oracle Delegated Administration Services のインストールの実行

スタンドアロンの Oracle Delegated Administration Services のインストールを実行するには、Oracle Installer のプロンプトで求められた場合に「Identity Management」インストール・タイプを選択します。構成オプション画面で、「**委任管理サービス**」を選択します。

注意： 同じ Oracle Internet Directory に対して、Oracle Application Server Single Sign-On および Oracle Delegated Administration Services を個別のインストール環境に構成する場合は、最初に OracleAS Single Sign-On を構成してください。これは、Oracle Delegated Administration Services が `mod_osso` に依存するためです。mod_osso は、指し示す Oracle Internet Directory に OracleAS Single Sign-On が構成されていないかぎり、インストール中には設定されません。

関連資料： 詳細は、Oracle Application Server のインストーレーション・ガイドを参照してください。

新しい Oracle ホームでの Oracle Delegated Administration Services の手動配置

新しい Oracle ホームで Oracle Delegated Administration Services を手動で配置する手順は、次のとおりです。

1. 少なくともコア・インストールがコンピュータにインストールされ、そのインストールが既存の Oracle Internet Directory および Oracle Application Server Single Sign-On を指し示していることを確認します。
2. `$ORACLE_HOME/dcm/bin` ディレクトリにナビゲートします。
3. 次のコマンドを使用して、新しいコンポーネントを作成します。


```
dcmctl createcomponent -verbose -debug -ct oc4j -co OC4J_SECURITY
```
4. 次のコマンドを使用して、コンポーネントを起動します。


```
dcmctl start -verbose -debug -co OC4J_SECURITY
```
5. 次のコマンドを使用して、`oiddas.ear` ファイルを配置します。


```
dcmctl deployApplication -debug -verbose -a oiddas -f
$ORACLE_HOME/ldap/das/oiddas.ear -co OC4J_SECURITY
```
6. 次の手順を実行して、環境変数 `LD_LIBRARY_PATH` および `DISPLAY` を `opmn.xml` ファイルに追加します。
 - a. `$ORACLE_HOME/opmn/conf` ディレクトリに移動し、テキスト・エディタで `opmn.xml` を開きます。
 - b. `opmn.xml` ファイルの `OC4J_SECURITY` セクションに次の行を追加します。

UNIX 環境の場合

```
<environment>
<prop name="LD_LIBRARY_PATH" value="%ORACLE_HOME%/lib"/>
</environment>
```

Windows 環境の場合

```
<environment>
<prop name="PATH" value="%ORACLE_HOME%/bin"/>
</environment>
```

次の例の `<environment>` セクションの配置に注目してください。

```
<oc4j maxRetry="3" instanceName="OC4J_DAS" gid="OC4J_SECURITY"
numProcs="1">
<config-file path="/home/ias902/j2ee/OC4J_
DAS/config/server.xml"/>
<oc4j-option value="-properties"/>
<port ajp="3001-3100" jms="3201-3300"
rmi="3101-3200"/>
<environment>
<prop name="LD_LIBRARY_PATH" value="/home/ias902/lib"/>
</environment>
</oc4j>
```

- c. `$ORACLE_HOME/dcm/bin` ディレクトリにナビゲートします。
- d. 次のコマンドを使用して、変更内容をリポジトリに保存します。


```
dcmctl updateconfig -verbose -debug -ct opmn
```
- e. 次のコマンドを使用して、OPMN を再起動します。


```
dcmctl restart -verbose -ct opmn
```
- f. 次のコマンドを使用して、`OC4J_SECURITY` インスタンスを停止し、起動します。


```
dcmctl stop -verbose -debug -ct oc4j -co OC4J_SECURITY
dcmctl start -verbose -debug -ct oc4j -co OC4J_SECURITY
```

- g. Oracle Delegated Administration Services に必要な権限を設定します。Oracle Directory Manager またはコマンドライン・ツールのいずれかを使用してグループを変更します。Oracle Delegated Administration Services が現在配置されている場所に、`uniquemember` として、新しく Oracle Application Server インスタンスの DN を追加します。

```
DN of the group to be modified:
cn=Associated
Mid-tiers,orclApplicationCommonName=DASApp,cn=DAS,cn=Products,cn=OracleContext
```

Oracle Application Server インスタンスの DN は、次のとおりです。

```
orclApplicationCommonName=name of Oracle Application Server instance,cn=IAS
Instances,cn=IAS,cn=Products,
cn=OracleContext
```

`name of Oracle Application Server instance` は、`$ORACLE_HOME/config/ias.properties` から取得されます。

別の DNS ドメインのロード・バランサを使用した Oracle Delegated Administration Services の構成

Oracle Application Server Single Sign-On が個別の中間層ノードに構成される環境で Oracle Delegated Administration Services を構成する場合は、『Oracle Application Server Single Sign-On 管理者ガイド』の高度な配置オプションについての説明に従います。

Oracle Delegated Administration Services の複数インスタンスのロード・バランサの構成

Oracle Delegated Administration Services はステートフル・アプリケーションであるため、Oracle Delegated Administration Services の複数のインスタンスをロード・バランサの背後に配置する場合は、ユーザー体験を常に一貫させるために、セッション・バインディングをサポートするようにロード・バランサを構成する必要があります。セッション・バインディングとは、指定された期間、状態を維持するためにオリジナル・サーバーにバインドされているユーザー・セッションのことをいいます。つまり、各ユーザーのすべてのリクエストが同じ Oracle Delegated Administration Services 中間層にルーティングされるようにロード・バランサを構成する必要があります。

関連資料: 『Oracle Application Server Single Sign-On 管理者ガイド』

レプリケート環境での Oracle Delegated Administration Services の構成

レプリケート環境用に Oracle Delegated Administration Services および Oracle Application Server Single Sign-On を構成する手順は、次のとおりです。

1. `$ORACLE_HOME/config` フォルダに移動し、テキスト・エディタで `ias.properties` ファイルを開きます。
2. `DAS.LaunchSuccess` パラメータに割り当てられた値を、`true` から `false` に変更します。
3. 1-8 ページの「[Oracle Delegated Administration Services の起動および停止](#)」で説明している手順に従って、Oracle Delegated Administration Services を再起動します。

第 II 部

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソール

第 II 部では、ユーザーによる Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの使用方法（エントリの検索方法や各自のプロファイルの管理方法など）について説明します。また、Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールを使用してユーザーとグループを管理する方法についても説明します。

第 II 部の章は次のとおりです。

- [第 3 章「Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの使用方法」](#)
- [第 4 章「Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールでのプロファイルの管理」](#)
- [第 5 章「Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールでのユーザーおよびグループの管理」](#)

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの使用方法

次の項では、Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの使用方法について説明します。

- [セルフ・サービス・コンソールのスタート・ガイド](#)
- [セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索](#)

セルフ・サービス・コンソールのスタート・ガイド

この項では、セルフ・サービス・コンソールを起動、ログインおよび停止する方法について説明します。次の項目について説明します。

- [Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの起動と停止](#)
- [Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールへのログイン](#)

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの起動と停止

セルフ・サービス・コンソールを使用するには、1-8 ページの「[Oracle Delegated Administration Services の起動および停止](#)」で説明している手順に従って、Oracle Delegated Administration Services を起動する必要があります。

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールへのログイン

セルフ・サービス・コンソールにログインする手順は、次のとおりです。

1. セルフ・サービス・コンソールの URL にアクセスします。たとえば、セルフ・サービス・コンソールが `host1.acme.com` にインストールされており、Oracle HTTP Server がポート 7778 上で稼働している場合、セルフ・サービス・コンソールの URL は `http://host1.acme.com:7778/oiddas/` になります。
2. 右上隅の「**ログイン**」を選択します。Oracle Application Server の「シングル・サインオン」ウィンドウが表示されます。
3. 「シングル・サインオン」ウィンドウの「**ユーザー名**」フィールドに、セルフ・サービス・コンソールのユーザー名（`jdoe` など）を入力します。
4. 「**パスワード**」フィールドには、自分のセルフ・サービス・コンソールのパスワードを入力します。
5. ホスティングされた複数の企業が存在するホスティングされた環境の場合は、「**企業**」フィールドが表示されます。それ以外の場合は、表示されません。「**企業**」フィールドが表示された場合は、企業名を入力します。
6. 「**ログイン**」を選択します。

セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索

この項では、セルフ・サービス・コンソールを使用して、ユーザー・エントリとグループ・エントリの検索、拡張検索、および指定したプロビジョニング条件と一致するユーザーの検索を実行する方法について説明します。次の項目について説明します。

- [セルフ・サービス・コンソールを使用したユーザー・エントリの検索](#)
- [セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索](#)
- [拡張検索の実行](#)

関連項目： Oracle Internet Directory に存在するユーザー・エントリがセルフ・サービス・コンソールでの検索時に表示されない場合は、B-7 ページの「[ユーザー・エントリの欠落](#)」を参照してください。

セルフ・サービス・コンソールを使用したユーザー・エントリの検索

ユーザー・エントリを検索する手順は、次のとおりです。

1. Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールで、「**ディレクトリ**」タブを選択した後、「**ユーザー**」を選択します。「**ユーザーの検索**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-25 ページの「**ユーザーの検索**」を参照してください。

2. 「**ユーザーの検索**」フィールドに、次のいずれかの値の最初の数文字を入力します。
 - 電子メール・アドレス
 - 名
 - 姓
 - ユーザー ID

たとえば、Anne Smith を探している場合は、Ann または Smi と入力します。

ディレクトリ内の全ユーザーの一覧を出力するには、フィールドを空白のままにしておきます。

3. 「**実行**」を選択すると、検索結果が表示されます。

セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索

グループ・エントリを検索する手順は、次のとおりです。

1. 「**ディレクトリ**」タブを選択した後、「**グループ**」を選択します。「**グループの検索**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-25 ページの「**グループの検索**」を参照してください。

2. 検索するグループ名の最初の数文字を「**グループ名の検索**」テキスト・ボックスに入力します。

ディレクトリ内の全グループの一覧を出力するには、フィールドを空白のままにしておきます。

3. 「**実行**」を選択すると、入力した条件に一致したエントリが表示されます。

拡張検索の実行

拡張検索を実行する手順は、次のとおりです。

1. 「**ディレクトリ**」タブを選択した後、「**ユーザー**」を選択します。「ユーザー」ページで、「**拡張検索**」をクリックします。「**拡張検索**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-6 ページの「**拡張検索**」を参照してください。

2. ユーザーの検索方法を指定するため、次のオプションのいずれかを選択します。

- すべての条件に一致するユーザーを検索します。
- 任意の条件に一致するユーザーを検索します。

3. 検索する属性ごとに、各属性名の横にあるボックスから次の条件のいずれかを選択します。

- 次に一致する (デフォルト)
- 次に一致しない
- 存在する
- 存在しない
- 次を含む
- 次を含まない
- 次で始まる

- 次で終わる
4. 次の属性のテキスト・ボックスに、検索対象の最初の数文字を入力します。
 - 電子メール・アドレス
 - 名
 - 姓
 - ユーザー ID
 5. 別の検索属性を追加するには、「さらに追加」ボックスから属性名を選択し、「追加」をクリックします。
 6. 「実行」を選択すると、入力した条件に一致したエントリが表示されます。

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・ コンソールでのプロフィールの管理

次の項では、パスワード、写真、タイムゾーン、組織図、リソース・アクセス情報など、個人プロフィール内の要素を管理する方法について説明します。

- [プロフィールの表示](#)
- [プロフィールの編集](#)
- [パスワードおよびパスワード・ヒントの変更](#)
- [パスワードを忘れた場合の再設定](#)
- [組織図の表示](#)
- [タイムゾーン設定の変更](#)
- [各自のリソース情報の管理](#)

プロファイルの表示

プロファイルを表示するには、「**プロファイル**」タブを選択した後、「**プロファイルの表示**」を選択します。「**プロファイルの表示**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-26 ページの「**プロファイルの表示**」を参照してください。

注意：このウィンドウをサーバーの最新情報に更新するには、「**プロファイルのリフレッシュ**」を選択します。ブラウザの「更新」ボタンや「リロード」ボタンは使用しないでください。これらのボタンを使用すると、サーバーの情報ではなく、中間層キャッシュの情報のみで更新されます。

プロファイルの編集

プロファイルを編集する手順は、次のとおりです。

1. 「**プロファイル**」タブを選択した後、「**プロファイルの編集**」を選択します。「**プロファイルの編集**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-19 ページの「**プロファイルの編集**」を参照してください。

2. 変更を加えます。
3. 発行を選択します。

パスワードおよびパスワード・ヒントの変更

セルフ・サービス・コンソールを使用して、OracleAS Single Sign-On およびその他の Oracle コンポーネント用のパスワードを変更できます。OracleAS Single Sign-On 用のパスワードを変更すると、認証に OracleAS Single Sign-On を使用しているすべてのアプリケーション用のパスワードも変更されます。

パスワードを変更するには、「**プロファイル**」タブを選択した後、「**パスワードの管理**」を選択します。「**パスワードの管理**」ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用して、OracleAS Single Sign-On または別の Oracle コンポーネント用のパスワードを変更できます。

このウィンドウについては、A-23 ページの「**パスワードの管理**」を参照してください。

Oracle Application Server Single Sign-On 用のパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「**Single Sign-On のパスワード**」セクションで、「**旧パスワード**」フィールドに現在のパスワードを入力します。
2. 「**新規パスワード**」フィールドに新しいパスワードを入力した後、「**新規パスワードの確認**」フィールドに再度入力して確認します。
3. 「**パスワードのリセット**」セクションの「**パスワード・リセットのヒント**」フィールドに、母親の旧姓などの質問を入力します。後でパスワードを忘れた場合は、この質問に回答することになります。正しく回答すると、パスワードが伝えられます。
4. 「**パスワード・リセットのヒントの回答**」フィールドに、直前のフィールドに入力したヒントに対する回答を入力します。
5. 発行を選択します。

注意：「**パスワード・リセットのヒントの回答**」フィールドに、パスワードのヒントに対する回答を入力する場合、入力したとおりに正確に覚えてください。余分な空白、ハイフンの数、または大文字と小文字の使用などになんらかの違いがあると、ヒントの回答と保存されている回答が一致しなくなります。

Oracle Application Server Single Sign-On に対しては使用可能になっていない別の Oracle コンポーネント用のパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「アプリケーション・パスワード」セクションで、新規パスワードを指定する Oracle コンポーネントを選択します。
2. 「パスワードの更新」を選択します。「アプリケーション・パスワードの変更」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-13 ページの「アプリケーション・パスワードの変更」を参照してください。
3. 「新規パスワード」フィールドに新しいパスワードを入力した後、「新規パスワードの確認」フィールドに再度入力して確認します。
4. **発行**を選択します。

パスワードを忘れた場合の再設定

パスワードを忘れた場合は、再設定できます。セキュリティ上の理由から、パスワードを再設定する場合は、最初にパスワードを設定したときに指定した質問に回答する必要があります。

1. セルフ・サービス・コンソールのホームページで「パスワードを忘れた場合はこちら」を選択します。「[Single Sign-On パスワードのリセット](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-25 ページの「[Single Sign-On パスワードのリセット](#)」を参照してください。
2. 「識別情報の確認」セクションのフィールドに値を入力します。これらのフィールドはユーザー環境に固有で、管理者によって構成されます。企業名も入力する必要があります。
3. 「次へ」を選択します。「追加の個人情報の確認」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-14 ページの「追加の個人情報の確認」を参照してください。
4. 4-2 ページの「パスワードおよびパスワード・ヒントの変更」でパスワードのヒントを設定した場合、「追加の個人情報の確認」ウィンドウでは、そのヒントに基づいた質問が行われます。指定したパスワードのヒントに対する回答を入力します。
パスワードのヒントを事前に設定していない場合、「追加の個人情報の確認」ウィンドウでは、管理者が設定したその他の個人データを入力するように要求されます。このデータは、ユーザーの識別情報の検証に使用されます。
5. 「次へ」を選択します。「SSO パスワードのリセット」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-25 ページの「SSO パスワードのリセット」を参照してください。
6. 「新規パスワード」フィールドに新しいパスワードを入力した後、「新規パスワードの確認」フィールドに再度入力して確認します。
7. **発行**を選択します。

組織図の表示

セルフ・サービス・コンソールには、組織の階層を表示する組織図が含まれています。階層は、各従業員の管理者および役職名に従って自動的に作成されます。

組織図を表示するには、「[プロフィール](#)」タブを選択した後、「[組織図の表示](#)」を選択します。組織の階層内にある別の従業員を見つける手順は、次のとおりです。

1. 3-2 ページの「[セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索](#)」で説明している手順に従って、従業員を検索します。
2. 従業員の「[役職名](#)」リンクをクリックして、「[組織図](#)」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-24 ページの「[組織図](#)」を参照してください。

組織図は、各管理者の下にあるエントリを開いたり閉じたりできる表で表示されます。組織図には、次のエントリがあります。

- 現在選択されている従業員の上司であるすべての管理者
- 現在選択されている従業員と同等のすべての従業員
- 現在選択されている従業員の部下であるすべての従業員

組織図の従業員名をクリックすると、その従業員のプロフィールを表示できます。また、従業員の「[役職名](#)」リンクをクリックすると、組織階層をナビゲートできます。

タイムゾーン設定の変更

タイムゾーン設定を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「[プロフィール](#)」タブを選択した後、「[タイムゾーンの変更](#)」を選択します。「[タイムゾーンの設定](#)」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-26 ページの「[タイムゾーンの設定](#)」を参照してください。

2. 「[タイムゾーンの設定](#)」ウィンドウで、新しいタイムゾーンを選択した後、**発行**を選択します。

各自のリソース情報の管理

Oracle コンポーネントの中には、ユーザーのリクエストを実行するために、様々なリポジトリおよびサービスからデータを収集するものがあります。データを収集するために、これらのコンポーネントでは次の情報が必要です。

- データの収集元となるリソースのタイプを識別する情報。たとえば、Oracle データベースなどです。これは、リソース・タイプ情報と呼ばれます。
- リソースに対するユーザーの接続および認証に関する情報。これは、リソース・アクセス情報と呼ばれます。

セルフ・サービス・コンソールを使用して、リソース・アクセス情報を作成、変更および削除できます。この項の項目は次のとおりです。

- [リソース・アクセス情報の作成](#)
- [リソース・アクセス情報の変更](#)
- [リソース・アクセス情報の削除](#)

注意： この項の「[プリファレンス](#)」リンクは、管理者がユーザーのリソース・アクセス情報を作成した場合のみ表示されます。

自分のリソース・アクセス情報を管理できるのは、管理者がリソース・タイプを指定した場合のみです。リソース・タイプが指定されている場合、「[プリファレンス](#)」リンクが表示されません。

リソース・アクセス情報の作成

リソース・アクセス情報を指定する手順は、次のとおりです。

1. 「**プロファイル**」タブ・ページを選択した後、「**プリファレンス**」を選択します。
2. 「**作成**」を選択します。「**リソースの作成**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-16 ページの「**リソースの作成**」を参照してください。
3. 「**リソース名**」フィールドで、リソース名、またはコンポーネントによってアクセスされるサービス名を指定します。
4. 「**リソース・タイプ**」リストで、アクセスされるリソースのタイプを選択します。デフォルトのオプションは次のとおりです。
 - **OracleDB:** Oracle Database 10g
 - **ExpressPDS:** Oracle Express のプラグガブル・データ・ソース
 - **JDBCPS:** Java Database Connectivity のプラグガブル・データ・ソースその他のリソース・タイプは、管理者が指定したとおりに、このリストに表示されます。
5. 「**次へ**」を選択します。「**リソースのアクセス情報**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-25 ページの「**リソースのアクセス情報**」を参照してください。
6. リソース・アクセス情報ウィンドウで、適切な情報を入力します。
7. **発行**を選択します。

リソース・アクセス情報の変更

リソース・アクセス情報を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「**プロファイル**」タブ・ページを選択した後、「**プリファレンス**」を選択します。
2. 情報を変更するリソースを選択し、「**編集**」を選択します。「**リソースの編集**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-19 ページの「**リソースの編集**」を参照してください。
3. 「**リソースの編集**」ウィンドウで、適切な情報を入力します。
4. **発行**を選択します。

リソース・アクセス情報の削除

リソース・アクセス情報を削除する手順は、次のとおりです。

1. 「**プロファイル**」タブ・ページを選択した後、「**プリファレンス**」を選択します。
2. 情報を削除するリソースを選択します。
3. 「**削除**」を選択します。「**リソースの削除**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-18 ページの「**リソースの削除**」を参照してください。
4. 「**はい**」をクリックしてリソースを削除するか、「**いいえ**」をクリックして「**プリファレンス**」ページに戻ります。

関連資料: リソース情報については、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』の「ディレクトリの概念およびアーキテクチャ」の「リソース情報」を参照してください。

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールでのユーザーおよびグループの管理

次の項では、Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールを使用してユーザーとグループを管理する方法について説明します。

- [Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの概要](#)
- [ID 管理レールの管理](#)
- [ユーザー・エントリの管理](#)
- [グループ・エントリの管理](#)
- [サービスの管理](#)
- [アカウントの管理](#)
- [リソース情報の管理](#)

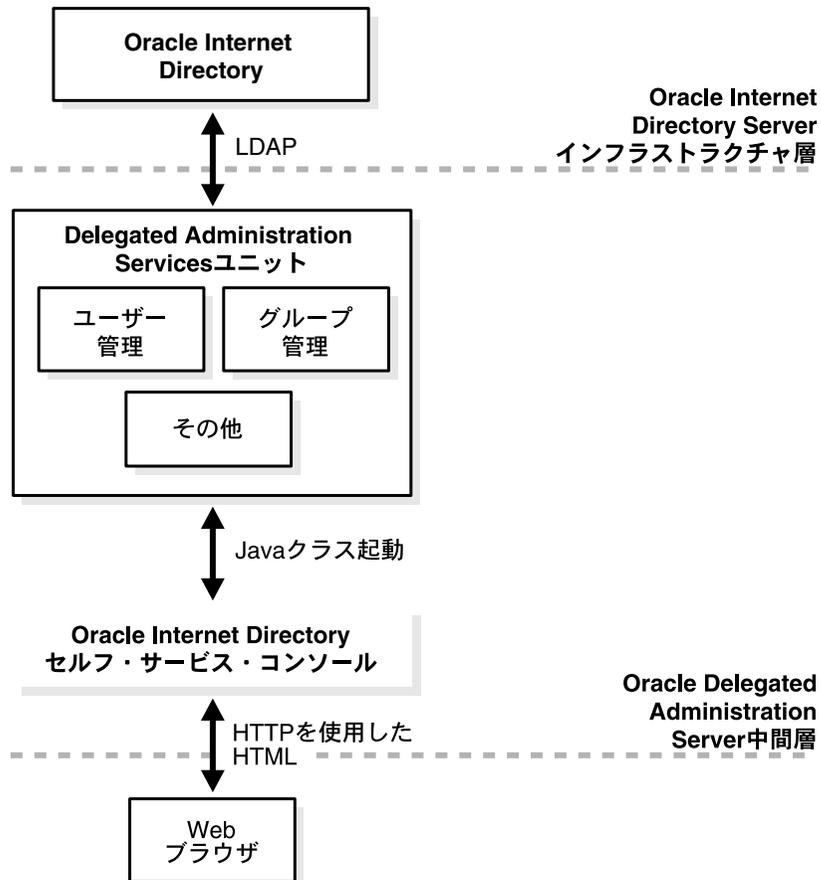
関連資料： Oracle Internet Directory プロビジョニング・コンソールでのプロビジョニング方法の詳細は、『Oracle Identity Management 統合ガイド』を参照してください。

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの概要

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールによって、管理者権限を複数の管理者およびエンド・ユーザーに委任することができます。Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールは、Oracle Delegated Administration Services を使用して作成された既製のスタンドアロン・アプリケーションです。ディレクトリ内のデータを管理するための単一のグラフィカル・インタフェースを委任管理者とエンド・ユーザーに提供します。

図 5-1 に、セルフ・サービス・コンソールと Oracle Delegated Administration Services の相互作用を示します。

図 5-1 Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールと Oracle Delegated Administration Services との相互作用



ID 管理レールの管理

この項では、セルフ・サービス・コンソールを使用して、レールの構成、レール構成の変更、および追加レールの作成を行う方法について説明します。次の項目について説明します。

- ID 管理レールの構成
- レールでのエントリ用の親 DN の構成
- ID 管理レールの追加作成
- 追加された ID 管理レールの構成設定の表示

ID 管理レールの構成

適切な管理権限を所有している場合は、ID 管理レールに対して次の項目を指定できます。

- ログイン時にユーザーが自己識別に使用する属性。
- ユーザー検索ベースおよびグループ検索ベースのルート・エントリ（ユーザーおよびグループ用のエントリを含むディレクトリ情報ツリー内の位置情報）。
- ユーザー作成ベースおよびグループ作成ベース用のルート・エントリ（ユーザーおよびグループが作成された DIT 内の位置情報）。これは、ユーザー検索ベースと同じか、またはユーザー検索ベース下の位置情報の可能性があります。
- レールと製品ロゴの表示。

注意：ID 管理レールの変更は、現在管理者としてログインしているレールに対してのみ有効です。つまり、あるレールに対する変更は、他のレールに自動的に伝播されません。

ID 管理レールを構成する手順は、次のとおりです。

1. 構成するレールの管理者アカウントを使用してログインします。
2. 「構成」タブを選択した後、「ID 管理レール」を選択します。「ID 管理レール構成」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-21 ページの「ID 管理レール構成」を参照してください。
3. 「ID 管理レール」ウィンドウの各種フィールドに値を入力します。
4. 「発行」を選択して変更を保存します。

注意：「ユーザー検索ベース」フィールドには複数の値を入力できますが、パフォーマンスが低下することがあります。

レールでのエンリ用の親 DN の構成

エンリ用に 1 つ以上の親 DN をレールに指定できます。複数指定した場合は、委任管理者が新規ユーザー・エンリの配置先の親 DN を選択できます。

親 DN を指定する方法は 2 通りあります。ユーザー作成ベースに値を指定する方法と組織単位 (ou) 属性に値を指定する方法です。それぞれに異なる値セットを指定した場合は、ou 属性が優先します。

注意：ユーザー作成ベースまたは組織単位に新しい値を追加する場合は、コンテナが Oracle Internet Directory に存在すること、アクセス制御が適切に構成されていることを確認してください。ユーザー作成ベースまたは組織単位のアクセス制御を設定する方法は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

「ユーザー作成ベース」の値によって親 DN を指定する手順は、次のとおりです。

1. 「構成」タブを選択した後、「ID 管理レール」を選択します。「ID 管理レール構成」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-21 ページの「ID 管理レール構成」を参照してください。
2. 「ユーザー作成ベース」フィールドに 1 つ以上の DN を入力します (1 行に 1 つの DN を入力します)。

3. 「発行」を選択します。

また、組織単位 (ou) 属性に値を設定することによっても、親 DN を指定できます。この場合は、委任管理者がユーザー・エンリの配置先の組織単位を選択できます。この方法で親 DN を指定する手順は、次のとおりです。

1. 「構成」タブを選択し、「ユーザー・エンリ」を選択します。「ユーザー・オブジェクト・クラスの構成」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-13 ページの「ユーザー・オブジェクト・クラスの構成」を参照してください。
2. 「次へ」を選択します。「ユーザー属性の構成」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-13 ページの「ユーザー属性の構成」を参照してください。
3. 「新規属性の追加」を選択します。「属性の追加 / 編集」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-4 ページの「属性の追加 / 編集」を参照してください。
4. 「新規属性の追加」ウィンドウで、「ディレクトリ属性名」リストから ou 属性を選択します。
5. 「UI タイプ」リストから「事前定義リスト」を選択します。
6. 「LOV 値」フィールドに、親 DN の表示名を入力してセミコロン (;) を 3 つ続け、その後 DN を入力します。

たとえば、次のように入力します。

```
Sales;;;cn=users,dc=us,dc=my_company,dc=com
HR;;;cn=groups,dc=us,dc=my_company,dc=com
```

この例に従って、ユーザー・エンリの配置先の組織単位を選択する場合、委任管理者は、Sales および HR を表示しているリストから選択します。

親 DN は、別の行に別の親 DN を指定して追加できます。

7. 「完了」を選択します。

ID 管理レルムの追加作成

管理権限を所有している場合は、次のように ID 管理レルム用にエントリを作成できます。

1. 「構成」タブを選択します。

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの右上にある「レルムの管理」アイコンを選択します。「ID 管理レルム」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-23 ページの「ID 管理レルム」を参照してください。

2. 「ID 管理レルム」ウィンドウで「作成」を選択します。「ID 管理レルムの作成」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-16 ページの「ID 管理レルムの作成」を参照してください。

3. 「ID 管理レルムの作成」ウィンドウのフィールドに該当する値を入力します。
4. 「発行」を選択します。

追加された ID 管理レルムの構成設定の表示

ID 管理レルムの構成設定を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「構成」タブを選択します。

2. セルフ・サービス・コンソールの右上にある「レルムの管理」アイコンを選択します。「ID 管理レルム」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-23 ページの「ID 管理レルム」を参照してください。

3. 「ID 管理レルム」ウィンドウで、「ID 管理レルムの検索」フィールドに、表示対象のエントリを含むレルムの名前のすべてまたは一部を入力し、「実行」を選択します。検索条件に一致したレルムが一覧表示されます。

4. 検索結果の一覧から、表示対象のレルムを選択した後、「表示」を選択します。構成設定を表示できる「ID 管理レルムの表示」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-26 ページの「ID 管理レルムの表示」を参照してください。

ユーザー・エントリの管理

この項では、セルフ・サービス・コンソールを使用してユーザー・エントリを管理する方法について説明します。次の項目について説明します。

- [ユーザー・エントリの構成](#)
- [ユーザー・エントリの表示](#)
- [ユーザー・エントリの作成](#)
- [ユーザー・エントリの変更](#)
- [ユーザー・エントリの削除](#)
- [ユーザーのバルク管理](#)
- [ユーザーへの権限の割当て](#)
- [ユーザー・パスワードの変更](#)
- [追加のパスワード・リセット検証質問の指定](#)

ユーザー・エントリの構成

ユーザー・エントリの作成または編集時に、基本情報、パスワード、写真などの各種カテゴリが、それぞれの属性セットとともにセルフ・サービス・コンソールに表示されます。コンソールに表示するカテゴリ、表示方法および対応する属性を指定できます。

具体的には、セルフ・サービス・コンソールを使用して、次のことを実行できます。

- ディレクトリ内にあるオブジェクト・クラスから、ユーザー・エントリと関連付けるオブジェクト・クラスを選択し、これらのオブジェクト・クラスを追加および変更する。
- ユーザーが追加または変更できる属性のカテゴリを指定する。
- セルフ・サービス・コンソールによるこれらのカテゴリおよび属性の表示方法をカスタマイズする。

関連資料： Oracle Internet Directory のオブジェクト・クラスおよび属性の管理方法は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザー・エントリを構成する手順は、次のとおりです。

1. 「**構成**」タブを選択し、「**ユーザー・エントリ**」を選択します。ユーザー・エントリに関連付けられている既存のオブジェクト・クラスを示す「**ユーザー・オブジェクト・クラスの構成**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-13 ページの「**ユーザー・オブジェクト・クラスの構成**」を参照してください。

2. ユーザー・エントリ用にオブジェクト・クラスを追加する手順は、次のとおりです。
 - a. 「ユーザー・オブジェクト・クラスの構成」ウィンドウで「**オブジェクト・クラスの追加**」を選択します。「**すべてのオブジェクト・クラス**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-6 ページの「**すべてのオブジェクト・クラス**」を参照してください。
 - b. 追加するオブジェクト・クラスをリストから選択し、「**追加**」を選択します。「ユーザー・オブジェクト・クラスの構成」ウィンドウに戻ります。選択したオブジェクト・クラスがユーザー・エントリ用のオブジェクト・クラスとして表示されます。
 - c. さらにオブジェクト・クラスを追加する場合は、前述の手順を繰り返します。次の手順に進む場合は、「**次へ**」を選択して「**ユーザー属性の構成**」ウィンドウを表示します。
このウィンドウについては、A-13 ページの「**ユーザー属性の構成**」を参照してください。

3. 「ユーザー属性の構成」ウィンドウには、5-6 ページの手順 2 で指定したオブジェクト・クラスの属性のすべてではなく、一部が表示されます。これらのオブジェクト・クラスに属する属性は他にもあります。次の手順を実行して、必要に応じてその他の属性を追加できます。属性の表示方法の変更および属性の削除も実行できます。

ユーザー・エントリに属性を追加する手順は、次のとおりです。

- a. 「ユーザー属性の構成」ウィンドウで「**新規属性の追加**」を選択します。「**属性の追加 / 編集**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-4 ページの「**属性の追加 / 編集**」を参照してください。
- b. 「新規属性の追加」ウィンドウのフィールドに値を入力します。
- c. 「**完了**」を選択します。「ユーザー属性の構成」ウィンドウに戻ります。選択した属性が属性リストに示されます。
- d. さらに属性を追加する場合は、前述の手順を繰り返します。

属性の表示を変更する手順は、次のとおりです。

- a. 「ユーザー属性の構成」ウィンドウの「**ディレクトリ属性名**」列で変更対象の属性を選択した後、「**編集**」を選択します。「**属性の編集**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-20 ページの「**属性の編集**」を参照してください。
- b. 「属性の編集」ウィンドウのフィールドに値を入力します。
- c. 「完了」を選択します。「ユーザー属性の構成」ウィンドウに戻ります。構成した属性が「ディレクトリ属性名」リストに反映されています。
- d. さらに属性を構成または変更する場合は、前述の手順を繰り返します。

ユーザー・エントリの属性を削除する場合は、「ユーザー属性の構成」ウィンドウの「**ディレクトリ属性名**」リストから構成対象の属性を選択した後、「**削除**」を選択します。

4. カテゴリの表示をカスタマイズする場合は、「ユーザー属性の構成」ウィンドウで「**次へ**」を選択して「**属性カテゴリの構成**」ウィンドウを表示します。このウィンドウには、既存のカテゴリ、ユーザーに対して表示される名前および各カテゴリの表示順序を示す表が表示されます。

このウィンドウについては、A-13 ページの「**属性カテゴリの構成**」を参照してください。

- a. 新しいカテゴリを追加する場合は、「**作成**」を選択します。「作成」ウィンドウが表示されます。「**UI ラベル**」フィールドに、インタフェースに表示するカテゴリの名前を入力します。
- b. カテゴリの表示名を変更する場合は、「**UI ラベル**」列で、変更対象の各属性のフィールドを編集します。
- c. カテゴリの表示順序を設定する場合は、「**順序カテゴリ**」を選択します。「**順序カテゴリ**」ウィンドウには、指定した各種カテゴリが表示されます。

このウィンドウについては、A-24 ページの「**順序カテゴリ**」を参照してください。

- d. カテゴリごとに属性の表示順序を設定する場合は、カテゴリを選択した後、「**編集**」を選択して「**カテゴリの編集**」ウィンドウを表示します。
このウィンドウについては、A-18 ページの「**カテゴリの編集**」を参照してください。
- e. カテゴリを削除する場合は、カテゴリを選択した後、「**削除**」を選択して「**カテゴリの削除**」ウィンドウを表示します。「**はい**」をクリックしてカテゴリを削除するか、「**いいえ**」をクリックして「属性カテゴリの構成」ページに戻ります。

このウィンドウについては、A-18 ページの「**カテゴリの削除**」を参照してください。

属性カテゴリの構成が完了したら、「**次へ**」を選択して「**検索表列の構成**」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-13 ページの「**検索表列の構成**」を参照してください。

5. ユーザーが検索を実行すると、結果が表に示されます。その表の列の数と見出しを指定できます。検索表の列を構成する手順は、次のとおりです。
 - a. 「検索表列の構成」ウィンドウの「**すべての属性**」ボックスで、検索結果を表す1つ以上の属性を選択します。これらの属性は、検索結果表の列見出しになります。
 - b. 左右の矢印を使用して、「**選択された属性**」ボックスに属性を移動します。
 - c. 「**選択された属性**」ボックスの右側の上下の矢印を使用して、属性を並べ替えます。リストの最初の属性は、検索結果表の左端の列を表します。

検索結果表の構成が完了したら、「**次へ**」を選択して「**ロールの構成**」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-13 ページの「**ロールの構成**」を参照してください。

6. ユーザーにロールの割当てを許可するには、「ロールの構成」ウィンドウの「**ロールの有効化**」カテゴリから「ユーザー管理インタフェースでのロール割当てを有効化します。」を選択します。

ユーザーが他のユーザーに割当て可能なロールを指定できます。

ユーザーが他のユーザーに割当て可能なロールを追加する手順は、次のとおりです。

- a. 「**ロールの追加**」を選択して「検索と選択: ロール」ウィンドウを表示します。
- b. 追加する管理者グループの名前の最初の数文字を「**次の文字で始まるグループ名**」フィールドに入力します。
- c. 検索結果から追加対象の管理者グループの名前を選択した後、「**選択**」を選択します。「ロールの構成」ウィンドウに戻ります。選択した管理者グループが「ロール」リストに示されます。

ロールを削除するには、表からロールを選択した後、「**削除**」を選択します。

7. ユーザー・エントリの構成が完了したら、「**終了**」を選択します。

ユーザー・エントリの表示

ユーザー・エントリを表示する手順は、次のとおりです。

1. 3-2 ページの「**セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索**」で説明している手順に従って、ユーザー・エントリを検索します。
2. エントリを表示するユーザーを選択した後、「**表示**」ボタンをクリックして「**ユーザーの表示**」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-26 ページの「**ユーザーの表示**」を参照してください。

ユーザー・エントリの作成

ユーザー・エントリを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「**ディレクトリ**」タブを選択した後、「**ユーザー**」を選択します。
2. 「**作成**」を選択して「**ユーザーの作成**」ウィンドウを表示します。
このウィンドウについては、A-18 ページの「**ユーザーの作成**」を参照してください。
3. 「ユーザーの作成」ウィンドウで、適切な情報を入力します。アスタリスク (*) で指定されたフィールドは、必須です。

注意: 「ユーザー ID」フィールドには、空白または "()*+;,;<>¥~&'%?/=^|~ のいずれかの文字を使用することはできません。

リソース・アクセス情報が指定されていない場合は、作成できます。これは、次の手順に従って行います。

- a. 「**リソースのアクセス情報**」セクションで、「**作成**」を選択して「**リソースの作成**」ウィンドウを表示します。
このウィンドウについては、A-16 ページの「**リソースの作成**」を参照してください。
- b. 「**リソース名**」フィールドで、リソース名、またはコンポーネントによってアクセスされるサービス名を指定します。
- c. 「**リソース・タイプ**」リストで、アクセスされるリソースのタイプを選択します。デフォルトのオプションは次のとおりです。

- * **OracleDB:** Oracle Database 10g
- * **ExpressPDS:** Oracle Express のプラグガブル・データ・ソース
- * **JDBCPS:** Java Database Connectivity のプラグガブル・データ・ソース

その他のリソース・タイプは、管理者が指定したとおりに、このリストに表示されません。

- d. 「次へ」を選択します。リソース・アクセス情報ウィンドウが表示されます。
- e. 「リソースのアクセス情報」ウィンドウで、ユーザー名、パスワード、およびユーザーがアクセスするデータベース名を指定します。
- f. すべての情報を正しく入力したことを確認し、「発行」を選択します。

ユーザー・エントリの変更

ユーザー・エントリを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「ディレクトリ」タブを選択し、エントリを変更するユーザーを検索します。
2. エントリを変更するユーザーを選択した後、「編集」を選択して「ユーザーの編集」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-19 ページの「ユーザーの編集」を参照してください。

3. 「ユーザーの編集」ウィンドウで、適切な情報を入力します。アスタリスク (*) で指定されたフィールドは、必須です。リソース・アクセス情報が指定されていない場合は、作成できません。これは、次の手順に従って行います。
 - a. 「リソースのアクセス情報」セクションで、「作成」を選択します。「リソースの作成」ウィンドウが表示されます。
 - b. 「リソース名」フィールドで、リソース名、またはコンポーネントによってアクセスされるサービス名を指定します。
 - c. 「リソース・タイプ」リストで、アクセスされるリソースのタイプを選択します。デフォルトのオプションは次のとおりです。
 - * **OracleDB:** Oracle Database 10g
 - * **ExpressPDS:** Oracle Express のプラグابل・データ・ソース
 - * **JDBCPDS:** Java Database Connectivity のプラグابل・データ・ソース
 その他のリソース・タイプは、管理者が指定したとおりに、このリストに表示されません。
 - d. 「次へ」を選択します。リソース・アクセス情報ウィンドウが表示されます。
 - e. 「リソースのアクセス情報」ウィンドウで、ユーザー名、パスワード、およびユーザーがアクセスするデータベース名を指定します。
 - f. すべての情報を正しく入力したことを確認し、「発行」を選択します。

注意: ユーザー・エントリを編集する権限がない場合、「編集」ボタンは表示されないため、この操作は実行できません。

ユーザー・エントリの削除

ユーザー・エントリを削除する手順は、次のとおりです。

1. 3-2 ページの「セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索」で説明している手順に従って、削除するユーザーを検索します。
2. 削除するユーザーを検索結果表から選択し、「削除」をクリックします。「ユーザーの削除」ウィンドウにより、削除の確認を求められます。
このウィンドウについては、A-18 ページの「ユーザーの削除」を参照してください。
3. 「ユーザーの削除」ウィンドウで、「はい」をクリックしてユーザーを削除するか、「いいえ」をクリックして「ユーザー」ページに戻ります。

ユーザーのバルク管理

LDIF (LDAP Data Interchange Format) ファイルをプロビジョニング・コンソールにアップロードして、バルク・モードでユーザーを作成、編集または削除できます。

バルク・モードでユーザーを作成、編集または削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ディレクトリ」タブを選択した後、「ユーザー」を選択します。
2. 「バルク」を選択して「バルク・ユーザー管理」ウィンドウを表示します。
このウィンドウについては、A-12 ページの「バルク・ユーザー管理」を参照してください。
3. バルク・ユーザー管理ウィンドウで「参照」を選択し、作成、編集または削除するユーザーのデータを含む LDIF ファイルを指定します。
4. 処理に失敗したユーザーを無視するには、「失敗したユーザーの無視」ボックスを選択します。「失敗したユーザーの無視」ボックスを選択すると、失敗の有無にかかわらず、バルク作成プロセスによってユーザーの作成、編集または削除が続けられます。失敗したユーザーは、プロセスの最後にダウンロードできるファイルに記録されます。「失敗したユーザーの無視」ボックスを選択しない場合、ユーザーの処理に最初に失敗した時点で、バルク管理プロセスは終了します。
5. 「OK」を選択します。

ユーザーへの権限の割当て

ユーザーに次の権限を付与できます。

- ユーザーおよびグループの作成、編集および削除
- 他のユーザーおよびグループへの権限の付与

ユーザーの権限を取り消すこともできます。

ユーザーに権限を割り当てる手順は、次のとおりです。

1. 3-2 ページの「セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索」で説明している手順に従って、権限を割り当てるユーザー・エントリを検索します。
2. 検索結果リストから、権限を割り当てるユーザーを選択した後、「権限」を選択します。「ユーザーへの権限の割当て」ウィンドウに権限が一覧表示されます。
このウィンドウについては、A-12 ページの「ユーザーへの権限の割当て」を参照してください。
3. ユーザーに割り当てる権限を選択します。
4. 「発行」を選択します。

注意： ユーザー権限に対する変更は、ユーザーが一度ログアウトし、セルフ・サービス・コンソールに再ログインするまで有効になりません。

ユーザー・パスワードの変更

次の場合、自分以外のユーザーのパスワードを変更できます。

- 必要なアクセス権限を持っている場合。
- userpassword 属性を変更できるように、ユーザー・エントリを構成した場合。変更するユーザー属性を指定する手順は、5-6 ページの「[ユーザー・エントリの構成](#)」を参照してください。

他のユーザーのパスワードを変更するには、5-8 ページの「[ユーザー・エントリの作成](#)」の手順に従ってください。

追加のパスワード・リセット検証質問の指定

セルフ・サービス・コンソールでは、ユーザーはカスタム・パスワード・ヒントを指定できます。ユーザーは、パスワードのリセット前にこのヒントに対して正しく回答する必要があります。また、管理者は、パスワードのリセット前にユーザーが正しく回答する必要のある質問をいくつでも指定できます。

関連項目： 4-2 ページの「[パスワードおよびパスワード・ヒントの変更](#)」

追加のパスワード・リセット検証質問を指定する手順は、次のとおりです。

1. Oracle Directory Manager を使用して、次のタスクを実行します。
 - a. カスタム属性をディレクトリ・スキーマに追加します。パスワード・リセット検証質問ごとに、別々の属性を作成する必要があります。
 - b. 新しい補助オブジェクト・クラスを作成し、直前の手順で作成した、各パスワード・リセット検証質問を表すカスタム属性をその補助オブジェクト・クラスに割り当てます。

関連資料： Oracle Internet Directory のオブジェクト・クラスおよび属性の管理方法は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

2. 手順 1 で作成した新しいオブジェクト・クラスおよび属性を使用可能にするには、「[構成](#)」タブを選択した後、「[ユーザー・エントリ](#)」を選択します。ユーザー・エントリに関連付けられている既存のオブジェクト・クラスを示す「[ユーザー・オブジェクト・クラスの構成](#)」ウィンドウが表示されます。「[ページのリフレッシュ](#)」をクリックすると、新しいオブジェクト・クラスと属性が使用可能になります。

このウィンドウについては、A-13 ページの「[ユーザー・オブジェクト・クラスの構成](#)」を参照してください。

3. 5-6 ページの「[ユーザー・エントリの構成](#)」で説明している手順に従って、新しいオブジェクト・クラスおよび属性を追加します。「ユーザー属性の構成」ウィンドウで、パスワード・リセット検証質問を表す属性ごとに「[表示可能](#)」チェック・ボックスおよび「[パスワードのリセットの検証](#)」チェック・ボックスを選択してください。また、ユーザーが属性を編集できるようにする場合、「[自己編集可能](#)」チェック・ボックスを選択することもできます。

グループ・エントリの管理

この項では、セルフ・サービス・コンソールを使用して、グループ・エントリを作成、変更および削除する方法と、権限をグループに割り当てる方法について説明します。次の項目について説明します。

- [グループ・エントリの表示](#)
- [グループ・エントリの作成](#)
- [グループ・エントリの変更](#)
- [グループ・エントリの削除](#)
- [グループへの権限の割当て](#)

グループ・エントリの表示

グループ・エントリを表示する手順は、次のとおりです。

1. 「ディレクトリ」タブを選択した後、「[グループ](#)」を選択します。
2. 3-3 ページの「[セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索](#)」で説明している手順に従って、表示するグループ・エントリを検索します。
3. 検索結果で、表示するグループ・エントリの名前をクリックします。「[グループの表示](#)」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-26 ページの「[グループの表示](#)」を参照してください。

グループ・エントリの作成

グループ・エントリを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ディレクトリ」タブを選択した後、「[グループ](#)」を選択します。
2. 「[作成](#)」を選択します。「[グループの作成](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-14 ページの「[グループの作成](#)」を参照してください。
3. 「[グループの作成](#)」ウィンドウの各種フィールドに値を入力します。
4. [発行](#)を選択します。

グループ・エントリの変更

グループ・エントリを変更する手順は、次のとおりです。

1. 3-3 ページの「[セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索](#)」で説明している手順に従って、変更するグループ・エントリを検索します。
2. 検索結果から、変更するグループ・エントリを選択します。
3. 「[表示 / 管理](#)」を選択します。「[グループの管理](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-23 ページの「[グループの管理](#)」を参照してください。
4. 「[編集](#)」を選択します。「[グループの編集](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-19 ページの「[グループの編集](#)」を参照してください。
5. 「[グループの編集](#)」ウィンドウで、必要に応じてフィールドを変更します。
6. 「[発行](#)」を選択します。

グループ・エントリの削除

グループ・エントリを削除する手順は、次のとおりです。

1. 3-3 ページの「[セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索](#)」で説明している手順に従って、削除するグループ・エントリを検索します。
2. 検索結果から、エントリを削除するグループを選択します。
3. 「表示 / 管理」を選択します。「[グループの管理](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-23 ページの「[グループの管理](#)」を参照してください。
4. 「グループの管理」ウィンドウで「[削除](#)」を選択します。「[削除の確認](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-14 ページの「[削除の確認](#)」を参照してください。
5. 確認ウィンドウで「はい」または「いいえ」を選択します。

グループへの権限の割当て

次の 1 つ以上の権限をグループに付与できます。

- 新しいユーザーおよびグループの作成、編集および削除
- ユーザーおよびその他のグループへの権限の割当て

グループの権限を取り消すこともできます。

グループに権限を割り当てる手順は、次のとおりです。

1. 3-3 ページの「[セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索](#)」で説明している手順に従って、権限を割り当てるグループ・エントリを検索します。
2. 検索結果から権限を割り当てるグループを選択します。
3. 「[権限の割当て](#)」を選択します。「[グループへの権限の割当て](#)」ウィンドウに権限が一覧表示されます。
このウィンドウについては、A-11 ページの「[グループへの権限の割当て](#)」を参照してください。
4. 「[グループへの権限の割当て](#)」ウィンドウで、グループに割り当てる権限を選択します。
5. 「[発行](#)」を選択します。

サービスの管理

この項では、セルフ・サービス・コンソールを使用して、サービス・プロパティを変更する方法と、サービス受信者のサブスクリプション情報を変更する方法について説明します。次の項目について説明します。

- [サービスおよび委任管理の概要](#)
- [サービス・プロパティの変更](#)
- [サービス受信者に関するサブスクリプション情報の変更](#)

注意：セルフ・サービス・コンソールでカスタム・アプリケーション・サービスを構成または管理することはできません。

サービスおよび委任管理の概要

サービスとは、一貫性のあるタスク・セットを実行する単一のアプリケーションまたはアプリケーションの集まりです。サービスは、サービス・プロバイダにより、サービス受信者と呼ばれる個人またはグループに提供されます。

サービス受信者がサービスにアクセスするには、そのサービスにサブスクライブする必要があります。サブスクリプション・プロセスでは、サブスクライバまたはサービス・プロバイダのいずれかの管理者がサブスクリプション・リストを作成します。このリストには、サービスを使用できるサービス受信ユーザー、およびその期間が指定されます。

サービス受信者自身が、他のサービス受信者にサービスを提供するサービス・プロバイダになることもあります。

セルフ・サービス・コンソールを使用して実行できる管理タスクは、サブスクライバの管理者であるか、またはサービス・プロバイダの管理者であるかによって異なります。サブスクライバの管理者は、次のことを実行できます。

- サブスクライバのエントリの変更。
- サービスのサブスクリプション情報の作成、変更または削除。たとえば、ユーザーがサービスを使用できる期間を指定し、後でその情報を変更または削除できます。
- サブスクリプション・リストの管理。

サービス・プロバイダの管理者は、サブスクライバの管理者のすべてのタスクに加えて、次のことも実行できます。

- サブスクライバのエントリの作成
- アプリケーション・サービス・プロバイダ環境でのアプリケーションおよびサービスのプロビジョニング

サービス・プロパティの変更

サービスの表示名およびネットワーク・アドレスを変更できます。これは、次の手順に従って行います。

1. 「ディレクトリ」タブを選択した後、「サービス」を選択します。使用可能なサービスを示す「サービス」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-26 ページの「サービス」を参照してください。

2. 「サービス」ウィンドウで、プロパティを変更するサービスを選択します。
3. 「サービスの編集」を選択します。「サービスの編集」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-19 ページの「サービスの編集」を参照してください。

4. 「サービスの編集」ウィンドウの変更対象フィールドに値を入力します。
5. 「発行」を選択します。

サービス受信者に関するサブスクリプション情報の変更

サブスクリプション・リストに対しては、ユーザーの追加および削除を実行できます。また、受信の開始日または終了日も変更できます。

サブスクリプション情報を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「**ディレクトリ**」タブを選択した後、「**サービス**」を選択します。使用可能なサービスを示す「**サービス**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-26 ページの「**サービス**」を参照してください。

2. 「サービス」ウィンドウで、プロパティを変更するサービスを選択します。
3. 「**サブスクリプションの編集**」を選択します。「**サブスクリプションの編集**」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-19 ページの「**サブスクリプションの編集**」を参照してください。

4. サブスクリプション情報を変更するサービス受信者を選択します。
5. 「**編集**」を選択します。「**サービス受信者の編集**」ウィンドウが表示されます。このウィンドウについては、A-19 ページの「**サービス受信者の編集**」を参照してください。

6. 「サービス受信者の編集」ウィンドウで変更を行います。
 - a. 「**開始日**」フィールドに、受信者がサービスを使用開始できる日付を指定します。
 - b. 「**終了日**」フィールドに、使用を終了する日付を指定します。

サブスクリプション・リストにユーザーを追加する手順は、次のとおりです。

- a. 「**ユーザーの追加**」を選択します。「**検索と選択**」ウィンドウが表示されます。このウィンドウについては、A-25 ページの「**検索と選択**」を参照してください。
- b. 「検索と選択」ウィンドウでリストに追加するユーザーを検索します。
- c. 検索結果から、追加するユーザーを選択した後、「**選択**」を選択します。「**新規サービス受信者の追加**」ウィンドウに戻ります。追加したユーザーがリストに表示されます。

サブスクリプション・リストからユーザーを削除する場合は、ユーザーを選択した後、「**ユーザーの削除**」を選択します。

7. 「サービス受信者の編集」ウィンドウでの変更が完了したら、「**発行**」を選択します。「**サブスクリプションの編集**」ウィンドウに戻ります。

注意：日付書式は、mm/dd/yyyy です。この書式はカスタマイズできません。

アカウントの管理

この項では、セルフ・サービス・コンソールを使用してユーザー・アカウントをロック解除、有効化または無効化する方法について説明します。次の項目について説明します。

- ユーザー・アカウントのロック解除
- ユーザー・アカウントの有効化
- ユーザー・アカウントの無効化

ユーザー・アカウントのロック解除

ユーザーのアカウントがロックされている場合（指定された期限内にパスワードを変更しなかった場合など）は、ユーザー・パスワードを再設定せずにロック解除できます。これによって、ユーザーに新規パスワードを明示的に知らせる必要がなくなります。かわりに、ユーザーは旧パスワードを使用してログインできます。

ユーザー・アカウントをロック解除する手順は、次のとおりです。

1. 3-2 ページの「セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索」で説明している手順に従って、ロック解除するユーザー・アカウントを検索します。
2. ロック解除するアカウントを選択します。
3. 「**ロック解除**」を選択します。「**ユーザーのロック解除**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-26 ページの「**ユーザーのロック解除**」を参照してください。
4. 「ユーザーのロック解除」ウィンドウにより、ユーザー・アカウントのロック解除の確認を求められます。「はい」をクリックしてユーザー・アカウントをロック解除するか、「いいえ」をクリックして「ユーザー」ページに戻ります。

注意： レルム管理者のアカウントがロックされた場合、Oracle Internet Directory のスーパー・ユーザーは、Oracle Directory Manager を使用してレルム管理者のアカウント・パスワードを変更することで、そのアカウントをロック解除できます。Oracle Directory Manager の使用方法は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザー・アカウントの有効化

ユーザー・アカウントは、一時的に保留されている（無効になっている）場合、有効にできません。これは、次の手順に従って行います。

1. 3-2 ページの「セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索」で説明している手順に従って、有効化するユーザー・アカウントを検索します。
2. 有効にするアカウントを選択します。
3. 「**有効化**」を選択します。「**ユーザーの有効化**」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-20 ページの「**ユーザーの有効化**」を参照してください。
4. ユーザーの有効化ウィンドウにより、ユーザー・アカウントの有効化の確認を求められます。「はい」をクリックしてユーザー・アカウントを有効化するか、「いいえ」をクリックして「ユーザー」ページに戻ります。

ユーザー・アカウントの無効化

ユーザー・アカウントは、一時的に保留する（無効にする）ことができます。これは、次の手順に従って行います。

1. 3-2 ページの「[セルフ・サービス・コンソールを使用したエントリの検索](#)」で説明している手順に従って、無効化するユーザー・アカウントを検索します。
2. 無効にするアカウントを選択します。
3. 「無効化」を選択します。「[ユーザーの無効化](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-18 ページの「[ユーザーの無効化](#)」を参照してください。
4. ユーザーの無効化ウィンドウにより、ユーザー・アカウントの無効化の確認を求められます。「はい」をクリックしてユーザー・アカウントを無効化するか、「いいえ」をクリックして「ユーザー」ページに戻ります。

リソース情報の管理

この項では、セルフ・サービス・コンソールを使用して、新しいリソース・タイプを指定する方法と、デフォルトのリソース・アクセス情報を構成する方法について説明します。次の項目について説明します。

- [新しいリソース・タイプの指定](#)
- [リソース・タイプの変更](#)
- [リソース・タイプの削除](#)
- [デフォルトのリソース・アクセス情報の構成](#)

新しいリソース・タイプの指定

新しいリソース・タイプを指定するには、次の手順を実行します。

1. 「構成」タブを選択し、「プリファレンス」を選択して「[プリファレンス](#)」ウィンドウを表示します。
このウィンドウについては、A-24 ページの「[プリファレンス](#)」を参照してください。
2. 「[リソース・タイプ情報の構成](#)」セクションで、「作成」を選択します。「[リソース・タイプの作成](#)」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-17 ページの「[リソース・タイプの作成](#)」を参照してください。
3. 「[リソース・タイプの作成](#)」ウィンドウで、適切なフィールドに値を入力します。
4. 「[リソース・タイプの作成](#)」ウィンドウで適切な情報をすべて入力したら、「発行」を選択します。「[プリファレンス](#)」ウィンドウに戻ります。指定したリソース・タイプが、「[リソース・タイプ名](#)」列の下に表示されます。

関連資料：リソース情報については、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』の「ディレクトリの概念およびアーキテクチャ」の「リソース情報」を参照してください。

リソース・タイプの変更

リソース・タイプを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「構成」タブを選択し、「プリファレンス」を選択して「プリファレンス」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-24 ページの「プリファレンス」を参照してください。

2. 「プリファレンス」ウィンドウで、「リソース・タイプ情報の構成」セクションまたは「デフォルトのリソース・アクセス情報」セクションのいずれかから情報を変更するリソースを選択し、「編集」を選択します。「リソースの編集」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-19 ページの「リソースの編集」を参照してください。

3. 「リソースの編集」ウィンドウで、適切な情報を変更します。
4. 発行を選択します。

リソース・タイプの削除

リソース・タイプを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「構成」タブを選択し、「プリファレンス」を選択して「プリファレンス」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-24 ページの「プリファレンス」を参照してください。

2. 「プリファレンス」ウィンドウで、「リソース・タイプ情報の構成」セクションまたは「デフォルトのリソース・アクセス情報」セクションのいずれかから削除するリソースを選択し、「削除」を選択します。「リソースの削除」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-18 ページの「リソースの削除」を参照してください。

3. 「はい」をクリックしてリソースを削除するか、「いいえ」をクリックして「プリファレンス」ページに戻ります。

デフォルトのリソース・アクセス情報の構成

ユーザーが多数の場合、ユーザー・エントリごとにリソース・アクセス情報を指定するかわりに、すべてのユーザーが自動的に継承し、共通に使用されるリソースを定義できます。これは、次の手順に従って行います。

1. 「構成」タブを選択し、「プリファレンス」を選択して「プリファレンス」ウィンドウを表示します。

このウィンドウについては、A-24 ページの「プリファレンス」を参照してください。

2. 「デフォルトのリソース・アクセス情報」セクションで、「作成」を選択します。「リソースの作成」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウについては、A-16 ページの「リソースの作成」を参照してください。

3. 「リソース名」フィールドで、リソース名、またはコンポーネントによってアクセスされるサービス名を指定します。
4. 「リソース・タイプ」リストで、アクセスされるリソースのタイプを選択します。デフォルトのオプションは次のとおりです。
 - **OracleDB:** Oracle Database 10g
 - **ExpressPDS:** Oracle Express のプラグガブル・データ・ソース
 - **JDBC PDS:** Java Database Connectivity のプラグガブル・データ・ソースその他のリソース・タイプは、管理者が指定したとおりに、このリストに表示されます。

5. 「次へ」を選択します。「リソースのアクセス情報」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウについては、A-25 ページの「リソースのアクセス情報」を参照してください。
6. 「リソース・アクセス情報」ウィンドウで、各フィールドに適切な情報を入力します。
7. すべての情報を正しく入力したことを確認し、「発行」を選択します。「プリファレンス」ウィンドウに戻ります。指定したデフォルトのリソース・アクセス情報が、「リソース名」列に表示されます。

関連資料：リソース情報については、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』の「ディレクトリの概念およびアーキテクチャ」の「リソース情報」を参照してください。

第 III 部

付録

第 III 部には次の付録が含まれます。

- 付録 A 「Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールのユーザー・インタフェースの要素」
- 付録 B 「Oracle Delegated Administration Services に関するトラブルシューティング」

Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールのユーザー・インタフェースの要素

この付録では、Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの様々なウィンドウ、フィールドおよび制御デバイスについて説明します。

セルフ・サービス・コンソールのウィンドウおよびフィールド

この項では、セルフ・サービス・コンソールのウィンドウおよびフィールドについて説明します。次の項目について説明します。

- 属性の追加 / 編集
- 拡張検索
- すべてのオブジェクト・クラス
- アプリケーション属性
- アプリケーション・プロビジョニング
- アプリケーション・レベルの診断設定
- グループへの権限の割当て
- ユーザーへの権限の割当て
- バルク・ユーザー管理
- アプリケーション・パスワードの変更
- 属性カテゴリの構成
- ロールの構成
- 検索表列の構成
- ユーザー属性の構成
- ユーザー・オブジェクト・クラスの構成
- 追加の個人情報の確認
- 削除の確認
- カテゴリの作成
- グループの作成
- ID管理レールの作成
- リソースの作成
- リソース・タイプの作成
- ユーザーの作成
- カテゴリの削除
- リソースの削除
- ユーザーの削除
- ユーザーの無効化
- カテゴリの編集
- グループの編集
- プロファイルの編集
- リソースの編集
- サービスの編集
- サービス受信者の編集
- サブスクリプションの編集
- ユーザーの編集
- 属性の編集

- ユーザーの有効化
- 一般プロビジョニング
- ID 管理レルム構成
- ID 管理レルム
- デフォルトの管理:属性
- デフォルトの管理:アプリケーションの選択
- グループの管理
- パスワードの管理
- Oracle Application Server Single Sign-On
- 順序カテゴリ
- 組織図
- プリファレンス
- プロビジョニング確認
- プロビジョニング検索
- Single Sign-On パスワードのリセット
- SSO パスワードのリセット
- リソースのアクセス情報
- 検索と選択
- グループの検索
- ユーザーの検索
- サービス
- セッション・レベルの診断設定
- タイムゾーンの設定
- ユーザーのロック解除
- グループの表示
- ID 管理レルムの表示
- プロファイルの表示
- ユーザーの表示

属性の追加 / 編集

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリの属性を追加および編集します。

表 A-1 属性の追加 / 編集ウィンドウ

フィールド	説明
ディレクトリ属性名	属性名（「新規属性の追加」ウィンドウでのみ使用可能）。
UI ラベル	ユーザー・インタフェースに表示する属性に、わかりやすい名前を指定します。たとえば、sn 属性を、インタフェースでは Last Name と表示することができます。
必須	ユーザーの作成および変更時に属性を必須にするかどうかを指定します。インタフェースに表示される必須属性は、フィールドの左にアスタリスク (*) が付いています。このチェック・ボックスを選択しない場合、属性はオプションになります。
表示可能	属性を検索結果に表示させるかどうかを、このチェック・ボックスを選択して指定します。
自己編集可能	エンド・ユーザーが「プロファイルの編集」ウィンドウを使用して、自分のエントリにあるこの属性の値を変更できるようにするかどうかを指定します。
パスワードのリセットの検証	自分のパスワードを忘れたユーザーを検証する際に使用できる 1 つ以上の属性を指定します。
検索可能	デフォルトでは、ユーザーが検索リクエストを入力すると、Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールは cn、firstname、lastname および e-mail 属性に基づいた検索を実行します。検索可能な属性をカスタマイズすることができます。たとえば、追加した属性に基づいて検索を使用可能にする場合、このチェック・ボックスを選択します。検索を可能にする場合は、属性をカタログ化する必要があります。

表 A-1 属性の追加 / 編集ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
UI タイプ	<p>このフィールドに対しインタフェース・タイプを指定します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 単一行テキスト: ユーザーが値を入力するテキスト・フィールド。 ■ 複数行テキスト: ユーザーが複数のテキスト行を入力できるテキスト領域。 ■ 複数行単一値テキスト: ユーザーが Oracle Internet Directory に単一値として格納された複数のテキスト行を入力できるテキスト領域。 ■ 事前定義リスト: ユーザーがドロップダウン・リストから値を選択するコンボ・ボックス。このインタフェース・タイプを選択すると、「LOV 値」テキスト領域が表示されます。このテキスト領域では、リストに値を入力し、入力を 1 回終了するたびに改行キーを押します。 ■ 日付: ユーザーが日付 (従業員の生年月日など) を入力するテキスト・フィールド。 ■ ユーザーの参照と選択: 属性値として識別名を必要とするユーザー・エン트리 (マネージャ・エン트리など) を参照可能にするボタン。 ■ グループの参照と選択: 属性値として識別名を必要とするグループ・エン트리 (デフォルト・プロファイル・グループなど) を参照可能にするボタン。 ■ 数値: ユーザーが番号のみ (郵便番号など) を入力するテキスト・フィールド。 ■ パスワード: ユーザーがパスワード値を入力するためのテキスト・フィールド。画面上ではパスワードの各文字がアスタリスク (*) で表示されます。セルフ・サービス・コンソールでは、「パスワード」フィールドを 2 回レンダリングします。フィールドの 2 番目のインスタンスには、「パスワードの確認」というラベルが割り当てられます。 ■ 国リスト: 国のリスト。 ■ 言語リスト: 言語のリスト。 ■ タイムゾーン・リスト: タイムゾーンのリスト。 ■ チェック・ボックス: 選択すると true になり、選択を解除すると false となるチェック・ボックス。 ■ 日付と時間: ユーザーが日付を入力するテキスト・フィールドとユーザーが時間、分およびタイムゾーンを選択する 3 つのコンボ・ボックスを作成します。

関連項目:

- 5-4 ページの「[レルムでのエントリ用の親 DN の構成](#)」
- 5-6 ページの「[ユーザー・エントリの構成](#)」

拡張検索

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリの拡張検索を実行します。

表 A-2 「拡張検索」ウィンドウ

フィールド	説明
すべての条件に一致するユーザーを検索します。	このウィンドウに指定されたすべての条件に一致するユーザーを検索します。
任意の条件に一致するユーザーを検索します。	このウィンドウに指定されたいずれかの条件に一致するユーザーを検索します。
電子メール・アドレス	検索基準に含める電子メール・アドレスを指定します。
名	検索基準に含める名を指定します。
姓	検索基準に含める姓を指定します。
ユーザー名	検索基準に含めるユーザー名を指定します。
さらに追加	住所、市区、都道府県、国、マネージャなど、その他の属性を検索基準に追加できます。

関連項目： 3-3 ページの「[拡張検索の実行](#)」

すべてのオブジェクト・クラス

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリのオブジェクト・クラスを追加します。

関連項目： 5-6 ページの「[ユーザー・エントリの構成](#)」

アプリケーション属性

このウィンドウを使用して、ユーザーの各プロビジョニング・アプリケーションで使用できる様々な属性を設定します。先頭にアスタリスク (*) が付いたすべてのフィールドに情報を入力する必要があります。

各プロビジョニング・アプリケーションは、「+」または「-」ボタンを使用して展開または縮小できる個別のドロップダウン・リストとして表示されます。一部のプロビジョニング・アプリケーションには設定できる属性がないため、展開してもアプリケーション・リストには何も表示されません。

表 A-3 Oracle Calendar のユーザー属性

コンポーネント/ フィールド	デフォルト値	設定可能な値	説明
カレンダー記憶域 *	ポリシーに基づく	デフォルト、使用可能な記憶域リストから選択、ユーザー入力	ユーザーのカレンダー・データの格納先となるカレンダー・データベースです。
カレンダー・アクセス	TRUE	TRUE、FALSE	このオプションを使用して、ユーザーのカレンダーへのアクセスを有効化または無効化します。
ステータスを公開	未公開	未公開、公開	このユーザーの連絡先情報を他のユーザーに表示するかどうかを指定します。
グローバル予定表の表示を有効化	TRUE	TRUE、FALSE	このユーザーの予定表情報を他のユーザーに表示するかどうかを指定します。
代替電子メール・アドレス	NULL	ユーザー入力	このフィールドを使用して代替電子メール・アドレスを指定します。

表 A-3 Oracle Calendar のユーザー属性 (続き)

コンポーネント/ フィールド	デフォルト値	設定可能な値	説明
アラームの配信ルール	代替	代替、プライマリ	ユーザーは、異なる 2 つの予定アラーム・プリファレンスを設定し、このフィールドを使用してそれらを切り替えることができます。
アラートの有効化	FALSE	TRUE、FALSE	このオプションを使用してアラートを有効化または無効化します。
アラートの一時停止	FALSE	TRUE、FALSE	指定した期間のみ一時的にアラートを無効化します。
アラート期間の一時停止	00:00-00:00	時間:分 - 時間:分	アラートを一時停止する期間を指定します。
アラートの一時停止期間でのアクション	アラートの送信	アラートの破棄、アラートの保持、アラートの送信	このオプションで、アラートの一時停止期間中に受信アラートにどう対応するかを指定します。
会議のアラートの送信	TRUE	TRUE、FALSE	会議が作成または変更されたときに、このユーザーがアラートを受信するかどうかについてデフォルトの動作を指定します。会議の所有者は、この設定を上書きできます。
終日イベントのアラートの送信	FALSE	TRUE、FALSE	終日イベントが作成または変更されたときに、このユーザーがアラートを受信するかどうかについてデフォルトの動作を指定します。イベントの所有者は、この設定を上書きできます。
メモのアラートの送信	FALSE	TRUE、FALSE	メモが作成または変更されたときに、このユーザーがアラートを受信するかどうかについてデフォルトの動作を指定します。メモの所有者は、この設定を上書きできます。
履歴のアラートの送信	FALSE	TRUE、FALSE	履歴項目が作成または変更されたときに、このユーザーがアラートを受信するかどうかについてデフォルトの動作を指定します。履歴の所有者は、この設定を上書きできます。
所有するイベントのアラートの送信	TRUE	TRUE、FALSE	ユーザーが所有するイベントが作成または変更されたときに、このユーザーがアラートを受信するかどうかについてデフォルトの動作を指定します。
辞退したイベントのアラートの送信	FALSE	TRUE、FALSE	ユーザーが辞退したイベントが変更されたときに、このユーザーがアラートを受信するかどうかについてデフォルトの動作を指定します。イベントの所有者は、この設定を上書きできます。

表 A-4 Oracle Mail のユーザー属性

コンポーネント/ フィールド	デフォルト値	設定可能な値	説明
電子メール割当て容量 *	NULL	数値 (MB)	サーバーにおけるユーザーへの割当て領域のサイズです。
情報ストア	NULL	デフォルト、 <使用可能なリスト>	複数の情報記憶域単位が存在する場合、このユーザー用にその1つを選択します。
ユーザー・ステータス	アクティブ	アクティブ、非アクティブ	アクティブなユーザーは、すべてのアクセス権を保持するユーザーです。非アクティブなユーザーは、メール・システムにアクセスできません。ただし、非アクティブなアカウントに送信されたメッセージは、情報ストアに格納されており、アカウントがアクティブになるとアクセス可能になります。
自動返信モード	NULL	エコー、拒否、返信、 休暇	ユーザーは、各自の返信モードを変更できます。「エコー」では、送信者のメッセージのコピーが自動返信テキストとともに返信されます。「拒否」では、すべての受信メッセージが拒否されます。「返信」では、すべての受信メッセージに対して自動返信テキストのみが返信されます。「休暇」では、各送信者に1つのメッセージのみが返信テキストとともに返信されます。
自動返信テキスト	NULL	ユーザー入力	「自動返信モード」が「返信」に設定されている場合、このテキストが返信メッセージに含まれます。
自動返信期限	NULL	mm/dd/yyyy	自動返信モードから通常の配信モードに戻す日付を設定します。
転送先電子メール・アドレス	NULL	ユーザー入力	自動返信が有効な場合、すべてのメッセージはこのアドレスに転送されます。この属性を空白にすると、メッセージは転送されません。
テキストの索引付け	なし	無効、有効	テキストの索引付けを有効にすると、Oracle Collaboration Suite 10g の検索で、メッセージ本文の内容とヘッダー情報にアクセスできます。無効にすると、メッセージは索引付けされず、検索は実行できません。
ロール	ユーザー	ドメイン管理者、システム管理者、ユーザー	このユーザーの権限を指定します。ドメイン管理者は、特定のドメイン内で Oracle Mail を管理および構成する権限を保持します。システム管理者は、Oracle Mail システム全体を管理および構成する権限を保持します。ユーザーは、メッセージへのアクセス、メッセージの読取りおよび送信のみを行う権限を保持しません。

表 A-4 Oracle Mail のユーザー属性 (続き)

コンポーネント/ フィールド	デフォルト値	設定可能な値	説明
アーカイブ・ポリシー	NULL	デフォルト、 <使用可能なリスト>	ユーザーに割り当てるアーカイブ・ポリシーを選択します。管理者は、電子メール・アーカイブ機能を使用して、ユーザーごとにメッセージ・アーカイブ・ポリシーを割り当てることができます。各ポリシーにより、ユーザーが送受信するすべてのメール・メッセージのコピー (メッセージのエンベロープ情報を含む) が作成され、Oracle Webmail 管理で指定した電子メール・アドレスにそれらのコピーが転送されます。指定した電子メール・アドレスは、アーカイブ作成のためにアーカイブ・ツールで使用することも可能です。

表 A-5 Oracle Voicemail & Fax のユーザー属性

コンポーネント/ フィールド	デフォルト値	設定可能な値	説明
国際電話番号 *	NULL	ユーザー入力	このボイスメール・ユーザーに一意の電話番号を指定します。
グループ名 *	NULL	使用可能なグループのリスト	使用可能なグループにユーザーを割り当てます。
ボイスメールのパスワード *	NULL	ユーザー入力	ユーザーのパスワードを作成または再設定します。
パスワードの確認 *	NULL	ユーザー入力	このボックスにパスワードを再入力します。パスワードは、「ボイスメールのパスワード」に入力した値と正確に一致する必要があります。
ボイスの優先言語	NULL	英語 (アメリカ)、アラビア語、ポルトガル語 (ブラジル)、英語 (イギリス)、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、イタリア語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語、ノルウェー語、ポルトガル語、スペイン語、スウェーデン語、トルコ語	このボイスメール・ユーザーのボイス・プロンプトに使用するため、利用可能な言語を選択します。
電話アクセスの許可	NULL	TRUE、FALSE、グループのデフォルト	ユーザーに対して、ボイスメールへのアクセスの許可、アクセスの拒否、またはユーザー・グループからの許可設定の継承のいずれかを指定します。
FAX アクセスの許可	NULL	TRUE、FALSE、グループのデフォルト	ユーザーに対して、FAX 機能へのアクセスの許可、アクセスの拒否、またはユーザー・グループからの許可設定の継承のいずれかを指定します。

表 A-5 Oracle Voicemail & Fax のユーザー属性 (続き)

コンポーネント/ フィールド	デフォルト値	設定可能な値	説明
メッセージ待機インジ ケータ	NULL	TRUE、FALSE、グルー プのデフォルト	ユーザーの電話にメッセージ待機インジ ケータがある場合、このオプションを有 効にすると、新しいボイスメール・メッ セージの着信通知にインジケータが使用 されます。「グループのデフォルト」を選 択すると、ユーザーのグループから許可 設定が継承されます。
追加のボイスメール割 当て制限	NULL	数値 (バイト)	ボイスメールは、ユーザーの電子メール 割当て容量に格納されますが、ボイス メール専用の追加の記憶域容量を割り当 てることができます。これにより、サイ ズの大きいボイスメール・メッセージで ユーザーの電子メール容量が満杯になる ことを防止できます。

関連資料: 『Oracle Identity Management 統合ガイド』の Oracle プロビジ
ョニング・コンソールを使用した管理に関する章

アプリケーション・プロビジョニング

このウィンドウを使用して、Oracle Collaboration Suite の配置された各コンポーネントのデ
フォルト・プロビジョニング・ポリシーを参照します。デフォルト・ポリシーで許可されてい
る場合、任意のコンポーネントを対象に「プロビジョニング」または「プロビジョニングしな
い」を選択することで、ポリシーを上書きできます。デフォルト・ポリシーで上書きが許可さ
れていない場合、「ポリシーの上書き」セクションはグレー表示されます。

各コンポーネントは、「必須」が「はい」または「いいえ」に設定されたデフォルト・ポリシー
と、「ポリシーの上書き」ボタン（「プロビジョニング」または「プロビジョニングしない」）と
ともにリスト表示されます。

関連資料: 『Oracle Identity Management 統合ガイド』の Oracle プロビジ
ョニング・コンソールを使用した管理に関する章

アプリケーション・レベルの診断設定

このウィンドウを使用して、アプリケーション・レベルの診断設定を表示および構成します。

関連項目: B-4 ページの「アプリケーションの診断設定およびロギング設定
の表示と構成」

グループへの権限の割当て

このウィンドウを使用して、グループ・エントリのアクセス権限を指定します。

表 A-6 「グループへの権限の割当て」ウィンドウ

権限	付与されたアクセス権の説明
ユーザーの作成を許可	ユーザー・エントリの作成。
ユーザーの編集を許可	ユーザー・エントリの変更。
ユーザーの削除を許可	ユーザー・エントリの削除。
グループの作成を許可	グループ・エントリの作成。
グループの編集を許可	グループ・エントリの変更。
グループの削除を許可	グループ・エントリの削除。
ユーザーへの権限の割当てを許可	ユーザーに対するアクセス権の割当て。
グループへの権限の割当てを許可	グループに対するアクセス権の割当て。
サービス管理の許可	ユーザーに対するサービスを管理するグループ・メンバーを使用可能にします。この権限が選択されている場合、グループ・メンバーが「ディレクトリ」タブ・ページにアクセスすると、このタブページ内の「サービス」リンクは使用可能になります。
アカウント管理の許可	ユーザーに対するアカウントを管理するグループ・メンバーを使用可能にします。この権限が選択されている場合、グループ・メンバーは、「ユーザーの検索」結果ページでユーザーを有効化、無効化およびロック解除できます。
Oracle Delegated Administration Services 構成の許可	Oracle Delegated Administration Services ユーザー・インタフェースを構成します。
ユーザー管理およびアプリケーション・プロビジョニングを許可	ユーザーを対象に権限を作成、編集、削除および割り当てます。

関連項目： 5-13 ページの「[グループへの権限の割当て](#)」

ユーザーへの権限の割当て

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリのアクセス権限を指定します。

表 A-7 「ユーザーへの権限の割当て」ウィンドウ

権限	付与されたアクセス権の説明
アカウント管理の許可	ユーザー・アカウントの有効化、無効化およびロック解除。
グループの作成を許可	グループ・エントリの作成。
グループの削除を許可	グループ・エントリの削除。
グループの編集を許可	グループ・エントリの変更。
Oracle Delegated Administration Services 構成の許可	Oracle Delegated Administration Services ユーザー・インタフェースを構成します。
グループへの権限の割当てを許可	グループに対するアクセス権の割当て。
ユーザーへの権限の割当てを許可	ユーザーに対するアクセス権の割当て。
Oracle Reports と Oracle Forms ベース・アプリケーションのリソース管理の許可	データベースやアプリケーションなどのリソースを構成します。
サービス管理の許可	ユーザーのサービスを管理します。この権限が選択されている場合、グループ・メンバーが「ディレクトリ」タブ・ページにアクセスすると、このタブページ内の「サービス」リンクは使用可能になります。
ユーザーの作成を許可	ユーザー・エントリの作成。
ユーザーの削除を許可	ユーザー・エントリの削除。
ユーザーの編集を許可	ユーザー・エントリの変更。
ユーザー管理およびアプリケーション・プロビジョニングを許可	ユーザーを対象に権限を作成、編集、削除および割り当てます。現在ログインしているユーザーにもこの権限が割り当てられている場合にのみ使用可能です。

関連項目：5-10 ページの「ユーザーへの権限の割当て」

バルク・ユーザー管理

このウィンドウを使用して、ユーザー・データを含む LDIF (LDAP Data Interchange Format) ファイルを指定し、バルク・モードでユーザーを作成、編集または削除します。「失敗したユーザーの無視」ボックスを選択すると、失敗の有無にかかわらず、バルク作成プロセスによってユーザーの作成、編集または削除が続けられます。失敗したユーザーは、プロセスの最後にダウンロードできるファイルに記録されます。「失敗したユーザーの無視」ボックスを選択しない場合、ユーザーの処理に最初に失敗した時点で、バルク管理プロセスは終了します。

関連項目：5-10 ページの「ユーザーのバルク管理」

アプリケーション・パスワードの変更

このウィンドウを使用して、「パスワードの管理」ウィンドウで選択した Oracle コンポーネントのパスワードを変更します。新しく指定するパスワードは、管理者が設定した関連するパスワード・ポリシーに準拠している必要があります。コンポーネントの新しいパスワードを入力し、確認します。これらのフィールドに入力した内容は、「消去」を選択することで削除できません。値の入力が終了したら、「発行」を選択します。

関連項目： 4-2 ページの「パスワードおよびパスワード・ヒントの変更」

属性カテゴリの構成

このウィンドウを使用して、エントリを追加または変更しようとするユーザーに属性カテゴリが表示される形式をカスタマイズします。具体的には、このウィンドウを使用して、各カテゴリの名前およびその表示順序をカスタマイズできます。

関連項目： 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

ロールの構成

このウィンドウを使用して、ユーザーが他のユーザーに割当て可能なロールを指定します。

関連項目： 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

検索表列の構成

このウィンドウを使用して、検索表に表示する属性を指定します。「移動」、「すべて移動」、「削除」、「すべて削除」の各ボタンを使用して、「すべての属性」リストと「選択された属性」リストの間で属性を移動できます。また、「選択された属性」リストの右側にあるボタンを使用して、リスト内の属性を上下に移動できます。

関連項目： 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

ユーザー属性の構成

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリの属性を表示、追加、変更および削除します。このウィンドウで使用可能なフィールドのリストは、A-4 ページの「属性の追加 / 編集」を参照してください。

関連項目：

- 5-4 ページの「レルムでのエントリ用の親 DN の構成」
- 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

ユーザー・オブジェクト・クラスの構成

ユーザー・エントリを作成する場合、このウィンドウを使用してオブジェクト・クラスを表示および追加します。

このウィンドウには、ユーザー・エントリに共通して関連付けられているオブジェクト・クラスが表示されます。他のオブジェクト・クラスをユーザー・エントリに追加する場合は、「オブジェクト・クラスの追加」を選択します。

関連項目：

- 5-4 ページの「レルムでのエントリ用の親 DN の構成」
- 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

追加の個人情報の確認

パスワードを忘れたためリセットする場合、このウィンドウを使用して、サーバーが識別情報の検証に使用できる情報を入力します。

パスワードのヒントを設定した場合、このウィンドウで、そのヒントに基づいた質問が行われます。指定したパスワードのヒントに対する回答を入力します。

パスワードのヒントを事前に設定していない場合、このウィンドウでは、管理者が設定したその他の個人データを入力するように要求されます。

関連項目： 4-3 ページの「パスワードを忘れた場合の再設定」

削除の確認

このウィンドウには、グループに関する情報が表示されます。削除の確認を求められます。

関連項目： 5-13 ページの「グループ・エントリの削除」

カテゴリの作成

新しい属性カテゴリを作成する場合は、このウィンドウを使用して、UI ラベル（ユーザーに表示されるカテゴリ名）を指定します。

関連項目： 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

グループの作成

このウィンドウを使用して、グループ・エントリを作成します。先頭にアスタリスク (*) が付いたすべてのフィールドに情報を入力する必要があります。表 A-8 に、このウィンドウのフィールドをリストします。

表 A-8 「グループの作成」ウィンドウ

フィールド	説明
基本情報	
名前	このグループの名前を入力します。これは、このグループの RDN として使用されます。
表示名	このグループにわかりやすい名前を入力します。たとえば、RDN が OracleDBCreators の場合は、Oracle Database Creators などの表示名を入力します。
説明	(オプション) このグループの簡単な説明を入力します。
グループの可視性	このグループを所有者以外に表示しない場合は、「プライベート」を選択します。所有者以外にも表示する場合は、デフォルトの「パブリック」を使用します。
グループに権限を付与	このグループに権限を割り当てる場合は、このボックスを選択します。非権限グループに権限を割り当てることはできません。

表 A-8 「グループの作成」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
所有者	<p>このセクションを使用して、このグループの所有者を追加または削除します。</p> <p>このグループの所有者としてユーザーを追加する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「所有者」セクションで「ユーザーの追加」を選択します。「検索と選択:ユーザー」ウィンドウが表示されます。 2. このグループにメンバーとして追加するユーザーのエントリを検索します。 3. 「選択」を選択します。「グループの作成」ウィンドウに戻ります。指定したユーザーが「所有者」セクションに示されます。 <p>このグループの所有者としてグループを追加する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「所有者」セクションで「グループの追加」を選択します。「検索と選択:グループ」ウィンドウが表示されます。 2. グループの所有者として追加するグループのエントリを検索します。 3. 「選択」を選択します。「グループの作成」ウィンドウに戻ります。指定したグループが「所有者」セクションに示されます。 <p>このグループの所有者からユーザーまたはグループを削除する場合は、ユーザーまたはグループを選択した後、「削除」を選択します。</p>
メンバー	<p>このセクションを使用して、このグループのメンバーを構成します。</p> <p>このグループのメンバーとしてユーザーを追加する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「メンバー」セクションで「ユーザーの追加」を選択します。「検索と選択」ウィンドウが表示されます。 2. このグループのメンバーとして指定するユーザーのエントリを検索します。 3. 「選択」を選択します。「グループの作成」ウィンドウに戻ります。指定したユーザーが「メンバー」セクションに示されます。 <p>このグループからユーザーを削除する場合は、「メンバー」セクションでユーザー名を選択した後、「削除」を選択します。</p> <p>このグループのメンバーとしてグループを追加する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「メンバー」セクションで「グループの追加」を選択します。「検索と選択」ウィンドウが表示されます。 2. このグループのメンバーとして指定するグループのエントリを検索し、「選択」を選択します。「グループの作成」ウィンドウに戻ります。指定したグループが「メンバー」セクションに示されます。
ロール割当て	<p>このセクションを使用して、このグループにロールを割り当てます。</p> <p>このグループに割り当てるロールを指定するには、「ロール割当て」セクションの「選択」列で、このグループに割り当てるロールを選択します。</p> <p>このグループからロールを削除するには、「ロール割当て」セクションの「選択」列で、このグループから削除するロールを選択解除します。</p>

関連項目: 5-12 ページの「グループ・エントリの作成」

ID 管理レルムの作成

サービス・プロバイダの管理者は、このウィンドウを使用して、次の情報を含む新しい ID 管理レルム・エントリを作成できます。

- レルムの名前およびその問合せ担当者の名前
- レルムと製品ロゴの表示

表 A-9 「ID 管理レルムの作成」ウィンドウ

フィールド	説明
基本情報	
レルム名	このレルムに対して比較的短いレルム名を入力します。入力した名前は、このレルム・エントリの識別名として使用されます。このフィールドは必須です。
レルム連絡先	このレルムに関する問題の問合せ担当者の名前を入力します。
説明	このレルムに関する追加情報を入力します。このフィールドはオプションです。
ロゴの管理	
レルム・ロゴを使用可能にする	このフィールドを選択すると、「ID 管理レルムの構成」ウィンドウにレルム・ロゴが表示されます。
製品ロゴを使用可能にする	このフィールドを選択すると、「ID 管理レルムの構成」ウィンドウに製品ロゴが表示されます。 注意： 「レルム・ロゴの有効化」および「製品ロゴの有効化」が両方とも選択されている場合、レルム・ロゴが上部に、製品ロゴがその下に表示されます。
レルム・ロゴの更新	このレルムのロゴのパスおよびファイル名を入力するか、「参照」を選択してナビゲートします。

関連項目： 5-5 ページの「ID 管理レルムの追加作成」

リソースの作成

このウィンドウを使用して、新しいリソースの作成時にその名前とタイプを指定します。

関連項目： 4-5 ページの「リソース・アクセス情報の作成」

リソース・タイプの作成

適切な権限がある場合、「リソース・タイプの作成」ウィンドウを使用してリソース・タイプを作成できます。

表 A-10 「リソース・タイプの作成」ウィンドウ

プロパティ	説明
リソース・タイプ名	リソースのタイプを説明する名前です。
表示名	ユーザー・インタフェースにリソース・タイプが表示されるときに使用する名前です。
説明	テキスト形式の説明で、リソース・タイプの用途およびそのリソース・タイプで入力する他の情報を説明します。
認証クラス	このフィールドは、空白のままにしておきます。
接続文字列	リソース用の Oracle Internet Directory に格納されている値を使用して、接続文字列を構成するための形式です。次に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> Oracle9i データベース・サーバーまたは JDBC データ・ソースの場合、接続文字列フォーマットは次のようになります。 <pre>orclUserIDAttribute/orclPasswordAttribute @orclFlexAttribute1</pre> この文字列では、ユーザー名の後にスラッシュ、パスワード、アットマーク (@) および追加属性 1 (たとえば、データベースの TNS 名に対する追加属性など) が続きます。この形式に準拠している接続文字列は、次に示す文字列のようになります。 <pre>scott/tiger@db1</pre> Oracle Express では、接続文字列形式は次のようになります。 <pre>server=orclFlexAttribute1/domain=orclFlexAttribute2/ user=orclUserIDAttribute/password=orclPasswordAttribute</pre> この文字列では、server= の後に最初の追加属性、スラッシュ、domain=、2 番目の追加属性、スラッシュ、ユーザー名、スラッシュおよびパスワードが続きます。この形式に準拠している接続文字列は、次に示す文字列のようになります。 <pre>server=a1/domain=a2/user=scott/password=tiger</pre>
ユーザー名 /ID フィールド名	新規のリソース・アクセス情報を作成するときに、「リソースの作成」ウィンドウに表示される「ユーザー名」フィールドの表示名です。通常、この表示名は「ユーザー名」です。
パスワード・フィールド名	「リソースの作成」ウィンドウの「パスワード」フィールドの表示名です。通常、この表示名は「パスワード」です。
追加フィールド	「リソースの作成」ウィンドウで表示される、ユーザー名およびパスワード以外の追加フィールドの表示名です。たとえば、このフィールドの 1 つをサーバー名またはドメイン名を表示するように使用できます。通常、この表示名は「サーバー」または「ドメイン」のようにフィールドの内容を説明する名前になります。

関連項目：

- 4-4 ページの「[各自のリソース情報の管理](#)」
- 5-17 ページの「[新しいリソース・タイプの指定](#)」
- 5-18 ページの「[デフォルトのリソース・アクセス情報の構成](#)」

ユーザーの作成

このウィンドウを使用して、各種のフィールドに適切な情報を入力してユーザー・エントリを作成します。先頭にアスタリスク (*) が付いたすべてのフィールドに情報を入力する必要があります。

このウィンドウでは、一部のセクションはユーザー環境に固有で、その他のセクションはセルフ・サービス・コンソールに必須です。後者のセクションは、次のとおりです。

- **ロール割当て:** ユーザーに1つ以上のロールを割り当てることができます。
- **リソースのアクセス情報:** Oracle Forms と Oracle Reports 固有のリソースへのアクセス権をユーザーに付与できます。

ユーザーの環境に固有のフィールドに値を入力します。

注意: ユーザー ID にチルダ (~) を使用することはできません。

関連項目: 5-8 ページの「ユーザー・エントリの作成」

カテゴリの削除

このウィンドウにより、属性カテゴリの削除の確認を求められます。

関連項目: 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

リソースの削除

このウィンドウには、リソースに関する情報が表示されます。削除の確認を求められます。

関連項目:

- 4-5 ページの「リソース・アクセス情報の削除」
- 5-18 ページの「リソース・タイプの削除」

ユーザーの削除

このウィンドウには、ユーザーに関する情報が表示されます。削除の確認を求められます。

関連項目: 5-10 ページの「ユーザー・エントリの削除」

ユーザーの無効化

このウィンドウにより、ユーザー・アカウントの無効化の確認を求められます。

関連項目: 5-17 ページの「ユーザー・アカウントの無効化」

カテゴリの編集

このウィンドウを使用して、属性カテゴリを編集します。「移動」、「すべて移動」、「削除」、「すべて削除」の各ボタンを使用して、「未使用の属性」リストと「選択された属性」リストの間で属性を移動できます。また、「選択された属性」リストの右側にあるボタンを使用して、リスト内の属性を上下に移動できます。

関連項目: 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

グループの編集

このウィンドウを使用して、グループ・エントリを編集します。先頭にアスタリスク (*) が付いたすべてのフィールドに情報を入力する必要があります。

関連項目： 5-12 ページの「[グループ・エントリの変更](#)」

プロフィールの編集

このウィンドウを使用して、プロフィール内の情報を変更します。アスタリスク (*) が付いたすべてのフィールドに値を入力する必要があります。

関連項目： 4-4 ページの「[プロフィールの編集](#)」

リソースの編集

このウィンドウを使用して、リソース・アクセス情報を変更します。

関連項目：

- 4-5 ページの「[リソース・アクセス情報の変更](#)」
- 5-18 ページの「[リソース・タイプの変更](#)」

サービスの編集

このウィンドウを使用して、サービスの表示名およびネットワーク・アドレスを変更します。

関連項目： 5-13 ページの「[サービスの管理](#)」

サービス受信者の編集

このウィンドウを使用して、サービス受信者のサブスクリプション・リストを編集します。

関連項目： 5-15 ページの「[サービス受信者に関するサブスクリプション情報の変更](#)」

サブスクリプションの編集

このウィンドウから、サービス受信者のサブスクリプション・リストを追加、変更または削除できます。

関連項目： 5-13 ページの「[サービスの管理](#)」

ユーザーの編集

このウィンドウを使用して、次のことを行います。

- ユーザー・エントリ内の値の変更
- ユーザーのリソース・アクセス情報の指定
- このユーザーがメンバーとなっているグループのリストの表示

関連項目： 5-9 ページの「[ユーザー・エントリの変更](#)」

属性の編集

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリの情報を検索および変更します。このウィンドウで使用可能なフィールドのリストは、A-4 ページの「属性の追加 / 編集」を参照してください。

関連項目： 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

ユーザーの有効化

このウィンドウにより、ユーザー・アカウントの有効化の確認を求められます。

関連項目： 5-16 ページの「ユーザー・アカウントの有効化」

一般プロビジョニング

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリの一般プロビジョニング情報を入力します。先頭にアスタリスク (*) が付いたすべてのフィールドに情報を入力する必要があります。

表 A-11 「一般プロビジョニング」ウィンドウ

フィールド	説明
基本情報	
名	ユーザーの名を指定します。
ミドルネーム	ユーザーのミドルネームを指定します。
姓	ユーザーの姓を指定します。
ユーザー名	ユーザー名を指定します。
パスワード	初期パスワードを設定します。
パスワードの確認	初期パスワードを確認します。
電子メール・アドレス	ユーザーの電子メール・アドレスを指定します。
タイムゾーン	ユーザーのタイムゾーンを指定します。
ユーザーのデフォルト・グループ	ユーザーのデフォルト・グループを指定します。
追加の個人の詳細	
有効	ユーザー・エントリが有効かどうかを指定します。
開始日	ユーザーの開始日を指定します。
終了日	ユーザーの終了日を指定します。
呼称	ユーザーの別の呼び名を指定します。
旧姓	ユーザーの旧姓を指定します。
生年月日	ユーザーの生年月日を指定します。
言語	ユーザーのデフォルト言語を指定します。
組織の詳細	
社員番号	ユーザーの社員番号を指定します。
役職名	ユーザーの役職名を指定します。
部門	ユーザーの部門を指定します。
マネージャ	ユーザーのマネージャを指定します。
アシスタント	ユーザーのアシスタントを指定します。
雇用日	ユーザーの雇用日を指定します。

表 A-11 「一般プロビジョニング」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
写真	ユーザーの写真をアップロードできます。
電話番号	
勤務先の電話番号	ユーザーの勤務先電話番号が格納されます。
自宅の電話番号	ユーザーの自宅電話番号が格納されます。
携帯の電話番号	ユーザーの携帯電話番号が格納されます。
ポケットベル	ユーザーのポケットベル番号が格納されます。
FAX	ユーザーの FAX 番号が格納されます。
勤務先の住所	
住所	ユーザーの勤務先住所を指定します。
市区	ユーザーの市区を指定します。
都道府県	ユーザーの都道府県を指定します。
郵便番号	ユーザーの郵便番号を指定します。
国	ユーザーの国を指定します。
自宅の住所	ユーザーの自宅住所を指定します。
ロール割当て	このユーザーに 1 つ以上のロールを割り当てることができます。
リソースのアクセス情報	Oracle Forms および Oracle Reports 固有のリソースに対するアクセス権をこのユーザーに付与できます。

関連資料: 『Oracle Identity Management 統合ガイド』の Oracle プロビジョニング・コンソールを使用した管理に関する章

ID 管理レルム構成

このウィンドウを使用して、ID 管理レルムのエントリーを構成します。

表 A-12 「ID 管理レルム」ウィンドウ

フィールド	説明
ディレクトリの構成	
ログイン名の属性	ユーザーがログイン時に本人の識別をするための属性を入力します。たとえば、UID、EmployeeNumber、SSN などです。 これはユーザーを一意に識別する属性です。Oracle Application Server Single Sign-On は、ログイン時にこの属性を使用してユーザーを特定します。この属性を変更する場合、各ユーザー・エントリーにこの属性があり、一意であることを確認してください。ユーザー検索ベースでこの属性に属性一意性制約を設定することにより、一意性を施行できます。 このフィールドは必須です。
RDN の属性	ユーザー・エントリーの相対識別名コンポーネントを作成するために使用する属性。このフィールドに入力する値は、「ログイン名の属性」フィールドで入力した値とは違う値にします。

表 A-12 「ID 管理レلم」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ユーザー検索ベース	<p>このレلمに対するユーザー・エントリが置かれるエントリの識別名を入力します。有効な識別名を入力し、ユーザーがこのコンテキストに存在する必要があります。ユーザー・ログイン時に、Oracle Application Server Single Sign-On によって、このコンテキストのユーザーが検索されます。</p> <p>また、すべての ACL が適切に設定されていることを確認してください。ACL 間に不一致があると、ログイン処理または Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの動作が中断します。</p> <p>このフィールドは必須です。</p>
ユーザー作成ベース	<p>このレلمに対するユーザーが作成されるエントリの識別名を入力します。この識別名は、ユーザー検索ベースの識別名と同じである必要があります。</p> <p>ユーザー検索ベース下の異なるコンテキストにユーザーを分散する場合、この値をユーザー検索ベースの値と異なる値で設定できます。いずれの場合も、この識別名は、ユーザー検索ベースの識別名またはユーザー検索ベース下のコンテキストの識別名のいずれかである必要があります。たとえば、ユーザー検索ベースが <code>cn=users,dc=acme,dc=com</code> の場合、地域に基づいてユーザーを分別するには、この値を次のように設定します。</p> <p><code>L=America, cn=users,dc=acme,dc=com</code></p> <p><code>L=Asia, cn=users,dc=acme,dc=com</code></p> <p><code>L=Europe, cn=users,dc=acme,dc=com</code></p> <p>注意: Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールでは、これらのコンテキストが存在し、これらのコンテキストの権限が正しく設定されていると想定されています。</p>
グループ検索ベース	<p>このレلمに対するグループ・エントリが置かれるエントリの識別名を入力します。このフィールドは必須です。</p>
グループ作成ベース	<p>このレلمに対するグループが作成されるエントリの識別名を入力します。</p>
検索結果制限	<p>検索で表示される最大数を入力します。このフィールドは必須です。</p>
ロゴの管理	
レلم・ロゴを使用可能にする	<p>このフィールドを選択すると、「ID 管理レلمの構成」ウィンドウにレلم・ロゴが表示されます。</p>
製品ロゴを使用可能にする	<p>このフィールドを選択すると、「ID 管理レلمの構成」ウィンドウに製品ロゴが表示されます。</p> <p>注意: 「レلم・ロゴの有効化」および「製品ロゴの有効化」が両方とも選択されている場合、レلم・ロゴが上部に、製品ロゴがその下に表示されます。</p>
レلم・ロゴの更新	<p>このレلمのロゴのパスおよびファイル名を入力するか、「参照」を選択してナビゲートします。</p>

関連項目: 5-3 ページの [「ID 管理レلمの構成」](#)

ID 管理レلم

管理権限を所有している場合は、このウィンドウを使用して、サブスクライバ・エントリを作成または表示できます。

デフォルトの管理: 属性

このウィンドウには、「デフォルトの管理: アプリケーションの選択」ウィンドウで選択した各アプリケーションのすべてのユーザー属性フィールドが表示されます。表示された各フィールドのデフォルト属性を設定できます。デフォルト設定は、新規ユーザーの作成時に常に「[アプリケーション属性](#)」ウィンドウに表示されます。デフォルト値を変更しても、以前のデフォルト値を使用して作成された既存ユーザーには影響しません。このウィンドウの各フィールドの詳細は、A-6 ページの「[アプリケーション属性](#)」を参照してください。

関連資料: 『Oracle Identity Management 統合ガイド』の Oracle プロビジョニング・コンソールを使用した管理に関する章

デフォルトの管理: アプリケーションの選択

このウィンドウを使用して、デフォルト値を管理するアプリケーションを選択します。このウィンドウに表示される使用可能なアプリケーションは、実際の環境に応じて変化します。

関連資料: 『Oracle Identity Management 統合ガイド』の Oracle プロビジョニング・コンソールを使用した管理に関する章

グループの管理

必要な権限がある場合、このウィンドウを使用して、グループ・エントリ内の情報を編集したり、グループを削除できます。権限に応じた適切なボタンが表示されます。

関連項目: 5-12 ページの「[グループ・エントリの変更](#)」

パスワードの管理

このウィンドウでは、OracleAS Single Sign-On および各種の Oracle コンポーネントのパスワードを変更できます。新しく指定するパスワードは、管理者が設定した関連するパスワード・ポリシーに準拠している必要がありますので注意してください。

関連項目: 4-2 ページの「[パスワードおよびパスワード・ヒントの変更](#)」

Oracle Application Server Single Sign-On

このウィンドウは、セルフ・サービス・コンソールの配置が OracleAS Single Sign-On に対して有効になっている場合に表示されます。このウィンドウを使用して、OracleAS Single Sign-On のユーザー名とパスワードを入力します。

順序カテゴリ

このウィンドウを使用して、カテゴリ・リストの順序を並べ替えます。ユーザー・エントリの作成または編集時には、各種のカテゴリが表示されます。たとえば、「基本情報」のみのカテゴリの場合もあれば、「電話番号」が表示される場合もあります。各カテゴリで、ユーザーは様々な属性の値を入力するように要求されます。たとえば、「基本情報」カテゴリではファースト・ネームとラスト・ネーム、自宅住所、郵便番号、部門の入力が要求され、「電話番号」カテゴリでは自宅電話番号、勤務先電話番号、携帯電話番号およびFAX番号の入力が要求されます。また、「カテゴリ・リスト」の右側にあるボタンを使用して、リスト内のカテゴリを上下に移動できます。

関連項目： 5-6 ページの「ユーザー・エントリの構成」

組織図

このウィンドウを使用して、組織の階層内部のユーザーを検索します。名前からエントリを表示する場合は、その名前の隣にあるプラス記号 (+) を選択します。特定のエントリの詳細情報を表示する場合は、そのエントリを選択します。

関連項目： 4-4 ページの「組織図の表示」

プリファレンス

このウィンドウを使用して、リソース・タイプを作成、編集および削除し、デフォルトのリソース・アクセス情報を構成します。

関連項目： 5-17 ページの「リソース情報の管理」

プロビジョニング確認

このウィンドウを使用して、ユーザー・エントリを作成または変更する前にプロビジョニング情報を確認します。

関連資料： 『Oracle Identity Management 統合ガイド』の Oracle プロビジョニング・コンソールを使用した管理に関する章

プロビジョニング検索

このウィンドウを使用して、プロビジョニング対応アプリケーションのプロビジョニング・ステータスに基づいてユーザーを検索します。このウィンドウに表示されるプロビジョニング対応アプリケーションは、実際の環境に応じて変化します。

表 A-13 「プロビジョニング検索」ウィンドウ

フィールド	説明
すべての条件に一致するユーザーを検索します。	このウィンドウに指定されたすべての条件に一致するユーザーを検索します。
任意の条件に一致するユーザーを検索します。	このウィンドウに指定されたいずれかの条件に一致するユーザーを検索します。
アプリケーションのプロビジョニング・ステータス	このアプリケーションにおけるユーザーのプロビジョニング・ステータスを検索します。現在の環境にインストールされているプロビジョニング対応アプリケーションごとに、このウィンドウに個別の「プロビジョニング・ステータス」フィールドが表示されます。
さらに追加	住所、市区、都道府県、国、マネージャなど、その他の属性を検索基準に追加できます。

関連資料: 『Oracle Identity Management 統合ガイド』の Oracle プロビジョニング・コンソールを使用した管理に関する章

Single Sign-On パスワードのリセット

パスワードを忘れた場合、最初にこのページのフィールドに必要な項目を入力することによって、パスワードをリセットできます。この情報は、サーバーに対してユーザーを識別するために使用されます。

関連項目: 4-3 ページの「パスワードを忘れた場合の再設定」

SSO パスワードのリセット

パスワードを忘れたためリセットする場合、このウィンドウを使用して新しいパスワードを入力し、確認します。

関連項目: 4-3 ページの「パスワードを忘れた場合の再設定」

リソースのアクセス情報

このウィンドウを使用して、ユーザーのリソース・アクセス情報を指定します。具体的には、このウィンドウを使用して、ユーザー名、パスワード、およびユーザーがアクセスするデータベース名を指定します。

関連項目: 5-18 ページの「デフォルトのリソース・アクセス情報の構成」

検索と選択

このウィンドウを使用して、ユーザーを検索し、サブスクリプション・リストに追加します。

関連項目: 5-13 ページの「サービスの管理」

グループの検索

このウィンドウを使用して、ディレクトリ内のグループ・エントリを検索します。適切な権限がある場合は、グループ・エントリを作成することもできます。

関連項目: 3-3 ページの「セルフ・サービス・コンソールを使用したグループ・エントリの検索」

ユーザーの検索

このウィンドウを使用して、ディレクトリ内のユーザー・エントリを検索します。適切な権限がある場合は、このウィンドウを使用してユーザー・エントリを作成することもできます。

関連項目: 3-3 ページの「セルフ・サービス・コンソールを使用したユーザー・エントリの検索」

サービス

このウィンドウには、ドメインで利用できる各種サービスが一覧表示されます。適切なボタンを選択して、次のことを行えます。

- サービスの編集。つまり、サービスごとに表示名およびネットワークを変更できます。
- サブスクリプションの編集。つまり、サービス受信者、各サブスクリプション・リストのユーザー、およびそれらのユーザーがサービスにアクセスできるタイムフレームを指定できます。

関連項目： 5-13 ページの「サービスの管理」

セッション・レベルの診断設定

このウィンドウを使用して、セッション・レベルの診断設定を表示および構成します。

関連項目： B-5 ページの「セッション・レベルの診断設定の表示と構成」

タイムゾーンの設定

このウィンドウを使用して、タイムゾーンの設定を変更します。

関連項目： 4-4 ページの「タイムゾーン設定の変更」

ユーザーのロック解除

このウィンドウにより、ユーザー・アカウントのロック解除の確認を求められます。

関連項目： 5-16 ページの「ユーザー・アカウントのロック解除」

グループの表示

このウィンドウには、選択したグループの情報が表示されます。

関連項目： 5-12 ページの「グループ・エントリの表示」

ID 管理レールの表示

このウィンドウには、選択したレールの情報が表示されます。

関連項目： 5-5 ページの「追加された ID 管理レールの構成設定の表示」

プロフィールの表示

このウィンドウには、入力した最新のユーザー情報が表示されます。この情報を変更する場合は、「プロフィールの編集」を選択します。

注意： このウィンドウをサーバーの最新情報に更新するには、「プロフィールのリフレッシュ」を選択します。ブラウザの「更新」ボタンや「リロード」ボタンは使用しないでください。これらのボタンを使用すると、サーバーの情報ではなく、中間層キャッシュの情報のみで更新されます。

関連項目： 4-2 ページの「プロフィールの表示」

ユーザーの表示

このウィンドウには、選択したユーザーのプロファイル情報が表示されます。

関連項目： 5-8 ページの「ユーザー・エントリの表示」

Oracle Delegated Administration Services に関するトラブルシューティング

この付録では、Oracle Delegated Administration Services の使用時に発生する可能性のある一般的な問題とその解決策について説明します。次の項目について説明します。

- ログ・ファイルの分析
- デバッグの有効化
- セルフ・サービス・コンソールに関する問題の診断
- サービス・ユニットに関する問題の診断
- その他の問題

注意：また、Web ブラウザの診断を使用して、IP アドレスおよびホスト名が有効かどうかや、ファイアウォールでリクエストおよびレスポンスが適切に転送されているかどうかなど、Oracle Delegated Administration Services 配置に関する基本的な問題を特定することもできます。詳細は、Oracle Delegated Administration Services 配置でサポートする予定の Web ブラウザのドキュメントを参照してください。

ログ・ファイルの分析

Oracle Delegated Administration Services を配置または実行する際に問題が発生した場合は、まず、Oracle Delegated Administration Services およびそれに必要な各種コンポーネントによって生成された各種のログ・ファイルを調べる必要があります。この項の項目は次のとおりです。

- [Oracle Delegated Administration Services のログ](#)
- [Oracle Containers for J2EE のログ](#)
- [Oracle HTTP Server のログ](#)
- [OPMN のログ](#)

Oracle Delegated Administration Services のログ

Oracle Delegated Administration Services では、ほとんどのエラーが次のログ・ファイルに記録されます。

```
$ORACLE_HOME/opmn/logs/OC4J~OC4J_SECURITY~default_island~1
```

Oracle Delegated Administration Services に関する問題のトラブルシューティングを行う際は、このファイルを最初に調べる必要があります。デバッグ機能は、Oracle Delegated Administration Services がログ・ファイルになんらかの情報を書き込む前に有効にする必要があります。デバッグ機能を有効にするには、B-3 ページの「[デバッグの有効化](#)」の指示に従ってください。

関連項目： Oracle Delegated Administration Services の診断設定を表示および構成する方法は、B-5 ページの「[セッション・レベルの診断設定の表示と構成](#)」を参照してください。

Oracle Containers for J2EE のログ

Oracle Containers for J2EE は、Oracle Delegated Administration Services のページ・リクエストを受信するサーブレット・エンジンです。

`$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_SECURITY/log/OC4J_SECURITY_default_island_1` ディレクトリにある、`default-web-access.log` という名前のサーブレット・アクセス・ログを調べることができます。また、`$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_SECURITY/application-deployments/oiddas/OC4J_SECURITY_default_island_1` ディレクトリにある、ランタイム・アプリケーション・エラーが記録されたアプリケーション・ログ・ファイルを調べることもできます。

Oracle HTTP Server のログ

Oracle HTTP Server は、Oracle Delegated Administration Services のページのリクエストを受信し、各リクエストをさらに処理するために適切なコンポーネントに転送します。Oracle HTTP Server に関連していると考えられる問題については、

`$ORACLE_HOME/Apache/Apache/logs` ディレクトリにあるログ・ファイルを調べることができます。具体的には、`access_log` および `error_log` ファイルを調べてください。

注意： Oracle HTTP Server がログ・ファイルを切り替えながら使用するよう構成されている場合、`access_log` ファイルおよび `error_log` ファイルにタイムスタンプ拡張子が追加されます。タイムスタンプ拡張子で、最新のファイルを判別してください。

OPMN のログ

Oracle Delegated Administration Services の最初の起動時に発生したエラーは、`$ORACLE_HOME/opmn/logs/OC4J~OC4J_SECURITY~default_island~1` ファイルに記録されます。このファイルは、Oracle Containers for J2EE によって生成されます。Oracle Delegated Administration Services を起動しようとする、`opmnctl` ユーティリティがハングアップしたり、コマンドライン・エラーが生成される場合は、このファイルでエラー・メッセージをチェックしてください。

`$ORACLE_HOME/opmn/logs/ipm.log` ファイルには、OC4J_SECURITY プロセスに関する基本情報も含まれているため、Oracle Delegated Administration Services 実装の全体的な状態を判断する際に役立ちます。ipm.log ファイルで OC4J_SECURITY を検索し、見つかったエラーを確認してください。ログ・ファイルには、通常、OC4J_SECURITY に関して次のメッセージが記録されています。

```
Starting Process: OC4J-OC4J_SECURITY~default_island~1
Process Alive: OC4J-OC4J_SECURITY~default_island~1
Stopping Process: OC4J-OC4J_SECURITY~default_island~1
Process Stopped: OC4J-OC4J_SECURITY~default_island~1
Restarting Process: OC4J-OC4J_SECURITY~default_island~1
```

ipm.log ファイルには、OC4J_SECURITY プロセスで発生した可能性のある問題を説明するメッセージも含まれます。たとえば、OC4J_SECURITY プロセスの起動中に OPMN に問題が発生した場合、次のメッセージがログ・ファイルに記録されます。

```
Infra.us.oracle.com-OC4J-OC4J_SECURITY~default_island~1952317603:0
Status: NONE
Operation: internal (oid dependency failed)
ErrFile:
String: OID
```

デバッグの有効化

Oracle Delegated Administration Services のデバッグを有効または無効にするには、`$ORACLE_HOME/ldap/das/das.properties` ファイル内の `DEBUG` および `DEBUG_LEVEL` フラグを変更します。表 B-1 で、各フラグについて説明します。

表 B-1 das.properties ファイル内のデバッグ・フラグ

フラグ	説明	値	デフォルト値
DEBUG	デバッグが有効になっているかどうかを決定する。	true false	false
DEBUG_LEVEL	デバッグ・レベルを指定する。	error (すべてのエラーを記録) schema (Oracle Internet Directory スキーマ操作に関連するエラーを記録) tracing (各種の操作の詳細なトレース情報を記録) session (Oracle Delegated Administration Services 接続プールまたは接続の取得および解放に関連する操作についての情報を記録)	なし

DEBUG_LEVEL フラグは、DEBUG フラグに `true` の値が割り当てられている場合にのみ解析されます。各フラグに割り当てる値は、縦線 (|) で区切ります。たとえば、次の文では、DEBUG フラグに `true` の値が割り当てられ、DEBUG_LEVEL フラグに `tracing` の値が割り当てられません。

```
DEBUG|true
DEBUG_LEVEL|tracing
```

das.properties ファイルを変更した後、Oracle Delegated Administration Services インスタンスを再起動する必要があります。Oracle Delegated Administration Services を再起動する前に、既存の ipm.log ファイルを削除して、以前の Oracle Delegated Administration Services インスタンスのメッセージを含まない新規ログ・ファイルを作成するかどうかを検討してください。

関連項目: 1-8 ページの「[Oracle Delegated Administration Services の起動および停止](#)」

セルフ・サービス・コンソールに関する問題の診断

この項では、セルフ・サービス・コンソールに関するトラブルシューティングを行う方法について説明します。次の項目について説明します。

- [アプリケーションの診断設定およびロギング設定の表示と構成](#)
- [セッション・レベルの診断設定の表示と構成](#)
- [ユニット・レベルの診断設定の構成](#)
- [ログインに関する問題の診断](#)
- [ユーザーがパスワードを変更するよう複数回要求される問題](#)
- [ユーザー・エントリの欠落](#)
- [エラー・メッセージの解釈](#)

Oracle Delegated Administration Services の診断設定を使用すると、ログ・ファイルを調べずに現在の実装をデバッグできます。構成権限を保持している場合は、Oracle Delegated Administration Services を再起動せずに実行時のロギング・レベルを変更することも可能です。

関連項目: 付録 B「[Oracle Delegated Administration Services に関するトラブルシューティング](#)」

アプリケーションの診断設定およびロギング設定の表示と構成

すべてのユーザー・セッションおよび Oracle Delegated Administration Services アプリケーションのすべてのユニットを対象に、アプリケーション・レベルの診断設定を表示および構成できます。診断設定は、オンとオフを切り替えることが可能です。アプリケーション・レベルの診断設定をオンにすると、セッション・レベルまたはユニット・レベルの診断設定によって上書きされないかぎり、診断情報が表示されます。アプリケーション・レベルの診断設定をオフにすると、セッション・レベルまたはユニット・レベルの診断設定によって上書きされないかぎり、診断情報は表示されません。

アプリケーション・レベルの診断設定を表示および構成する手順は、次のとおりです。

1. 次の URL を Web ブラウザに入力し、「[アプリケーション・レベルの診断設定](#)」ウィンドウを表示します。

`http://host_name:port_number/oiddas/ui/oracle/ldap/das/pages/Application`

このウィンドウについては、A-10 ページの「[アプリケーション・レベルの診断設定](#)」を参照してください。

2. 「情報」セクションにアプリケーション・レベルの基本的な構成設定が表示され、「接続プール」セクションに接続プールの設定と統計が表示されます。

診断情報を表示する手順は、次のとおりです。

- a. 「構成」セクションで、「値」フィールドを「オン」に変更します。
- b. 「更新」を選択します。Web ページの一番下までスクロールし、診断情報を参照します。

ロギング・レベルを変更する手順は、次のとおりです。

- a. 「ロギング」セクションで、変更するロギング・レベルのチェック・ボックスをクリックします。
- b. 「変更後のログ・レベル」ボックスから適切な値を選択します。
- c. 「更新」を選択します。

セッション・レベルの診断設定の表示と構成

現在のユーザー・セッションおよび Oracle Delegated Administration Services アプリケーションのすべてのユニットを対象に、セッション・レベルの診断設定を表示および構成できます。診断設定は、オンとオフを切り替えることや、アプリケーション・レベルの診断設定を継承することが可能です。セッション・レベルの診断設定をオンにすると、ユニット・レベルの診断設定によって上書きされないかぎり、診断情報が表示されます。セッション・レベルの診断設定をオフにすると、ユニット・レベルの診断設定によって上書きされないかぎり、診断情報は表示されません。特定の診断設定を継承するように構成すると、アプリケーション・レベルの診断設定が適用されます。

セッション・レベルの診断設定を表示および構成する手順は、次のとおりです。

1. 次の URL を Web ブラウザに入力し、「セッション・レベルの診断設定」ウィンドウを表示します。

```
http://host_name:port_number/oiddas/ui/oracle/ldap/das/pages/Session
```

このウィンドウについては、A-26 ページの「セッション・レベルの診断設定」を参照してください。

2. 「情報」セクションにセッション・レベルの基本的な構成設定が表示され、「ナビゲーション」セクションにコンソール・ナビゲーションの設定が表示されます。

セッション・レベルの診断設定を変更する手順は、次のとおりです。

- a. 「構成」セクションで、変更する診断設定の「値」フィールドに適切な値を選択します。
- b. 「更新」を選択します。

ユニット・レベルの診断設定の構成

ユニット・レベルの診断設定を使用すると、特定ユニットの現在のユーザー・セッションに関する診断情報の表示を制御できます。ユニット・レベルの診断設定には、オン (on)、オフ (off)、継承 (inherit) などの値を使用できます。ユニット・レベルの診断設定をオンにすると、特定ユニットの診断情報が表示されます。ユニット・レベルの診断設定をオフにすると、特定ユニットの診断情報は表示されません。診断設定を継承する値を指定すると、セッション・レベルの診断設定が適用されます。

現在のユーザー・セッションおよび特定ユニットを対象に診断を有効化または無効化するには、対象となるユニットの URL に疑問符 (?) を付加し、その後 `diagnostic=on`、`diagnostic=off` または `diagnostic=inherit` と続けて入力します。たとえば、次の URL では、ユーザー検索ユニットを対象に現在のユーザー・セッションの診断を有効化しています。

```
http://host_name:port_number/oiddas/ui/oracle/ldap/das/pages/UserSearch?diagnostic=on
```

ログインに関する問題の診断

ログインの際の問題については、`$ORACLE_HOME/ldap/log/das.log` ファイルを調べてください。また、次の項目を確認してください。

- URL に正しいインフラストラクチャ・ホスト名と HTTP サーバー・ポートが含まれているかどうか。
- 正しいリダイレクション URL を使用しているかどうか。
- Web クライアント・サーバーからインフラストラクチャ・サーバーに対して ping および nslookup コマンドを正常に実行できるかどうか。
- 管理アカウントとユーザー・アカウントの両方から ldapbind コマンドを実行できるかどうか。
- 特定のユーザー・セットがログインに失敗していないかどうか。
- いずれかのユーザー・アカウントがロックされていないかどうか。

関連資料： Oracle Internet Directory のパスワード・ポリシーの詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

さらに、次のプロパティが `$ORACLE_HOME/config/ias.properties` ファイルで正しく設定されていることを確認してください。

- DAS.LaunchSuccess
- IASName
- InfrastructureUse
- OIDhost
- OIDport
- OIDsslport
- VirtualHostName
- InfrastructureDBCommonName

最後に、OC4J_SECURITY 情報が `$ORACLE_HOME/opmn/conf/opmn.xml` ファイルで正しく設定されていることを確認してください。OC4J_SECURITY 情報は、opmn.xml ファイルの次の要素に割り当てられています。

```
<process-type id="OC4J_SECURITY" module-id="OC4J">
  <environment>
    <variable id="DISPLAY" value="Infrahost.us.oracle.com:0.0"/>
    <variable id="LD_LIBRARY_PATH" value="/app/oracle/product/10g/infra/lib"/>
  </environment>
  <module-data>
    <category id="start-parameters">
      <data id="java-options" value="-Djava.security.policy=/app/oracle/product
        /10g/infra/j2ee/OC4J_SECURITY/config/java2.policy -Djava.awt.headless=true
        -Xmx512m -Djava.awt.headless=true"/>
      <data id="oc4j-options" value="-properties"/>
    </category>
    <category id="stop-parameters">
      <data id="java-options" value="-Djava.security.policy=/app/oracle/product/
        10g/infra/j2ee/OC4J_SECURITY/config/java2.policy
        -Djava.awt.headless=true"/>
    </category>
  </module-data>
  <start timeout="900" retry="2"/>
  <stop timeout="120"/>
  <restart timeout="720" retry="2"/>
</process-type>
```

```
<port id="ajp" range="3301-3400"/>
<port id="rmi" range="3201-3300"/>
<port id="jms" range="3701-3800"/>
<process-set id="default_island" numprocs="1"/>
</process-type>
```

関連資料: ログインの問題の解決方法に関する追加情報は、『Oracle Application Server Single Sign-On 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザーがパスワードを変更するよう複数回要求される問題

Oracle Internet Directory では、最初のログイン後にユーザーにパスワードの変更を促すパスワード・ポリシーを作成できます。ユーザーは、Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールの「パスワード変更」画面を使用してパスワードを変更する必要があります。その他の方法を使用すると、パスワードの変更要件が満たされず、次回ログイン時に再度パスワードの変更を要求される可能性があります。

関連資料: Oracle Internet Directory のパスワード・ポリシーの詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザー・エントリの欠落

inetOrgPerson オブジェクト・クラスに属さない Oracle Internet Directory のユーザー・エントリは、セルフ・サービス・コンソールに表示されません。ユーザー・エントリをオブジェクト・クラスに割り当てるには、Oracle Directory Manager または ldapmodify コマンドを使用します。

関連資料: Oracle Directory Manager および ldapmodify コマンドの使用方法は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

エラー・メッセージの解釈

この項では、セルフ・サービス・コンソールの使用時に表示されるエラー・メッセージについて説明します。

500 内部サーバー・エラー

原因: 通常、Oracle Delegated Administration Services が正常に起動されなかったことを示します。

処置: 1-5 ページの「[Oracle Delegated Administration Services のインストールと構成](#)」の手順に従って、Oracle Delegated Administration Services が稼働しているかどうかを判断してください。また、\$ORACLE_HOME/ldap/log/das.log ファイルでエラーの原因を調べてください。

警告: ページが期限切れです。

原因: 一部の Oracle Delegated Administration Services ページでは、HTTP リクエストの発行に POST メソッドが使用されます。POST メソッドを使用して発行されたページを表示するために「戻る」ボタンをクリックすると、通常、Web ブラウザからページが期限切れであるという警告メッセージが表示されます。一般に、DAS ページでの「戻る」ボタンの使用はお薦めできません。

処置: Web ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。かわりに、「戻る」ボタンか、セルフ・サービス・コンソールで表示されるその他のナビゲーション・ボタンおよびリンクを使用してください。

エラー: 続行できません。パスワードのリセットを管理者に依頼してください。

原因: このエラーは、ユーザーがパスワード・ヒントを指定する前にパスワードをリセットしようとした場合に発生します。

処置: 管理者は、5-11 ページの「[ユーザー・パスワードの変更](#)」の手順に従って、ユーザーのパスワードをリセットする必要があります。このエラーが再び発生しないようにするには、ユーザーが 4-2 ページの「[パスワードおよびパスワード・ヒントの変更](#)」の手順に従ってパスワード・ヒントを指定する必要があります。

サービス・ユニットに関する問題の診断

Oracle Delegated Administration Services は、ユーザーのかわりにディレクトリ操作を実行するために事前定義された Web ベースのサービス・ユニットのセットで構成されます。これらのユニットを使用すると、ディレクトリのユーザーは各自の情報を更新できます。この項では、次の項目について説明します。

- [ポップアップ・ウィンドウのブロックへの対応](#)
- [ドメイン間起動の問題の解決策](#)
- [SSO ログイン問題に関するトラブルシューティング](#)

関連資料: カスタム・アプリケーションを作成して、この項で説明している問題を解決する方法の追加情報は、『[Oracle Identity Management アプリケーション開発者ガイド](#)』を参照してください。

ポップアップ・ウィンドウのブロックへの対応

クライアントの Web ブラウザでポップアップ・ウィンドウのブロックが有効になっている場合、Oracle Delegated Administration Services サービス・ユニットが新しい Web ブラウザ・ウィンドウを開こうとするときに、新しいウィンドウが開かないことがあります。ポップアップ・ウィンドウがブロックされないようにするには、ローカル・アプリケーション・サーバーで新しいウィンドウを開いた直後にページを Oracle Delegated Administration Services サービス・ユニットにリダイレクトするようなカスタム・アプリケーションを作成する必要があります。

ドメイン間起動の問題の解決策

コール側ページにパラメータを返す必要のある Oracle Delegated Administration Services サービス・ユニットでは、ドメイン間 JavaScript セキュリティの制約が原因で、障害が発生することがあります。このような問題を回避するには、カスタム Oracle Internet Directory アプリケーションを作成する必要があります。

SSO ログイン問題に関するトラブルシューティング

セルフ・サービス・コンソールにログインする際に、サーバーが見つからないというエラー・メッセージが Web ブラウザに表示されます。これは、SSO サービスが停止している場合または mod_osso サービスが適切に構成されていない場合に発生します。この問題を解決するには、SSO サービスを再起動するか、mod_osso サービスを再構成します。詳細は、『[Oracle Application Server Single Sign-On 管理者ガイド](#)』を参照してください。

その他の問題

前述の各項の情報では問題の解決に不十分な場合は、**Oracle MetaLink** (<http://metalink.oracle.com>) で追加の解決策を参照できます。問題の解決策が見つからない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターに問い合わせてください。

関連資料:

- Oracle Application Server のリリース・ノート: Oracle Technology Network (<http://www.oracle.com/technology/documentation/index.html>) で入手できます。

用語集

ACI

「[アクセス制御情報項目](#)」を参照。

ACL

「[アクセス制御リスト](#)」を参照。

ACP

「[アクセス制御ポリシー・ポイント](#)」を参照。

API

「[Application Program Interface \(API\)](#)」を参照。

Application Program Interface (API)

指定したアプリケーションのサービスにアクセスするための一連のプログラム。たとえば、LDAP 対応のクライアントは、LDAP API で使用可能なプログラム・コールを通して、ディレクトリ情報にアクセスする。

ASR

「[Oracle Database アドバンスド・レプリケーション](#)」を参照

configset

「[構成設定エントリ](#)」を参照。

DES

データ暗号化規格。1970 年代に IBM 社と米国政府によって公式規格として開発されたブロック暗号。

DIB

「[ディレクトリ情報ベース](#)」を参照。

DIS

「[ディレクトリ統合サーバー](#)」を参照。

DIT

「[ディレクトリ情報ツリー](#)」を参照。

DN

「[識別名](#)」を参照。

DRG

「[ディレクトリ・レプリケーション・グループ](#)」を参照。

DSA

「[ディレクトリ・システム・エージェント](#)」を参照。

DSE

「[ディレクトリ固有のエントリ](#)」を参照。

DSA 固有のエントリ。異なる DSA に同じディレクトリ情報ツリー名を保持できるが、内容は異なる必要がある。つまり、DSE を保持している DSA に固有の内容を保持できる。DSE は、それを保持している DSA に固有の内容を含むエントリである。

Global Unique Identifier (GUID)

エントリがディレクトリに追加されると、システムで生成され、エントリに挿入される識別子。マルチマスター・レプリケート環境で、DN ではなく GUID がエントリを一意に識別する。エントリの GUID をユーザーが変更することはできない。

GUID

「[Global Unique Identifier](#)」を参照。

ID 管理 (identity management)

組織でネットワーク・エンティティのセキュリティ・ライフ・サイクル全体を管理するプロセス。通常、組織のアプリケーション・ユーザーの管理を指す。セキュリティ・ライフ・サイクルの手順には、アカウント作成、一時停止、権限変更およびアカウント削除が含まれる。管理されるネットワーク・エンティティには、デバイス、プロセス、アプリケーション、またはネットワーク環境で対話する必要があるその他のすべてのものが含まれる。ID 管理プロセスで管理されるエンティティには、組織外のユーザー（顧客、取引先、Web サービスなど）も含まれる。

ID 管理レルム (identity management realm)

すべてが同じ管理ポリシーによって管理されている識別情報の集合。企業では、イントラネットへのアクセス権限を所有しているすべての従業員は 1 つのレルムに属し、企業の公開アプリケーションにアクセスするすべての外部ユーザーは別のレルムに属する。ID 管理レルムは、特別なオブジェクト・クラスが関連付けられた特定のエントリでディレクトリ内に表される。

ID 管理レルム固有の Oracle コンテキスト (identity management realm-specific Oracle Context)

各 ID 管理レルムに含まれた Oracle コンテキスト。これには、次の情報が格納されている。

- ID 管理レルムのユーザー・ネーミング・ポリシー（ユーザーに名前を付け、配置する方法）
- 必須認証属性
- ID 管理レルム内のグループの位置
- ID 管理レルムに対する権限の割当て（レルムにユーザーを追加する権限の割当てなど）
- レルムに関するアプリケーション固有のデータ（認可など）

Internet Engineering Task Force (IETF)

新しいインターネット標準仕様の開発に従事する主要機関。インターネット・アーキテクチャおよびインターネットの円滑な操作の発展に関わるネットワーク設計者、運営者、ベンダーおよび研究者による国際的な団体である。

Internet Message Access Protocol (IMAP)

プロトコルの 1 種。クライアントは、このプロトコルを使用して、サーバー上の電子メール・メッセージに対するアクセスおよび操作を行う。リモートのメッセージ・フォルダ（メールボックスとも呼ばれる）を、ローカルのメールボックスと機能的に同じ方法で操作できる。

LDAP

「[Lightweight Directory Access Protocol](#)」を参照。

LDAP Data Interchange Format (LDIF)

LDAP コマンドライン・ユーティリティに使用する入力ファイルをフォーマットするための一連の規格。

LDIF

「[LDAP Data Interchange Format](#)」を参照。

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)

標準的で拡張可能なディレクトリ・アクセス・プロトコル。LDAP は、LDAP クライアントとサーバーが通信を行うための共通言語である。業界標準のディレクトリ製品（Oracle Internet Directory など）をサポートする設計規則のフレームワーク。

MD4

128 ビットのハッシュまたはメッセージ・ダイジェスト値を生成する一方向ハッシュ関数。1 ビットでもファイルの値が変更された場合、そのファイルの MD4 チェックサムは変更される。元のファイルと同じ結果を MD4 で生成するようにファイルを偽造することはほぼ不可能である。

MD5

MD4 の改善されたバージョン。

MDS

「[マスター定義サイト](#)」を参照。

MTS

「[共有サーバー](#)」を参照。

OEM

「[Oracle Enterprise Manager](#)」を参照。

OID 制御ユーティリティ (OID Control Utility)

サーバーの起動と停止のコマンドを発行するコマンドライン・ツール。コマンドは、[OID モニター](#)のプロセスによって解析され、実行される。

OID データベース・パスワード・ユーティリティ (OID Database Password Utility)

Oracle Internet Directory が Oracle データベースに接続するときのパスワードの変更に使用されるユーティリティ。

OID モニター (OID Monitor)

Oracle ディレクトリ・サーバー・プロセスの開始、監視および終了を実行する Oracle Internet Directory のコンポーネント。レプリケーション・サーバー（インストールされている場合）および Oracle Directory Integration and Provisioning Server の制御も行う。

Oracle Call Interface (OCI)

Application Program Interface (API) の 1 つ。これにより、第三代言語のネイティブ・プロシージャやファンクション・コールを使用して、Oracle データベース・サーバーにアクセスし、SQL 文の実行のすべての段階を制御するアプリケーションを作成できる。

Oracle Database アドバンスド・レプリケーション (Oracle Database Advanced Replication)

2 つの Oracle データベース間で、データベースの表を継続的に同期化できる Oracle Database の機能。

Oracle Delegated Administration Services

Oracle Delegated Administration Services ユニットと呼ばれる個々の事前定義済サービスのセットで、ユーザーのかわりにディレクトリ操作を実行する。Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールによって、Oracle Internet Directory を使用する Oracle アプリケーションおよびサード・パーティ・アプリケーションの両方の管理ソリューションを容易に開発および配布できる。

Oracle Directory Integration and Provisioning Server

Oracle Directory Integration Platform 環境で、Oracle Internet Directory の変更イベントを監視し、[ディレクトリ統合プロファイル](#)の情報に基づいてアクションを行うデーモン・プロセス。

Oracle Directory Integration Platform

[Oracle Internet Directory](#) のコンポーネントの 1 つ。Oracle Internet Directory のような中央 LDAP ディレクトリの周囲のアプリケーションを統合するために開発されたフレームワーク。

Oracle Directory Manager

Oracle Internet Directory を管理するための、Graphical User Interface (GUI) を備えた Java ベースのツール。

Oracle Enterprise Manager

Oracle 製品の 1 つ。グラフィカルなコンソール、エージェント、標準的なサービスおよびツールを組合せ、Oracle 製品を管理するための統合された包括的なシステム管理プラットフォームを提供する。

Oracle Identity Management

すべての企業識別情報および企業内の様々なアプリケーションへのアクセスを集中的かつ安全に管理するための配置を可能にするインフラストラクチャ。

Oracle Internet Directory

分散ユーザーやネットワーク・リソースに関する情報の検索を可能にする、一般的な用途のディレクトリ・サービス。LDAP バージョン 3 と Oracle Database の高度のパフォーマンス、スケーラビリティ、耐久性および可用性を組み合わせたもの。

Oracle Net Services

Oracle のネットワーク製品ファミリの基礎。Oracle Net Services を使用すると、サービスやアプリケーションを異なるコンピュータに配置して通信できる。Oracle Net Services の主な機能には、ネットワーク・セッションの確立およびクライアント・アプリケーションとサーバー間のデータ転送がある。Oracle Net Services は、ネットワーク上の各コンピュータに配置される。ネットワーク・セッションの確立後は、Oracle Net Services はクライアントとサーバーのためのデータ伝達手段として機能する。

Oracle PKI 証明書使用条件 (Oracle PKI certificate usages)

[証明書](#)でサポートされる Oracle アプリケーション・タイプを定義する。

Oracle Wallet Manager

セキュリティ管理者が、クライアントとサーバー上での公開鍵セキュリティ資格証明の管理に使用する Java ベースのアプリケーション。

関連資料: 『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』

peer-to-peer レプリケーション (peer-to-peer replication)

マルチマスター・レプリケーションまたは n-way レプリケーションとも呼ばれる。同等に機能する複数サイトがレプリケートされたデータのグループを管理できるようにするレプリケーションのタイプ。このようなレプリケーション環境では、各ノードはサプライヤ・ノードであると同時にコンシューマ・ノードであり、各ノードでディレクトリ全体がレプリケートされる。

PKCS #12

公開鍵暗号規格 (PKCS)。RSA Data Security, Inc. の PKCS #12 は、個人的な認証資格証明を、通常 **Wallet** と呼ばれる形式で保管および転送するための業界標準である。

RDN

「**相対識別名**」を参照。

SASL

「**Simple Authentication and Security Layer**」を参照。

Secure Hash Algorithm (SHA)

長さが 264 ビット未満のメッセージを取得して、160 ビットのメッセージ・ダイジェスト値を生成するアルゴリズム。このアルゴリズムは MD5 よりも若干速度が遅くなるが、大きなメッセージ・ダイジェストによって、総当たり攻撃や反転攻撃に対処できる。

Secure Sockets Layer (SSL)

ネットワーク接続を保護するために Netscape Communications Corporation が開発した業界標準プロトコル。SSL では公開鍵インフラストラクチャ (PKI) を使用して、認証、暗号化およびデータ整合性を実現している。

SGA

「**システム・グローバル領域**」を参照。

SHA

「**Secure Hash Algorithm**」を参照。

Simple Authentication and Security Layer (SASL)

接続ベースのプロトコルに認証サポートを追加する方法。この仕様を使用するために、プロトコルには、ユーザーを識別してサーバーに対して認証を行い、オプションで、以降のプロトコル対話に使用するセキュリティ・レイヤーを規定するコマンドが含まれる。このコマンドには、SASL 方式を識別する必須引数がある。

SLAPD

スタンドアロンの LDAP デーモン。

SSL

「**Secure Sockets Layer**」を参照。

subACLSubentry

ACL 情報が含まれた特定のタイプのサブエントリ。

subSchemaSubentry

スキーマ情報が含まれた特定のタイプの**サブエントリ**。

TLS

「**Transport Layer Security**」を参照。

Transport Layer Security (TLS)

インターネット上の通信プライバシーを提供するプロトコル。このプロトコルによって、クライアント / サーバー・アプリケーションは、通信時の盗聴、改ざんまたはメッセージの偽造を防止できる。

Unicode

汎用キャラクタ・セットのタイプ。16 ビットの領域にエンコードされた 64K 個の文字の集合。既存のほとんどすべてのキャラクタ・セット規格の文字をすべてエンコードする。世界中で使用されているほとんどの記述法を含む。Unicode は Unicode Inc. によって所有および定義される。Unicode は標準的なエンコーディングであり、異なるロケールで値を伝達できることを意味する。しかし、Unicode とすべての Oracle キャラクタ・セットとの間で、情報の損失なしにラウンドトリップ変換が行われることは保証されない。

UNIX Crypt

UNIX 暗号化アルゴリズム。

UTC (Coordinated Universal Time)

世界中のあらゆる場所で共通の標準時間。以前から現在に至るまで広くグリニッジ時 (GMT) または世界時と呼ばれており、UTC は名目上は地球の本初子午線に関する平均太陽時を表す。UTC 形式である場合、値の最後に z が示される (例: 200011281010z)。

UTF-16

Unicode の 16 ビット・エンコーディング。Latin-1 文字は、この規格の最初の 256 コード・ポイントである。

UTF-8

文字ごとに連続した 1、2、3 または 4 バイトを使用する Unicode の可変幅 8 ビット・エンコーディング。0 ~ 127 の文字 (7 ビット ASCII 文字) は 1 バイトでエンコードされ、128 ~ 2047 の文字では 2 バイト、2048 ~ 65535 の文字では 3 バイト、65536 以上の文字は 4 バイトを必要とする。このための Oracle キャラクタ・セット名は AL32UTF8 (Unicode 3.1 規格用) となる。

Wallet

個々のエンティティに対するセキュリティ資格証明の格納と管理に使用される抽象的な概念。様々な暗号化サービスで使用するために、資格証明の格納と取出しを実現する。Wallet Resource Locator (WRL) は、Wallet の位置を特定するために必要な情報をすべて提供する。

X.509

公開鍵の署名に使用される ISO の一般的な形式。

アクセス制御情報項目 (Access Control Information Item: ACI)

どのディレクトリ・データに対して、誰がどのタイプのアクセス権限を持っているかを判断する属性。この属性には、エントりに関係する構造型アクセス項目と、属性に関するコンテンツ・アクセス項目に関する 1 組の規則が含まれている。両方のアクセス項目に対するアクセス権限を、1 つ以上のユーザーまたはグループに付与できる。

アクセス制御ポリシー・ポイント (Access Control Policy Point: ACP)

セキュリティ・ディレクティブを含むエントリ。このディレクティブは、[ディレクトリ情報ツリー](#)内のすべての下位エントりに適用される。

アクセス制御リスト (Access Control List: ACL)

アクセス・ディレクティブのグループ。管理者が定義する。ディレクティブは、特定のクライアントまたはクライアントのグループ、あるいはその両方に対して、特定データへのアクセスのレベルを付与する。

アドバンスト・レプリケーション (Advanced Replication: AR)

「[Oracle Database アドバンスト・レプリケーション](#)」を参照。

暗号化 (cryptography)

データのエンコードとデコードを行い、保護メッセージを生成する作業。

暗号化 (encryption)

メッセージの内容を、宛先の受信者以外の第三者が読むことのできない形式 (暗号文) に変換する処理。

暗号スイート (cipher suite)

SSLにおいて、ネットワークのノード間でメッセージ交換に使用される認証、暗号化およびデータ整合性アルゴリズムのセット。SSL ハンドシェイク時に、2つのノード間で折衝し、メッセージを送受信するときに使用する暗号スイートを確認する。

一方向関数 (one-way function)

一方向への計算は容易だが、逆の計算 (反対方向への計算) は非常に難しい関数。

一方向ハッシュ関数 (one-way hash function)

可変サイズの入力を取得して、固定サイズの出力を作成する **一方向関数**。

一致規則 (matching rule)

検索または比較操作における、検索対象の属性値と格納されている属性値との間の等価性の判断。たとえば、telephoneNumber 属性に関連付けられた一致規則では、(650) 123-4567 を (650) 123-4567 または 6501234567 のいずれか、あるいはその両方と一致させることができる。属性の作成時に、その属性を一致規則と対応付けることができる。

委任管理者 (delegated administrator)

ホスティングされた環境では、アプリケーション・サービス・プロバイダなどの1企業が、他の複数の企業に Oracle コンポーネントを使用可能にして、その情報を格納する。この種の環境では、グローバル管理者はディレクトリ全体にまたがるアクティビティを実行する。委任管理者と呼ばれる他の管理者は、特定の ID 管理レームでのロール、または特定のアプリケーションに対してのロールを持つ。

インスタンス (instance)

「ディレクトリ・サーバー・インスタンス」 を参照。

インポート・エージェント (import agent)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、Oracle Internet Directory にデータをインポートするエージェント。

インポート・データ・ファイル (import data file)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、**インポート・エージェント**によってインポートされたデータを格納するファイル。

エクスポート・エージェント (export agent)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、Oracle Internet Directory からデータをエクスポートするエージェント。

エクスポート・データ・ファイル (export data file)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、**エクスポート・エージェント**によってエクスポートされたデータを格納するファイル。

エクスポート・ファイル (export file)

「エクスポート・データ・ファイル」 を参照。

エン트리 (entry)

ディレクトリの基本単位で、ディレクトリ・ユーザーに関係のあるオブジェクトに関する情報が含まれている。

オブジェクト・クラス (object class)

名前を持った属性のグループ。属性をエントリに割り当てるときは、その属性を保持しているオブジェクト・クラスをそのエントリに割り当てる。

同じオブジェクト・クラスに関連するオブジェクトはすべて、同じ属性を共有する。

介在者 (man-in-the-middle)

第三者によるメッセージの不正傍受などのセキュリティ攻撃。第三者、つまり介在者は、メッセージを復号化して再暗号化し（元のメッセージを変更する場合と変更しない場合がある）、元のメッセージの宛先である受信者に転送する。これらの処理はすべて、正当な送受信者が気付かないうちに行われる。この種のセキュリティ攻撃は、[認証](#)が行われていない場合にのみ発生する。

外部エージェント (external agent)

Oracle Directory Integration and Provisioning Server に依存しないディレクトリ統合エージェント。Oracle Directory Integration and Provisioning Server は外部エージェントに対して、スケジューリング、マッピングまたはエラー処理の各サービスを提供しない。外部エージェントは、通常、サード・パーティのメタディレクトリ・ソリューションを Oracle Directory Integration Platform に統合するときに使用する。

鍵 (key)

暗号化において広く使用されているビット列。データの暗号化と復号化を可能にする。鍵は別の数学的な操作にも使用される。暗号が与えられると、鍵によって、平文から暗号文へのマッピングが判断される。

鍵のペア (key pair)

[公開鍵](#)とそれに対応する [秘密鍵](#)のペア。

「[公開鍵と秘密鍵のペア](#)」を参照。

仮想 IP アドレス (virtual IP address)

Oracle Application Server コールド・フェイルオーバー・クラスタ (ID 管理) では、各物理ノードに独自の物理 IP アドレスと物理ホスト名がある。単一のシステムであるというイメージを外部に示すために、クラスタは、クラスタ内のどの物理ノードにも変更できる動的 IP アドレスを使用する。これは、仮想 IP アドレスと呼ばれる。

仮想ホスト名 (virtual host name)

Oracle Application Server コールド・フェイルオーバー・クラスタ (ID 管理) で、仮想 IP アドレスに対応するホスト名。

簡易認証 (simple authentication)

ネットワークでの送信時に暗号化されない識別名とパスワードを使用して、クライアントがサーバーに対して自己認証を行うプロセス。簡易認証オプションでは、クライアントが送信した識別名とパスワードと、ディレクトリに格納されている識別名とパスワードが一致していることをサーバーが検証する。

管理領域 (administrative area)

ディレクトリ・サーバー上の 1 つのサブツリー。そのエントリは、1 つの管理認可レベル（スキーマ、ACL および共通属性）で制御される。

競合 (contention)

リソースの競合。

兄弟関係 (sibling)

1 つ以上の他のエントリと同じ親を持ったエントリ。

共有サーバー (shared server)

多数のユーザー・プロセスが、非常に少数のサーバー・プロセスを共有できるように構成されたサーバー。これにより、サポートされるユーザー数が増える。共有サーバー構成では、多数のユーザー・プロセスがディスパッチャに接続する。ディスパッチャは、複数の着信ネットワーク・セッション・リクエストを共通キューに送る。複数のサーバー・プロセスの共有プールの中で、あるアイドル状態の共有サーバー・プロセスが共通キューからリクエストを取り出す。これは、サーバー・プロセスの小規模プールで大量のクライアントを処理できることを意味する。専用サーバーと対比。

クラスタ (cluster)

単一のコンピューティング・リソースとして使用される、相互接続された使用可能なすべてのコンピュータの集合。ハードウェア・クラスタによって、高可用性およびスケラビリティが実現する。

グループ検索ベース (group search base)

Oracle Internet Directory のデフォルトのディレクトリ情報ツリーで、すべてのグループを検索できる ID 管理レムムのノード。

グローバル管理者 (global administrator)

ホスティングされた環境では、アプリケーション・サービス・プロバイダなどの 1 企業が、他の複数の企業に Oracle コンポーネントを使用可能にして、その情報を格納する。この種の環境では、グローバル管理者はディレクトリ全体にまたがるアクティビティを実行する。

継承 (inherit)

オブジェクト・クラスが別のクラスから導出されたときに、導出元のオブジェクト・クラスの多数の特性も導出（継承）されること。同様に、属性のサブタイプも、そのスーパータイプの特性を継承する。

ゲスト・ユーザー (guest user)

匿名ユーザーではなく、特定のユーザー・エントリも持っていないユーザー。

コールド・バックアップ (cold backup)

データベース・コピー・プロシージャを使用して、新規 **DSA** ノードを既存のレプリケート・システムに追加する手順。

公開鍵 (public key)

公開鍵暗号において一般に公開される鍵。主に暗号化に使用されるが、署名の検証にも使用される。

公開鍵暗号 (public-key cryptography)

公開鍵と秘密鍵を使用する方法に基づいた暗号化。

公開鍵暗号 (public-key encryption)

メッセージの送信側が、受信側の公開鍵でメッセージを暗号化するプロセス。配信されたメッセージは、受信側の秘密鍵で復号化される。

公開鍵と秘密鍵のペア (public/private key pair)

数学的に関連付けられた 2 つの数字のセット。1 つは秘密鍵、もう 1 つは公開鍵と呼ばれる。公開鍵は通常広く使用可能であるのに対して、秘密鍵はその所有者のみ使用可能である。公開鍵で暗号化されたデータは、それに関連付けられた秘密鍵でのみ復号化でき、秘密鍵で暗号化されたデータは、それに関連付けられた公開鍵でのみ復号化できる。公開鍵で暗号化されたデータを、同じ公開鍵で復号化することはできない。

構成設定エントリ (configuration set entry)

ディレクトリ・サーバーの特定インスタンスに関する構成パラメータを保持しているディレクトリ・エントリ。複数の構成設定エントリを格納でき、実行時に参照できる。構成設定エントリは、DSE の subConfigsubEntry 属性で指定されているサブツリー内でメンテナンスされる。DSE 自体は、サーバーの起動対象である関連の [ディレクトリ情報ベース](#) に常駐している。

コンシューマ (consumer)

レプリケーション更新の宛先となるディレクトリ・サーバー。スレーブと呼ばれることもある。

コンテキスト接頭辞 (context prefix)

[ネーミング・コンテキスト](#) のルートの DN。

サービス時間 (service time)

リクエストの開始から、そのリクエストに対するレスポンスの完了までの時間。

サブエントリ (subentry)

サブツリー内のエントリ・グループに適用可能な情報が含まれているエントリのタイプ。情報には次の 3 つのタイプがある。

- アクセス制御ポリシー・ポイント
- スキーマ規則
- 共通属性

サブエントリは、管理領域のルートのすぐ下に位置している。

サブクラス (subclass)

別のオブジェクト・クラスから導出されたオブジェクト・クラス。導出元のオブジェクト・クラスは、その [スーパークラス](#) と呼ばれる。

サブスキーマ DN (subschema DN)

独立したスキーマ定義を持つディレクトリ情報ツリー領域のリスト。

サブタイプ (subtype)

オプションを持たない同じ属性に対して、1 つ以上のオプションを持つ属性。たとえば、American English をオプションとして持つ commonName (cn) 属性は、そのオプションを持たない commonName (cn) 属性のサブタイプである。逆に、オプションを持たない commonName (cn) 属性は、オプションを持つ同じ属性の [スーパータイプ](#) である。

サプライヤ (supplier)

レプリケーションにおいて、ネーミング・コンテキストのマスター・コピーを保持しているサーバー。マスター・コピーから [コンシューマ](#) ・サーバーに更新を供給する。

参照 (referral)

ディレクトリ・サーバーがクライアントに提供する情報。リクエストする情報を見つけるためにクライアントが接続する必要がある他のサーバーを示す。

「[ナレッジ参照](#)」も参照。

識別名 (distinguished name: DN)

ディレクトリ・エントリの一意名。親エントリの個々の名前がすべて、下からルート方向へ順に結合されて構成されている。

思考時間 (think time)

ユーザーが実際にプロセッサを使用していない時間。

システム・グローバル領域 (System Global Area: SGA)

共有メモリー構造の1グループ。1つの Oracle データベース・インスタンスに関するデータと制御情報が含まれている。複数のユーザーが同じインスタンスに同時に接続した場合、そのインスタンスの SGA 内のデータはユーザー間で共有される。したがって、SGA は共有グローバル領域と呼ばれることもある。バックグラウンド・プロセスとメモリー・バッファの組合せは、Oracle インスタンスと呼ばれる。

システム固有のエージェント (native agent)

Oracle Directory Integration Platform 環境において、**ディレクトリ統合サーバー**の制御下で実行されるエージェント。**外部エージェント**と対比。

システム操作属性 (system operational attribute)

ディレクトリ自体の操作に関係する情報を保持する属性。一部の操作情報は、サーバーを制御するためにディレクトリによって指定される (例: エントリのタイムスタンプ)。アクセス情報などのその他の操作情報は、管理者が定義し、ディレクトリ・プログラムの処理時に、そのプログラムによって使用される。

従属参照 (subordinate reference)

エントリのすぐ下から始まるネーミング・コンテキストの参照位置を、ディレクトリ情報ツリー内の下位方向に指し示すナレッジ参照。

上位参照 (superior reference)

ディレクトリ情報ツリー内で、参照先の DSA が保持しているすべてのネーミング・コンテキストより上位のネーミング・コンテキストを保持している DSA を上位方向に指し示すナレッジ参照。

証明書 (certificate)

公開鍵に対して識別情報を安全にバインドする ITU x.509 v3 の標準データ構造。証明書は、エンティティの公開鍵が、信頼できる機関 (**認証局**) によって署名されたときに有効となる。この証明書は、そのエンティティの情報が正しいこと、および公開鍵がそのエンティティに実際に属していることを保証する。

証明連鎖 (certificate chain)

エンド・ユーザーまたはサブスライバの証明書とその認証局の証明書を含む、順序付けられた証明書のリスト。

信頼できる証明書 (trusted certificate)

一定の信頼度を有すると認定された第三者の識別情報。信頼できる証明書は、識別情報の内容がそのエンティティと一致していることを検証するときに使用される。一般的に、信頼されている認証局によってユーザーの証明書が発行される。

スーパークラス (superclass)

別のオブジェクト・クラスの導出元のオブジェクト・クラス。たとえば、オブジェクト・クラス person は、オブジェクト・クラス organizationalPerson のスーパークラスである。後者の organizationalPerson は、person の**サブクラス**であり、person に含まれている属性を継承する。

スーパータイプ (supertype)

1つ以上のオプションを持つ同じ属性に対して、オプションを持たない属性。たとえば、オプションを持たない commonName (cn) 属性は、オプションを持つ同じ属性のスーパータイプである。逆に、American English をオプションとして持つ commonName (cn) 属性は、そのオプションを持たない commonName (cn) 属性の**サブタイプ**である。

スーパー・ユーザー (super user)

一般的には、ディレクトリ情報へのあらゆるアクセスが可能な特別なディレクトリ管理者。

スキーマ (schema)

属性、オブジェクト・クラスおよびそれらに対応する一致規則の集合。

スケーラビリティ (scalability)

使用可能なハードウェア・リソースに応じて、そのハードウェア・リソースによってのみ制限されるシステムの機能。

スポンサ・ノード (sponsor node)

レプリケーションにおいて、新規ノードに初期データを設定するために使用されるノード。

スマート・ナレッジ参照 (smart knowledge reference)

ナレッジ参照エントリが検索の有効範囲内にあるときに戻される[ナレッジ参照](#)。リクエストされた情報を格納しているサーバーを示す。

スループット (throughput)

Oracle Internet Directory が単位時間ごとに処理するリクエストの数。通常、「操作 / 秒」(1 秒当たりの操作件数) で表される。

スレーブ (slave)

「[コンシューマ](#)」を参照。

整合性 (integrity)

受信メッセージの内容が、送信時の元のメッセージの内容から変更されていないことを保証すること。

セカンダリ・ノード (secondary node)

Oracle Application Server コールド・フェイルオーバー・クラスタ (ID 管理) で、フェイルオーバー時に移動されるアプリケーションの移動先のクラスタ・ノード。

関連項目: 用語集 -17 ページの「[プライマリ・ノード](#)」

セッション鍵 (session key)

1 つのメッセージまたは 1 つの通信セッションの継続時間中に使用される、対称鍵暗号方式の鍵。

接続記述子 (connect descriptor)

特別にフォーマットされた、ネットワーク接続の接続先の説明。接続記述子には、宛先サービスとネットワーク・ルート情報が含まれる。

宛先サービスを示すには、その Oracle Database に対応するサービス名、あるいは Oracle リリース 8.0 またはバージョン 7 のデータベースに対応する Oracle システム識別子 (SID) を使用する。ネットワーク・ルートは、少なくとも、ネットワーク・アドレスによってリスナーの位置を提供する。

接続ディレクトリ (connected directory)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、それ自体 (たとえば、Oracle Human Resource データベース) と Oracle Internet Directory との間で完全なデータの同期が必要な情報リポジトリ。

相対識別名 (relative distinguished name: RDN)

ローカルの最下位レベルのエントリ名。エントリのアドレスを一意に識別するために使用される他の修飾エントリ名は含まれない。たとえば、cn=Smith,o=acme,c=US では、cn=Smith が相対識別名である。

属性 (attribute)

エントリの性質を説明する断片的な情報項目。1つのエントリは1組の属性から構成され、それぞれが**オブジェクト・クラス**に所属する。さらに、各属性にはタイプと値があり、タイプは属性の情報の種類を説明するものであり、値には実際のデータが格納されている。

属性一意性 (attribute uniqueness)

指定した2つの属性に同じ値が含まれていないようにする Oracle Internet Directory 機能。企業ディレクトリと同期しているアプリケーションで、属性を一意キーとして使用することを可能にする。

属性構成ファイル (attribute configuration file)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、接続ディレクトリに関係のある属性を指定するファイル。

属性値 (attribute value)

エントリで表出される情報の特定の値。たとえば、jobTitle 属性に対する値には manager がある。

属性の型 (attribute type)

属性に含まれている情報の種類 (例: jobTitle)。

その他の情報リポジトリ (other information repository)

Oracle Internet Directory 以外のすべての情報リポジトリ。Oracle Directory Integration Platform 環境では、Oracle Internet Directory が**中央ディレクトリ**として機能する。

待機時間 (latency)

指定したディレクトリ操作が完了するまでのクライアントの待機時間。待機時間は、空費時間として定義される場合がある。ネットワーク通信では、待機時間は、ソースから宛先へパケットが移動する時間として定義される。

待機時間 (wait time)

リクエストの発行からレスポンスの開始までの時間。

単一鍵ペア Wallet (single key-pair wallet)

単一のユーザー**証明書**とその関連する**秘密鍵**が含まれる **PKCS #12** 形式の **Wallet**。**公開鍵**は証明書に埋め込まれている。

中央ディレクトリ (central directory)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、中央リポジトリとして機能するディレクトリ。Oracle Directory Integration Platform 環境では、Oracle Internet Directory が中央ディレクトリになる。

データ整合性 (data integrity)

受信メッセージの内容が、送信時の元のメッセージの内容から変更されていないことを保証すること。

ディレクトリ固有のエントリ (directory-specific entry: DSE)

ディレクトリ・サーバー固有のエントリ。異なるディレクトリ・サーバーに同じディレクトリ情報ツリー名を保持できるが、内容は異なる必要がある。つまり、DSE を保持しているディレクトリに固有の内容を保持できる。DSE は、それを保持しているディレクトリ・サーバーに固有の内容を含むエントリである。

ディレクトリ・サーバー・インスタンス (directory server instance)

ディレクトリ・サーバーの個々の起動のこと。異なるディレクトリ・サーバーの起動（それぞれ、同じまたは異なる構成設定エントリと起動フラグで起動）は、異なるディレクトリ・サーバー・インスタンスと呼ばれる。

ディレクトリ・システム・エージェント (directory system agent: DSA)

ディレクトリ・サーバーを表す X.500 の用語。

ディレクトリ情報ツリー (directory information tree: DIT)

エントリの DN で構成されるツリー形式の階層構造。

ディレクトリ情報ベース (directory information base: DIB)

ディレクトリに保持されているすべての情報の完全なセット。DIB は、[ディレクトリ情報ツリー](#)内で、階層的に相互に関連するエントリで構成されている。

ディレクトリ同期プロファイル (directory synchronization profile)

Oracle Internet Directory と外部システム間の同期の実現方法を記述した特殊な[ディレクトリ統合プロファイル](#)。

ディレクトリ統合サーバー (directory integration server)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、Oracle Internet Directory と[接続ディレクトリ](#)との間でデータの同期化を実行するサーバー。

ディレクトリ統合プロファイル (directory integration profile)

Oracle Directory Integration Platform 環境での、Oracle Directory Integration Platform による外部システムとの通信方法および通信内容を示す Oracle Internet Directory のエントリ。

ディレクトリ・ネーミング・コンテキスト (directory naming context)

「[ネーミング・コンテキスト](#)」を参照。

ディレクトリ・プロビジョニング・プロファイル (directory provisioning profile)

Oracle Directory Integration Platform がディレクトリ対応アプリケーションに送信するプロビジョニング関連通知の性質を記述した特殊な[ディレクトリ統合プロファイル](#)。

ディレクトリ・レプリケーション・グループ (directory replication group: DRG)

レプリケーション承諾のメンバーであるディレクトリ・サーバーの集合。

デフォルト ID 管理レルム (default identity management realm)

ホスティングされた環境では、アプリケーション・サービス・プロバイダなどの 1 企業が、他の複数の企業に Oracle コンポーネントを使用可能にして、その情報を格納する。このようなホスティングされた環境では、ホスティングしている企業はデフォルト ID 管理レルムと呼ばれ、ホスティングされている企業はそれぞれディレクトリ情報ツリー内のその企業独自の ID 管理レルムに関連付けれる。

デフォルト・ナレッジ参照 (default knowledge reference)

ベース・オブジェクトがディレクトリになく、操作がサーバーによってローカルに保持されていないネーミング・コンテキストで実行されたときに戻される[ナレッジ参照](#)。デフォルト・ナレッジ参照は、一般的にディレクトリ・パーティション化対策についてより多くのナレッジを持つサーバーに送信する。

デフォルト・レルム位置 (default realm location)

デフォルト ID 管理レルムのルートを識別するルート Oracle コンテキストでの属性。

同時クライアント数 (concurrent clients)

Oracle Internet Directory とのセッションを確立しているクライアントの総数。

同時実行性 (concurrency)

複数のリクエストを同時に処理できる機能。同時実行性メカニズムの例には、スレッドおよびプロセスなどがある。

同時操作数 (concurrent operations)

すべての同時クライアントの要求に基づいてディレクトリで実行されている操作の数。一部のクライアントではセッションがアイドル状態の可能性があるので、この数は同時クライアントの数と必ずしも同じではない。

特定管理領域 (specific administrative area)

次の3つの側面を制御する管理領域。

- サブスキーマ管理
- アクセス制御管理
- 共通属性管理

特定管理領域では、この3つの管理の側面のうち1つが制御される。特定管理領域は、自律型管理領域の一部である。

匿名認証 (anonymous authentication)

ディレクトリがユーザー名とパスワードの組合せを要求せずにユーザーを認証するプロセス。各匿名ユーザーは、匿名ユーザー用に指定された権限を行使する。

トラスト・ポイント (trustpoint)

「[信頼できる証明書](#)」を参照。

ナレッジ参照 (knowledge reference)

リモート [DSA](#) に関するアクセス情報 (名前とアドレス) およびそのリモート DSA が保持している [DIT](#) のサブツリーの名前。ナレッジ参照は、参照とも呼ばれる。

ニックネーム属性 (nickname attribute)

ディレクトリ全体のユーザーを一意に識別するために使用する属性。この属性のデフォルト値は uid。アプリケーションでは、この属性を使用して単純なユーザー名が完全な識別名に変換される。ユーザー・ニックネーム属性を複数値にはできない。つまり、ユーザーは同じ属性名で格納される複数のニックネームを所有できない。

認可 (authorization)

オブジェクトまたはオブジェクトのセットへのアクセスのためにユーザー、プログラムまたはプロセスに与えられる許可。

認証 (authentication)

コンピュータ・システム内のユーザー、デバイスまたはその他のエンティティの識別情報を検証するプロセス。多くの場合、システム内のリソースへのアクセスを許可する前提条件として使用される。

認証局 (certificate authority: CA)

他のエンティティ (ユーザー、データベース、管理者、クライアント、サーバーなど) が本物であることを証明する、信頼性できるサード・パーティ。認証局は、ユーザーの識別情報を検証し、認証局の秘密鍵を使用して署名した証明書を発行する。

ネーミング・コンテキスト (naming context)

完全に1つのサーバーに常駐しているサブツリー。サブツリーは連続している必要がある。つまり、サブツリーの最上位の役割を果すエントリから始まり、下位方向にリーフ・エントリまたは従属ネーミング・コンテキストへの [ナレッジ参照](#) (参照とも呼ばれる) のいずれかまでを範囲とする必要がある。単一のエントリからディレクトリ情報ツリー全体までを範囲とすることができる。

ネーミング属性 (naming attribute)

Oracle Delegated Administration Services または Oracle Internet Directory Java API を使用して作成した新規ユーザー・エントリの相対識別名を構成するために使用する属性。この属性のデフォルト値は cn。

ネット・サービス名 (net service name)

接続記述子に変換されるサービスの単純な名前。ユーザーは、接続するサービスに対する接続文字列内のネット・サービス名に従ってユーザー名とパスワードを渡すことによって、接続リクエストを開始する。次に例を示す。

```
CONNECT username/password@net_service_name
```

必要に応じて、ネット・サービス名は次のような様々な場所に格納できる。

- 各クライアントのローカル構成ファイル (tnsnames.ora)
- ディレクトリ・サーバー
- Oracle Names Server
- NDS、NIS、CDS などの外部ネーミング・サービス

パーティション (partition)

一意の重複していないディレクトリ・ネーミング・コンテキスト。1つのディレクトリ・サーバーに格納されている。

バインド (binding)

ディレクトリに対して認証を行うプロセス。

ハッシュ (hash)

アルゴリズムを使用してテキスト文字列から生成される数値。ハッシュ値は、テキスト文字列より大幅に短くなる。ハッシュの数値は、セキュリティの目的とデータに対する高速アクセスの目的で使用する。

ハンドシェイク (handshake)

2台のコンピュータが通信セッションを開始するために使用するプロトコル。

秘密鍵 (private key)

公開鍵暗号における秘密鍵。主に復号化に使用されるが、デジタル署名とともに暗号化にも使用される。

平文 (plaintext)

暗号化されていないメッセージ・テキスト。

ファンアウト・レプリケーション (fan-out replication)

ポイント・ツー・ポイント・レプリケーションとも呼ばれる。サブライヤがコンシューマに直接レプリケートするレプリケーションのタイプ。コンシューマは1つ以上の他のコンシューマにレプリケートできる。レプリケーションには、完全レプリケーションと部分レプリケーションがある。

フィルタ (filter)

データ（通常、検索対象のデータ）を限定する方法。フィルタは、cn=susie smith,o=acme,c=us のように常に識別名で表される。

フェイルオーバー (failover)

障害を認識し、リカバリする処理。Oracle Application Server コールド・フェイルオーバー・クラスタ (ID 管理) では、1つのクラスタ・ノード上で実行されているアプリケーションは、他のクラスタ・ノードに透過的に移行される。この移行時に、クラスタ上のサービスにアクセスするクライアントは一時的に接続できず、フェイルオーバーが完了した後、再接続する必要がある場合がある。

復号化 (decryption)

暗号化されたメッセージ（暗号文）の内容を、元の可読書式（平文）に変換する処理。

プライマリ・ノード (primary node)

Oracle Application Server コールド・フェイルオーバー・クラスタ (ID 管理) で、指定した時間にアプリケーションが実行されるクラスタ・ノード。

関連項目: 用語集 -12 ページの「[セカンダリ・ノード](#)」

プロキシ・ユーザー (proxy user)

通常、ファイアウォールなどの中間層を備えた環境で利用されるユーザー。このような環境では、エンド・ユーザーは中間層に対して認証を行う。この結果、中間層はエンド・ユーザーにかわってディレクトリにログインする。プロキシ・ユーザーには ID を切り替える権限があり、一度ディレクトリにログインすると、エンド・ユーザーの ID に切り替える。次に、その特定のエンド・ユーザーに付与されている認可を使用して、エンド・ユーザーのかわりに操作を実行する。

プロビジョニング・アプリケーション (provisioned applications)

ユーザーおよびグループの情報が Oracle Internet Directory に一元化される環境にあるアプリケーション。これらのアプリケーションは、一般的に Oracle Internet Directory 内の該当する情報に対する変更に関心がある。

プロビジョニング・エージェント (provisioning agent)

Oracle 固有のプロビジョニング・イベントを外部またはサード・パーティのアプリケーション固有のイベントに変換するアプリケーションまたはプロセス。

プロファイル (profile)

「[ディレクトリ統合プロファイル](#)」を参照。

変更ログ (change logs)

ディレクトリ・サーバーに加えられた変更を記録するデータベース。

ポイント・ツー・ポイント・レプリケーション (point-to-point replication)

ファンアウト・レプリケーション (fan-out replication) とも呼ばれる。サブライヤがコンシューマに直接レプリケートするレプリケーションのタイプ。コンシューマは1つ以上の他のコンシューマにレプリケートできる。レプリケーションには、完全レプリケーションと部分レプリケーションがある。

マスター・サイト (master site)

レプリケーションにおいて、マスター定義サイト以外のサイトで、LDAP レプリケーションのメンバーであるサイト。

マスター定義サイト (master definition site: MDS)

レプリケーションにおいて、管理者が構成スクリプトを実行する Oracle Internet Directory のデータベース。

マッピング・ルール・ファイル (mapping rules file)

Oracle Directory Integration Platform 環境で、Oracle Internet Directory 属性と[接続ディレクトリ](#)の属性との間のマッピングを指定するファイル。

マルチマスター・レプリケーション (multimaster replication)

peer-to-peer または n-way レプリケーションとも呼ばれる。同等に機能する複数のサイトがレプリケートされたデータのグループを管理できるようにするレプリケーションのタイプ。マルチマスター・レプリケーション環境では、各ノードはサブライヤ・ノードであると同時にコンシューマ・ノードであり、各ノードでディレクトリ全体がレプリケートされる。

メタディレクトリ (metadirectory)

企業のすべてのディレクトリ間で情報を共有するディレクトリ・ソリューション。すべてのディレクトリを1つの仮想ディレクトリに統合する。集中的に管理できるため、管理コストを削減できる。ディレクトリ間でデータが同期化されるため、企業内のデータに一貫性があり最新であることが保証される。

ユーザー検索ベース (user search base)

Oracle Internet Directory のデフォルトのディレクトリ情報ツリーで、すべてのユーザーが配置される ID 管理レルムのノード。

猶予期間ログイン (grace login)

パスワード期限切れ前の指定された期間内に行われるログイン。

リモート・マスター・サイト (remote master site: RMS)

レプリケート環境における **マスター定義サイト** 以外のサイトで、Oracle Database アドバンスド・レプリケーションのメンバーであるサイト。

リレーショナル・データベース (relational database)

構造化されたデータの集合。同一の列のセットを持つ1つ以上の行で構成される表にデータが格納される。Oracle では、複数の表のデータを容易にリンクできる。このため、Oracle はリレーショナル・データベース管理システム、すなわち RDBMS と呼ばれる。Oracle はデータを複数の表に格納し、さらに表間の関係を定義できる。このリンクは両方の表に共通の、1つ以上のフィールドに基づいて行われる。

ルート DSE (root DSE)

「[ルート・ディレクトリ固有のエントリ](#)」を参照。

ルート Oracle コンテキスト (Root Oracle Context)

Oracle Identity Management インフラストラクチャでは、ルート Oracle コンテキストは、インフラストラクチャのデフォルト ID 管理レルムへのポインタを含む Oracle Internet Directory のエントリである。単純な名前を指定して ID 管理レルムの位置を特定する方法の詳細も含まれる。

ルート・ディレクトリ固有のエントリ (root directory specific entry)

ディレクトリに関する操作情報を格納するエントリ。情報は複数の属性に格納されている。

レジストリ・エントリ (registry entry)

Oracle ディレクトリ・サーバーの起動 (**ディレクトリ・サーバー・インスタンス** と呼ばれる) に関連する実行時情報が含まれているエントリ。レジストリ・エントリはディレクトリ自体に格納され、対応するディレクトリ・サーバー・インスタンスが停止するまで保持される。

レスポンス時間 (response time)

リクエストの発行からレスポンスの完了までの時間。

レプリカ (replica)

ネーミング・コンテキストの個々のコピー。1つのサーバー内に格納されている。

レプリケーション承諾 (replication agreement)

ディレクトリ・レプリケーション・グループ 内のディレクトリ・サーバー間におけるレプリケーションの関係を記述する特別なディレクトリ・エントリ。

レルム検索ベース (realm search base)

すべての ID 管理レルムを含むディレクトリ情報ツリー内のエントリを識別するルート Oracle コンテキストでの属性。この属性は、単純なレルム名をディレクトリ内の対応するエントリにマッピングする際に使用される。

論理ホスト (logical host)

Oracle Application Server コールド・フェイルオーバー・クラスタ (ID 管理) で、1 つ以上のディスク・グループおよびホスト名と IP アドレスのペア。論理ホストは、クラスタ内の物理ホストにマップされる。この物理ホストは、論理ホストのホスト名と IP アドレスを使用する。

索引

D

Delegated Administration Services

- Java サブレット, ログ・ファイルの位置, 1-8
 - OC4J, 1-3
 - Oracle HTTP Server, ログ・ファイルの位置, 1-8
 - Oracle Process Manager and Notification Server
 - ログ・ファイルの位置, 1-8
 - アーキテクチャ, 1-4
 - アプリケーションの作成, 2-2
 - 安全なディレクトリへのアクセス, 1-4
 - インストールと構成, 1-5
 - 稼働しているかどうかの確認, 1-7
 - 管理, 2-1
 - 起動と停止, 1-8
 - グループ・エン트리, 2-3
 - 構成
 - 新しい Oracle ホーム, 2-4
 - 既存の Oracle ホーム, 2-3
 - 複数インスタンスのロード・バランサ, 2-6
 - 別の DNS ドメインのロード・バランサ, 2-6
 - レプリケート環境, 2-6
 - 手動配置, 2-4
 - 定義, 1-2
 - ディレクトリ・データ管理の委任, 1-3
 - 動作, 1-3
 - プロキシ・ユーザーの一元化, 1-4
 - ユーザー・エン트리, 2-2
 - ログ・ファイルの位置, 1-8
- Delegated Administration Services のインストール, 1-5
- Delegated Administration Services の管理, 2-1
- Delegated Administration Services の動作, 1-3

I

- Identity Management Grid Control プラグイン,
Delegated Administration Services の起動および停止, 1-9
- ID 管理レルム
- 親 DN の構成, 5-4
 - 管理, 5-3
 - 構成, 5-3
 - 構成の表示, 5-5
 - 作成, 5-5

J

- Java サブレット・ログ・ファイルの位置, 1-8

O

- OC4J
- Delegated Administration Services で使用, 1-3
- OPMN
- ログ・ファイル, B-3
- Oracle Application Server, 稼働しているかどうかの確認, 1-7
- Oracle Containers for J2EE
- ログ・ファイル, B-2
- Oracle Delegated Administration Services
- トラブルシューティング, B-1
 - ログ・ファイル, B-2
- Oracle Delegated Administration Services に関するトラブルシューティング, B-1
- Oracle Enterprise Manager 10g Application Server Control コンソール, Delegated Administration Services の起動および停止, 1-9
- Oracle HTTP Server
- 稼働しているかどうかの確認, 1-7
 - ログ・ファイル, B-2
 - ログ・ファイルの位置, 1-8
- Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソール, 3-1
- ID 管理レルム
- 親 DN の構成, 5-4
 - 管理, 5-3
 - 構成, 5-3
 - 構成の表示, 5-5
 - 作成, 5-5
- 拡張検索, 3-3
- 管理
- プロファイル, 4-1
 - リソース情報, 4-4
- 起動と停止, 3-2
- グループ・エン트리
- 管理, 5-12
 - 権限の割当て, 5-13
 - 削除, 5-13
 - 作成, 5-12
 - 表示, 5-12
 - 変更, 5-12
- 検索
- 拡張, 3-3
 - グループ・エン트리, 3-3
 - ユーザー・エン트리, 3-3
- サービス
- 管理, 5-13

- サブスクリプション情報の変更, 5-15
- 説明, 5-14
- プロパティの変更, 5-14
- 削除
 - リソース・アクセス情報, 4-5
- 説明, 5-2
- パスワードの再設定, 4-3
- 表示
 - 組織図, 4-4
 - プロファイル, 4-2
- プロファイルの編集, 4-2
- 変更
 - タイムゾーン設定, 4-4
 - パスワードとパスワード・ヒント, 4-2
 - リソース・アクセス情報, 4-5
- 問題の診断, B-4
- ユーザー・アカウント
 - 管理, 5-16
 - 無効化, 5-17
 - 有効化, 5-16
 - ロック解除, 5-16
- ユーザー・インタフェースの要素, A-1
- ユーザー・エントリ
 - 管理, 5-5
 - 権限の割当て, 5-10
 - 構成, 5-6
 - 削除, 5-10
 - 作成, 5-8
 - パスワードの変更, 5-11
 - バルク管理, 5-10
 - 表示, 5-8
 - 変更, 5-9
 - リセット検証質問の指定, 5-11
- リソース・アクセス情報の作成, 4-5
- リソース情報
 - 管理, 5-17
 - 構成, 5-18
 - 削除, 5-18
 - 指定, 5-17
 - 変更, 5-18
- ログイン, 3-2
- Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールへのログイン, 3-2
- Oracle Process Manager and Notification Server
 - ログ・ファイルの位置, 1-8
- Oracle Process Manager and Notification Server, ログ・ファイルの位置, 1-8

S

- SSO ログイン問題, トラブルシューティング, B-8
- SSO ログイン問題に関するトラブルシューティング, B-8

あ

- アーキテクチャ, Delegated Administration Services, 1-4
- アカウント
 - 管理, 5-16
 - 無効化, 5-17
 - 有効化, 5-16
 - ロック解除, 5-16

- アカウントのロック解除, 5-16
- アプリケーションの診断設定およびロギング設定, B-4
- 安全なディレクトリへのアクセスと Delegated Administration Services, 1-4

い

- 委任管理, 概要, 1-2
- 委任管理の概要, 1-2

え

- エラー・メッセージ, 解釈, B-7
- エラー・メッセージの解釈, B-7

か

- 拡張検索, 3-3
- 確認
 - Delegated Administration Services の稼働状況, 1-7
 - Oracle Application Server の稼働状況, 1-7
 - Oracle HTTP Server の稼働状況, 1-7
- 管理
 - ID 管理レلم, 5-3
 - アカウント, 5-16
 - グループ・エントリ, 5-12
 - サービス, 5-13
 - バルクでのユーザー・エントリ, 5-10
 - プロファイル, 4-1
 - ユーザー・アカウント, 5-16
 - ユーザー・エントリ, 5-5
 - リソース・アクセス情報, 4-4
 - リソース情報, 5-17

き

- 起動
 - Delegated Administration Services, 1-8
 - Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソール, 3-2

く

- グループ・エントリ
 - Delegated Administration Services, 2-3
 - 管理, 5-12
 - 権限の割当て, 5-13
 - 検索, 3-3
 - 削除, 5-13
 - 作成, 5-12
 - 表示, 5-12
 - 変更, 5-12

け

- 権限の割当て
 - グループ・エントリ, 5-13
 - ユーザー・エントリ, 5-10
- 検索
 - 拡張, 3-3
 - グループ・エントリ, 3-3
 - ユーザー・エントリ, 3-3

こ

構成

- Delegated Administration Services, 1-5
 - Delegated Administration Services (別の DNS ドメインのロード・バランサを使用), 2-6
 - Delegated Administration Services の複数インスタンスのロード・バランサ, 2-6
 - ID 管理レلم, 5-3
 - ID 管理レلمの親 DN, 5-4
 - 新しい Oracle ホームでの Delegated Administration Services, 2-4
 - アプリケーションの診断設定およびロギング設定, B-4
 - 既存の Oracle ホームでの Delegated Administration Services, 2-3
 - セッション・レベルの診断設定, B-5
 - ユーザー・エン트리, 5-6
 - ユニット・レベルの診断設定, B-5
 - リソース情報, 5-18
 - レプリケート環境での Delegated Administration Services, 2-6
- コマンドライン, Delegated Administration Services の起動および停止, 1-8
- コンポーネント, Delegated Administration Services, 1-4

さ

サービス

- 管理, 5-13
- サブスクリプションの変更, 5-15
- 説明, 5-14
- プロパティの変更, 5-14

サービス・ユニット

- 問題の診断, B-8

削除

- グループ・エン트리, 5-13
- ユーザー・エン트리, 5-10
- リソース・アクセス情報, 4-5
- リソース情報, 5-18

作成

- ID 管理レلم, 5-5
- アプリケーション (Delegated Administration Services を使用), 2-2
- グループ・エン트리, 5-12
- ユーザー・エン트리, 5-8

し

診断

- Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールに関する問題, B-4
- サービス・ユニットに関する問題, B-8

せ

- セッション・バインディング, 2-6
- セッション・レベルの診断設定, 表示と構成, B-5
- セルフ・サービス・コンソール, Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソールを参照

そ

- 組織図, 表示, 4-4

た

- タイムゾーン設定, 変更, 4-4

て

停止

- Delegated Administration Services, 1-8
- Oracle Internet Directory セルフ・サービス・コンソール, 3-2
- ディレクトリ・データ管理の委任, 1-3
- デバッグ, 有効化, B-3

と

- ドメイン間起動の問題, 解決策, B-8
- ドメイン間起動の問題の解決策, B-8

は

- バインディング, セッション, 2-6
- パスワード
 - 再設定, 4-3
 - 変更, 4-2, 5-11
- パスワードの再設定, 4-3
- パスワード・ヒント, 変更, 4-2
- バランサ, ロード, 2-6

ひ

表示

- ID 管理レلمの構成, 5-5
- アプリケーションの診断設定およびロギング設定, B-4
- グループ・エン트리, 5-12
- セッション・レベルの診断設定, B-5
- 組織図, 4-4
- プロファイル, 4-2
- ユーザー・エン트리, 5-8
- ユニット・レベルの診断設定, B-5

ふ

プロキシ・ユーザー

- Delegated Administration Services での一元化, 1-4
- プロファイル
 - 管理, 4-1
 - 表示, 4-2
 - 編集, 4-2
- プロファイルの編集, 4-2

へ

変更

- グループ・エン트리, 5-12
- サービス受信者に関するサブスクリプション情報, 5-15
- サービス・プロパティ, 5-14
- タイムゾーン設定, 4-4

パスワードとパスワード・ヒント, 4-2
ユーザー・エントリ, 5-9
ユーザー・エントリのパスワード, 5-11
リソース・アクセス情報, 4-5
リソース情報, 5-18

ほ

ポップアップ・ウィンドウのブロック, 対応, B-8
ポップアップ・ウィンドウのブロックへの対応, B-8

ゆ

有効化

デバッグ, B-3
ユーザー・アカウント, 5-16

ユーザー・アカウント

ロック解除, 5-16

ユーザー・アカウント, 管理, 5-16

ユーザー・アカウントの無効化, 5-17

ユーザー・アカウントのロック解除, 5-16

ユーザー・インタフェースの要素, Oracle Internet

Directory セルフ・サービス・コンソール, A-1

ユーザー・エントリ

Delegated Administration Services, 2-2

管理, 5-5

権限の割当て, 5-10

検索, 3-3

構成, 5-6

削除, 5-10

作成, 5-8

バルク管理, 5-10

表示, 5-8

変更, 5-9

リセット検証質問の指定, 5-11

ユーザー・エントリのバルク管理, 5-10

ユーザー・パスワード, 変更, 5-11

ユニット・レベルの診断設定, 表示と構成, B-5

り

リソース・アクセス情報

削除, 4-5

作成, 4-5

変更, 4-5

リソース情報

管理, 4-4, 5-17

構成, 5-18

削除, 5-18

指定, 5-17

変更, 5-18

リソース情報の指定, 5-17

れ

レプリケート環境, Delegated Administration Services
の構成, 2-6

ろ

ロード・バランサ, 2-6

ログインに関する問題の診断, B-6

ログインの問題, 診断, B-6

ログ・ファイル

OPMN, B-3

Oracle Containers for J2EE, B-2

Oracle Delegated Administration Services, B-2

Oracle HTTP Server, B-2

位置, 1-8

分析, B-2

ログ・ファイルの分析, B-2